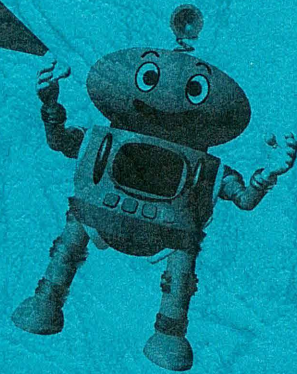


国立国語研究所
ことばビデオ

ことば探検・

ことば発見

解説書



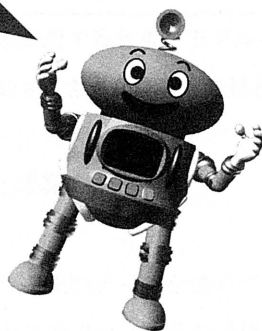
国立国語研究所

国立国語研究所
ことばビデオ

ことば探検・

ことば発見

解説書



国立国語研究所

はじめに

ことばに関するビデオ作品の企画・制作

国立国語研究所では、次代を担う国民に、平明で、的確で、豊かな日本語について考える機会を提供し、場面や目的に応じて適切なことばを使う意識を高めることを目的として、ことばに関するビデオ作品を企画・制作した。

平成12年度の作品「ことば探検・ことば発見」は、小学校・中学校の児童・生徒に視聴され、新しい学習指導要領の「総合的な学習の時間」などに活用されることを考慮して、児童・生徒のことばへの興味と関心を喚起し、日本語の豊かさや的確な表現の魅力に気づかせることを目指している。

実践編と素材編の二部構成で、それぞれの内容は次のとおりである。

【ことば探検・ことば発見】(46分)

| 実践編「気象科学館で調べよう」(23分) | 素材編「あんな日本語・こんな日本語」(23分) |
|----------------------|-------------------------|
| ☆ 課題発見のきっかけ | ☆ 思いやりのある日本語 |
| ☆ 調べ方の話し合い | ☆ 元気のいい日本語 |
| ☆ 気象予報士に取材する | ☆ 表情豊かな日本語 |
| ☆ 身近な大人に取材する | ☆ 想像がふくらむ日本語 |
| ☆ 報告・発表・話し合い | |
| ☆ ことば探究への発展 | |

実践編は、ことばに興味と関心を持って「ことば調べ」を実践するときのモデルを提供する。

素材編は、「ことば調べ」にとりかかる糸口として、日本語のさまざまな側面を素材として提供する。

国立国語研究所ことばビデオ【ことば探検・ことば発見】

●実践編「気象科学館で調べよう」のねらい

日常の素朴な疑問をきっかけに課題を見つけ出し、探究のテーマを決めて、ことばを調べることによって、日本語の豊かさ、不思議さ、奥深さを実感させる。その過程をとおして、情報収集、話し合い、取材(インタビュー)、報告・発表など、総合的な学習の基本的な言語活動を身につけさせる。

●素材編「あんな日本語・こんな日本語」のねらい

人への心くばりを表現する日本語、作業や運動をするときの威勢や活気にあふれる日本

語、心情や意図を伝える表情豊かな日本語、詩的表現によって想像がふくらむ日本語など、ことばやコミュニケーションのさまざまな側面を素材として提示し、その魅力に気づかせる。

目 次

| | | |
|-----------------|-----------------------|-------|
| はじめに | | P.1 |
| ビデオと解説書の活用にあたって | | P.3 |
| シナリオ | 実践編【気象科学館で調べよう】 | P.7 |
| | 素材編【あんな日本語・こんな日本語】 | P.24 |
| 自然科学と暮らしを結ぶことば | 気象情報のことば | P.44 |
| | 暮らしに生きる天候のことば | P.59 |
| | 天候に関することわざ | P.71 |
| 話しことばコミュニケーション | 敬語や敬意表現の使い方 | P.74 |
| | コミュニケーション能力を育てる敬語行動教育 | P.78 |
| 豊かな日本語 | 思いやりのある日本語 | P.90 |
| | 元気のいい日本語 | P.94 |
| | 表情豊かな日本語 | P.99 |
| | 想像がふくらむ日本語 | P.103 |
| 指導の手引き | 実践編【気象科学館で調べよう】 | P.105 |
| | 素材編【あんな日本語・こんな日本語】 | P.115 |
| コラム① | 「雨」の読み方と語の構成 | P.58 |
| コラム② | 全国ネットの気象庁 | P.104 |

ビデオと解説書の活用にあたって

1. ビデオの活用にあたって

● 総合的な学習の時間に向けて

☆児童・生徒が興味を持つテーマを見つけて、自発的に探究するための導入として活用できる。

☆情報収集、話し合い、取材（インタビュー）、報告・発表などに必要なコミュニケーション能力を身につけるモデルとして活用できる。

☆実践編は「科学のことば」を調べる場合だけでなく、さまざまな対象の探求や調査に応用できる。

☆素材編は、ことばやコミュニケーションのさまざまな側面を素材として提供しているので、総合的な学習の時間で取り組むテーマを見つける糸口になる。

☆言語研究への入門、特に、話しことばコミュニケーション研究や教育への入門に活用できる。

● 総合的な学習の時間以外の教科学習に向けて

☆話しことばコミュニケーション、音声言語、科学のことば、社会方言、詩の朗読などを、音声と映像でとらえているので、国語の時間にも活用できる。

☆実践編では気象情報のことばと合わせて、気象科学も取り上げているので、理科の時間にも活用できる。

☆素材編では卸売市場や海上保安庁など、さまざまな職域のコミュニケーションを仕事と関連付けて取り上げているので、社会の時間にも活用できる。

● 教育研究・教師研修に向けて

☆総合的な学習の時間への取り組みを検討する、教育研究や教師研修に活用できる。

☆児童・生徒のコミュニケーション能力を育てる話しことば教育の研究に活用できる。

● 活用にあたっての工夫

☆実践編・素材編を通して視聴すると46分かかるので、一括視聴にこだわらず、必要な部分を分割して視聴するなど、柔軟な活用の工夫が求められる。

☆実践編・素材編ともに、ビデオ視聴だけでは理解が行き届かない高度な内容が含まれているので、必要な部分を分割して視聴し、その前後で十分な解説を加えるなどの工夫が求められる。

☆ビデオ視聴に合わせて、解説書を参考にした教材を準備するなどの工夫が求められる。

2. 解説書の活用にあたって

● ビデオ視聴の指導書としての活用

☆充実した内容になっているので、解説書だけでも「ことば探検・ことば発見」の自律学習の指導に活用できる。

☆シナリオの右欄に示した「指導への展開」は、その場面での解説書の参考箇所を、同じく「指導の手引き」は解説書「指導の手引き」の参考箇所を表している。

● 言語教育の入門書としての活用

☆話しことばコミュニケーション能力を育てる言語教育の入門書として活用できる。

☆ことばを探究する自律学習の指導参考書としても活用できる。

● 言語研究の入門書としての活用

☆話しことばコミュニケーション研究の概説や、音声言語、専門語、社会方言などについての解説が充実しているので、言語研究やコミュニケーション研究の入門書としても活用できる。

☆言語研究のための調査や情報収集の方法についての入門書としても活用できる。

シナリオ

ことば探検・ことば発見

□ 企 画・制 作

国 立 国 語 研 究 所

映像作品作成委員会

| | |
|------------------|--|
| 吉 岡 泰 夫 (委員長) | 国立国語研究所・言語変化研究部長 |
| 加 藤 昌 男 | NH K放送研修センター 日本語センター・エグゼクティブ・アナウンサー |
| 興 水 かおり | 東京都港区教育委員会指導室・指導主事 |
| 小 森 茂 | 文部科学省初等中等教育局教育課程課・教科調査官 |
| 品 田 雄 吉 | 映画評論家・多摩美術大学名誉教授 |
| 山 田 敦 子 | 東京都板橋区立上板橋第二小学校・教頭 |
| 相 澤 正 夫 | 国立国語研究所・言語体系研究部長 |
| 杉 戸 清 樹 | 国立国語研究所・言語行動研究部長 |
| 中 山 典 子 | 国立国語研究所・言語変化研究部研究員 |

□ 製 作

毎 日 映 画 社

| | |
|---------|--|
| 制 作 | 春 本 幸 洋 |
| プロデューサー | 橋 本 淳 |
| 脚本 | 高 原 貞 夫 原 英 晴 |
| 監 督 | 原 田 雅 信 実践編・素材編①担当 大 石 誠 素材編②③④担当 |
| 撮 影 | 小 金 沢 輝 明 |
| 照 明 | 相 田 隆 久 祐 村 徹 夫 |
| 録 音 | 中 村 裕 司 小 出 正 一 |
| メ イ ク | 松 本 美 奈 子 |

| | |
|---------------|----------------------|
| 車 輜 | 若 林 艶 一 |
| 俳優 マネージメント | 須 釜 重 美 (希楽星) |
| 選 曲 | 原 田 慎 也 (メディアハウス) |
| 演出助手 | 大 内 史 子 古 谷 吉 功 |
| 撮影助手 | 中 野 高 良 |
| 編集オペレーター | 平 一 博 (テレットップ) |
| 録音ミキサー | 伊 東 恵 一 (テレットップ) |
| 編集MAスタジオ | テレットップ |

□ 協 力

気 象 庁

東京都板橋区立上板橋第二小学校

財団法人 日本消防協会

武蔵越生高等学校

東京都武蔵野市立本宿小学校

本宿シルバースワローズ

東京都中央卸売市場

大都魚類株式会社

麻布四の橋・花すし

海上保安庁・海上保安学校

東京テレビセンター

東京都杉並区立中央図書館

丹羽真理恵

【実践編】 気象科学館で調べよう

出 演 日本気象協会 気象予報士 高田 齊

配 役

| 役名 | 性別 | 年齢 | 職種・他 | 俳優 |
|----------|----|----|--------|--------|
| 遼一 | 男 | | 小学6年生 | 佐川 寿光 |
| 翔吾 | 男 | | 小学6年生 | 田淵 諒 |
| 誠 | 男 | | 小学6年生 | 吉田 真央 |
| 綾音 | 女 | | 小学6年生 | 肥田 真寿美 |
| 香帆 | 女 | | 小学6年生 | 大桃 文音 |
| 遼一の父 | 男 | 44 | サラリーマン | 神崎 智孝 |
| 遼一の母 | 女 | 41 | 専業主婦 | 上原 由恵 |
| 遼一の祖父 | 男 | 78 | 農家 | 庄司 永建 |
| W男 | 男 | | 小学6年生 | 山田 晃裕 |
| X男 | 男 | | 小学6年生 | 矢嶋 勝貴 |
| Y子 | 女 | | 小学6年生 | 石川 有沙 |
| 男子児童1 | 男 | | 小学6年生 | 荒 和也 |
| 男子児童2 | 男 | | 小学6年生 | 甲田 研人 |
| 女子児童1 | 女 | | 小学6年生 | 嶋村 瞳 |
| 女子児童2 | 女 | | 小学6年生 | 鶴岡 咲枝 |
| 女子児童3 | 女 | | 小学6年生 | 常泉 遙佳 |
| 担任教師 | 男 | 36 | | 有村 圭助 |
| お天気キャスター | | 31 | | 菊原 祐太郎 |

他エキストラ女子児童4

1 きっかけ

1 朝・遼一の家

ダイニングキッチンで朝食をとっている遼一。

テレビが天気予報を流している。

テレビの天気予報のキャスター 「今日の天気です。

今日は昨日に引き続き、穏やかな朝を迎えました。

しかし、前線を伴った低気圧が、明日にかけて東に進む見込みです・・・」

朝食に夢中の遼一に、入ってきた父が声をかける。

父 「ほら、のんびり食べてたら、遅刻しちゃうぞ！」

遼一 「うん・・・(何気なくTVに目をやる)」

テレビのキャスター 「・・・その影響で、関東地方でも所により一時雨になるでしょう・・・」

遼一 「1時に雨？」

テレビ画面が、週間予報にかわる。

父 「なんだ、土曜日は雨か・・・」

母 「またテニスできないわね」

父 「先週もダメだったからな」

母 「あれはひどかったわね」

父 「バケツの水をひっくり返したような降り方だもんな」

母 「(腕を振って) わたし、腕がなまっちゃうわ」

2 タイトル【気象科学館で調べよう】

遼一の家・玄関先

元氣よく自宅の玄関を出てくる遼一。

遼一 「行ってきます！」

遼一を追いかけて、慌てて出てくる母親。

母 「雨の予報よ、傘を持ってらっしゃい！」

母親の声に返事はない。

指導への展開

・気象情報のことば

(P.44～)

指導の手引き 1

(P.108)

指導の手引き 2

(P.108)

指導の手引き 3

(P.108)

3 タイトル【気象科学館で調べよう】

雨にぬれる木の葉。

タイトルが重なる。

4 学校の理科教室

午後の授業、窓が雨にぬれている。

遼一のクラス担任、窓外を見やって。

先生 「雨か・・・」

その声を聞いた遼一、外に目をやる。

5 校舎の出口

児童が次々に傘を開いて下校していく。

庇の下で当惑げの遼一に、同級の翔吾らが声をかける。

翔吾 「傘持ってこなかったの？」

綾音 「天気予報で、一時雨って言ってたじゃない」

遼一 「うん・・・午後1時に雨だろう」

綾音 「一時って、そんな意味じゃないわよ」

一同笑う。

香帆 「たしか『所により一時雨』。そう言ってたわ」

誠 「『所により』ってどこなのか、よくわからないよな」

遼一 「天気予報のことばって、わかるようでわからないのがあるね」

綾音 「天気予報のことばねえ・・・、そうだ！ ねえ、こんどの総合的な学習で天気予報のことばを調べてみない！」

遼一 「ぼくもいま、そう思ったんだ！」

翔吾 「うん、雨だって土砂降りだったり、いろいろあるものね」
「やってみよう」「面白そう」などとみんなうなづく。

香帆 「(綾音に) 帰ろう。」

綾音 「遼一君、傘に入れてあげようか？」

誠、冷やかすような眼差し。

綾音 「(誠を無視して遼一に) 行こう。」

遼一と綾音が相合い傘で、小走りに去ってゆく。

指導の手引き 4

(P.108)

2 話し合い

6 別の日・放課後の小学校

午後の陽が校舎に降り注ぐ。

チャイムが鳴り、重なるように校内放送のアナウンスが流れる。

7 同・6年1組の教室

ドアが開き、女子児童2人が出てくる。

女子児童2人 「(綾音達に) さよなら!」

教室の中では、遼一、翔吾、綾音、誠、香帆が話している。

綾音 「まとめてみるね・・・テーマとしては、天気予報の用語や気象についての表現を調べるとのことね」

遼一 「そうそう、そう言うこと。だけどどうやって調べる?」

翔吾 「家で聞くとか、図書館で調べるとか」

綾音 「お天気相談所なんかで調べてみれば、わかるんじゃない?」

香帆 「わたし夏休みに行ったことある」

翔吾 「そうだ! インターネットで、気象庁のホームページを探してみようか」

香帆 「やってみよう!」

8 再び学校のパソコン室

児童らがパソコンで気象庁のホームページを開いている。

以下、ホームページの画面も見せながら・・・

綾音の声 「あっ、気象庁のホームページだ!」

翔吾 「あっ、天気予報の用語解説が載ってる」

香帆 「本当?」

翔吾達の席に移動する綾音と香帆。

指導の手引き 5

(P.109)

パソコンの画面を見ながら。

綾音 「『朝のうち』は『日の出からおよそ9時頃まで』」

香帆 「『朝』というときは・・・『夜明けからおよそ9時頃まで』」

誠 「『朝』ということばでも、いろいろな使い方をしてるんだ」

水平線に昇る朝日の映像が挿入される。

翔吾 「面白くなってきたぞ、気象庁に行って聞いてみたら、もっと色々わかるね」

香帆 「意外な発見があるかもしれないね」

綾音 「その前に、みんなで、調べたいお天気のことばを書きだしてみようよ。あれもこれもじゃ、まとまりがつかなくなるじゃない」

翔吾 「例えば、今回は雨についてとか」

遼一 「賛成！ この話も傘を忘れたところから始まったんだものな」

綾音 「まず、調べたい事柄や聞きたいことばを整理してみようよ」

誠 「それと、お願いの電話もしなくてはね」

9 職員室

メモを片手に、気象庁に電話する綾音。

周りで遼一達とクラス担任が聞いている。

綾音 「はじめまして、希望ヶ丘小学校6年1組の坂村綾音といいます」

気象庁の案内の声 「はい、こちらは気象庁です」

綾音 「今度、総合的な学習の時間で、お天気のことばを調べたいと思っています。それで、気象庁にうかがって、お尋ねしたいことがあります。私たち5人で、質問にうかがっていいでしょうか？」

気象庁の案内の声 「はい、どうぞおいでください。

気象のことばを調べるなら、気象科学館もございます。そちらもいいですよ」

指導の手引き 6

(P.109)

指導への展開

・敬語や敬意表現の使い方

(P.74～)

・コミュニケーション能力を育てる敬語行動教育

(P.78～)

指導の手引き 7

(P.109)

綾音 「気象科学館ですか？（メモをとりながら）それはどこにありますか？」

案内の声 「気象庁の1階です。気象庁の場所をご存じですか？」

綾音 「はい、ホームページで調べました。それで、来週の金曜日の午後2時頃にうかがいたいと思いますが、いいでしょうか？」

案内の声 「15日の金曜日、午後2時頃ですね。

正面玄関に入って右手の気象科学館においでください。お待ちしております」

綾音 「ありがとうございます、それでは、どうぞよろしくお願ひします」

電話を切り、手でOKのサインを出す綾音。

喜ぶ仲間達。

3 調べるA・気象科学館

10 気象庁

庁舎の玄関に向かう遼一ら5人の仲間達とクラス担任。

11 気象科学館内

扉の上掲げられた『気象科学館』の看板。

館内には種々のパネルが並んでいるの見える。

館内で気象協会の高田斉さんが、遼一達に説明している。

綾音 「・・・それでは、雨についての表現やことばを、主に教えていただきたいんです。例えば『一時雨』とか、『所により雨』とか・・・」

香帆 「それから、天気予報で雨の強さをいうのに、どんなことばを使っているのかも知りたいのですが」

高田 「はい、よく聞かれることなんですよね。実はそういうことを知ることが、天気予報を上手に利用する基本なんです」

指導への展開

・気象情報のことば
(P.44～)

指導の手引き 8
(P.110)

指導への展開

・敬語や敬意表現の使い方
(P.74～)

・コミュニケーション能力を育てる敬語行動教育
(P.78～)

綾音 「『所により』もそうですか？」

高田 「はい、そうなんです。雨の降り方には色々ありますが、ある広い地方全体に降るのではなく、小さな雨雲が通った、限られた所に降るといふ時の表現なんです。しかも、その地域がどこかというの、現代の科学ではわかりません。はっきりしない時に、『所により』ということばを使います」

遼一 「ほくは『一時雨』と聞いたので、大丈夫と思って傘を持って行かなかったんです」

高田 「ぬれてしまいましたか？」

遼一の声 「はい」

高田 「この『一時雨』というのはですね、何時から何時までという時刻ではありません。『一時雨』のほかに、似たようなことばで、『時々雨』というのがあります」

12 イラスト(挿入画面)・CG

高田さんの説明にあわせて、『一時雨』『時々雨』を説明するコンピュータ・グラフィックス(CG)図が現れる。

高田さんの声 「『一時雨』の一時とは、雨なら雨が連続して降るけど、丸一日ではなくて、例えば24時間の予報なら、そのうちの4分の1、つまり6時間未満のあいだで降り続きますよという表現です。

そして『時々』というのは連続してではなく、途切れ途切れ、断続的に降りますよということで、雨の合計時間が1日の半分未満のときに使う表現です」

13 気象科学館内(S.11に戻る)

高田さんが続けて説明している。

高田 「いずれも時間経過をいう表現で、この場合、雨の強さを言ってるわけではありません。みなさんこちらに来て下さい」
雨量計の前へ移動する高田さんと遼一達。

指導の手引き 9

(P.110)

指導の手引き 10

(P.110)

指導の手引き 11

(P.110)

高田 「(雨量計を差しして) 皆さん、これ何だか知っていますか？」

遼一 「理科の実験道具みたいだけど・・・」

高田 「当たらずといえども、遠からず・・・。実はこれは雨量計と言います。降った雨の量を量る機械なんです。雨の降り方には色々あります。『小雨』というのがありますね。ま、これは、地面がぬれないか、僅かに湿る位で、傘なしで、レインコートでも間に合う位の雨です。数時間降り続いたとしても、雨量は1ミリの達しません。だからと言って、この1ミリという雨量も、馬鹿に出来ないんです。東京都全体に1ミリの雨が降ったとして、その雨を集めると、実に、東京ドーム、約10杯分に相当するんです」

遼一達 「(驚いた表情でいっせいに) へー、すごいっ！」

高田 「すごい量ですよ。『一時小雨』なら、君(遼一君)も傘を忘れても大してぬれずにすみませんでしたね」

恥ずかしそうに頭をかく遼一。

高田 「次が、3ミリから8ミリ未満の雨量で、地面に水たまりができる位の降り方です」

翔吾 「その程度の降り方の雨は何と言うんですか」

高田 「それは『弱い雨』と言います。でも予報では使っていません。天気予報では曖昧な表現は使わなくなってきているんですよ。ですから、質問の雨は、ただ『雨』という予報になります」

香帆 「へー、はっきり使い分けているんですね」

高田 「その通りなんです。いまの天気予報というのはコンピュータも大活躍しているんです。例えば、降水確率何%という情報(天気予報)を見たり聞いたりしたことがあるでしょう？ あれも数値予報と呼ばれるもののひとつで、コンピュータが計算したり予想したりしているんですね」

誠 「土砂降りも、ただの『雨』なんですか？」

高田 「いいところに気づきましたね。土砂降りというのは非常

に怖い雨なんです。その中で、『強い雨』という言い方があります。この降り方では地面いっばいに水が溜まったり、雨音で人の話し声が聞き取りにくくなったりします。さらに『激しい雨』という表現になりますと、傘が、もう役に立たなくなったり、側溝から水が溢れ出るといような現象が出はじめます」

綾音 「『大雨注意報』が出たと、たまに聞くことがありますが、これはどんな雨なんですか？」

高田 「はい、『激しい雨』でも、所によっては『大雨注意報』が出ます。それは地域によって、基準の雨量が決められているんですね。その基準の雨量を超えると予想された時に、『注意報』や、さらに上の『警報』を出す仕組みになっているんです。ですから、この時の『大雨』というのも予報用語です」

高田さんとともに場所を変える遼一達。

高田 「たとえば東京23区内で言いますと、1時間に30^{ミリ}以上で注意報、50^{ミリ}以上になりますと警報が出ます」

激しく降る雨の映像が挿入される。

高田 「警報が出る位になりますと、辺り一面が、雨で真っ白くなります。災害の発生につながる恐れが出てくる状態なんですね」

遼一 「うちの母がテニスをやろうと思っていた日に、『バケツのような雨』で行けなくなっちゃって……」

誠 「バケツが降るわけないだろう。『バケツの水をひっくりかえしたような激しい雨』ということだよ」

クラスメート達がいっせいに笑う。

高田 「雨の降り方で最も強いのが『猛烈な雨』です。これにも上手い表現がありまして、『滝のように降る』ということばを聞いたことはありませんか？」

高田さんの話に合わせて滝の映像が挿入される。

誠 「あっ、祖母が言っていたのを、聞いたことがあります。滝

のように雨が降って、前が見えなくなったそうです。きっと50^{mm}以上の雨だったんだ」

高田 「多分、そうですね。雨の強さに関する主な予報用語は、大体こんなところですよ」

翔吾 「『集中豪雨』というのは、どういう雨ですか？」

高田 「はい。『大雨注意報』が出る位の雨は、もう『豪雨』と呼んでいいと思います。そして特に、限られた狭い地域に短い時間に多量に降る雨、それを特に『集中豪雨』と呼んでいるんですね」

『集中豪雨』で河川が氾濫し、住宅の周りを濁流が流れている映像が挿入される。

綾音 「予報以外でも使われる雨についての表現を、教えていただきたいのです。例えば『にわか雨』と『夕立』とは、同じなんでしょうか？」

高田 「はい。急に降りだして、短い時間で上がるという点では、『夕立』も『にわか雨』も似ています。ただ『夕立』は、夏の午後のにわか雨のことです。雷と一緒に鳴ることも多く、そうなると『雷雨』という呼び方もありますね」

高田さんの話に合わせて、稲妻が走る『雷雨』の映像が挿入される。

高田さんの話を聞いて、何事かを思いだ出した表情の遼一。

14 遼一の家（冬・回想画面）

ベランダに干してあった洗濯物が、雨にぬれている。居間でゲームをしていた遼一がそれに気づき、台所の母親に声をかける。

遼一 「母さん、夕立だよ！」

料理をしていた母親、振り向きもせずに。

遼一 「何言ってるの、冬に夕立来るわけないでしょう（言い終わって、後ろを振り向いた母親）あらいやだ！」

指導の手引き 12
(P.111)

指導の手引き 13
(P.111)

雨に気付き、慌てて飛び出していく母親。洗濯物を取り込みながら・・・。

母親 「にわか雨なんて、予報じゃ言ってなかったのに」

遼一 「だから夕立だって」

母親 「冬は夕立って言わないの！ ちょっと手伝ってよ！」

15 気象科学館（S. 13に戻る）

高田 「夏のにわか雨、夕立には『夕立は馬の背を分ける』という言い方があります。夕立はおもに積乱雲、みなさんが入道雲と呼んでいる雲が降らせる雨なので、その雲のあるところしか降りません」

指導の手引き 14

(P.111)

指導の手引き 15

(P.111)

話に合わせて積乱雲の映像が挿入される。

高田 「ですから降るところと降らないところが、くっきりわかれるんです。馬の背中でも、片方はぬれていても、片方はぬれていないということで、面白くたとえた表現なんです」

香帆 「『通り雨』というの、にわか雨みたいなものですか？」

高田 「そうなんです。ひとしきり降りながら通り過ぎてゆく雨なんです。ちょっと洒落た表現ですね」

翔吾 「よく野球を一時中断して、雨が通り過ぎるのを待っているのもそうなんだ」

雨の野球場。

試合中断の様子が短く挿入される。

その後、気象科学館内で場所を変えて、高田さんの話が続く。

高田 「日本には、春夏秋冬と四つの季節がありますね」

16 四季のスケッチ（挿入画面）

指導の手引き 16

(P.111)

音楽とともに、日本の四季の風景が映し出される。

【春】一面に広がる菜の花畑。咲き誇る桜の花。

(間に挿入)【梅雨】雨の杉林。

【夏】強烈なひまわりの花。

【秋】紅葉。風に揺れる河原の薄。

【冬】白い雪に覆われた北国の風景。

17 気象科学館 (S.15 に戻る)

高田 「みなさんがいま調べている『雨』の表現も、季節や降り方によって色々な表現があります。例えば、静かにしとしと降る『春雨』、これが長く続くことがあると『春の長雨』とか、菜の花の咲く季節なので『菜種梅雨』などと言います。『雨は花の父母』『チチ、ハハ』ということばがあるくらいで、この雨は、桜などの春の花をいっせいに咲かせます。そして『梅雨』の季節がありますね。日本列島の本州の場合は、6月の中旬に『梅雨入り』があつて、7月の中旬頃まで、じめじめと降り続きます。この雨を、『五月雨』と書いて『さみだれ』と言います。昔使っていた暦(こよみ)ですと、この時季は5月だったんですね。夏の『雷雨』、そして『秋雨』『時雨』・・・どうですか？ 雨の表現ひとつにも、日本の四季と豊かな自然が反映されているんですね。雨だけではありません。『春一番』は風、『小春日和』はポカポカ陽気、『木枯らし』は冷たい北風、『風花』は雪です」

綾音 「つまり、日本の自然と結びついたことばですね」

高田 「その通りです。みなさんのお父さんやお母さん、お祖父さんやお祖母さんにうかがってみれば、まだまだたくさん出てくるはずですよ」

18 飛行機雲 (挿入画面)

飛行機が長く白い航跡を引いて飛ぶ。飛行機雲である。

高田 「(声のみ) 飛行機雲はみんな知っていますね。長い飛行機雲がいつまでも消えずに残っていると、天气が崩れる兆しです」

19 気象科学館 (S. 17 に戻る)

高田 「科学的に言いますと、上空の大気が乾燥している時には、飛行機雲はすぐ消えてしまいます。いつまでも残っているとい

指導の手引き 17
(P.111)

指導の手引き 18
(P.112)

うのは、上空の大気が湿りはじめているからなんです。いわゆる低気圧が近づいて来ているから、いつまでも残るんです」

遼一 「へー」

綾音 「(眩くように)それは知りませんでした。ちゃんと科学的な根拠があるんですね」

パソコンで気象庁のホームページを見せていた高田さん。遼一達の方へ向き直って話をまとめる。

高田 「気象に関することば、面白いでしょう？皆さんは東京ですが、それ以外の地方の方は気象庁のホームページや、各地方気象台を訪ねて、色々調べることが出来るんですね。(パソコン画面を示しながら)ほら、ここに各県の地方気象台紹介がありますよ。これからも皆さんで、色々調べてみて下さいね・・・」

児童一同 「はい！(丁寧にお辞儀して)どうもありがとうございました」

高田 「どういたしまして、また来て下さいね」

20 気象庁前の道路

気象科学館から出て来た遼一ら仲間達とクラス担任。歩きながら楽しそうに喋っている。

綾音 「面白かったね」

香帆 「もっと調べて見ようよ」

綾音 「そうだ、発表会には図や表をつけたほうがいいわね」

翔吾 「香帆ちゃん、字がきれいだから、表を作ってくれない」

遼一 「絵なら、ぼく描けるよ」

綾音 「先生にほめられたことあったものね」

照れる遼一。

指導の手引き 19
(P.112)

指導への展開
・コラム②
(P.104)

指導の手引き 20
(P.112)

指導の手引き 21
(P.112)

4 調べるB・お祖父さんの話

21 遼一の家(夕方)

田舎の祖父と電話で話している遼一。

遼一 「へー・・・それを『キツネの嫁入り』というの？」

祖父 「(声のみ) うん、お日さまが照っているのに雨が降っている『お天気雨』のことを、キツネの嫁入りというんだ」

遼一 「(声のみ) それで、お祖父ちゃんは、キツネの嫁入りを見たことあるの？」

22 遼一の祖父の家 (夕方)

遼一の電話を受けている祖父。

祖父 「あるともさ・・・天気雨のなかを、真っ白な角隠しをした白キツネの花嫁行列がな、音もなく行きおった・・・」

23 アニメーション (遼一の想像場面)

花嫁姿のキツネと婚礼の行列が、日照り雨が降っている野を静かに進んでゆく。

24 遼一の祖父の家 (夕方)

祖父 「それとも、あれはキツネに化かされておったんだろうかなあ・・・」

25 遼一の家・居間 (夜)

父母と遼一。食事の後。

母が台所の電灯を消しながらやって来る。

母 「それはね、お祖父ちゃんが遼一をちょっとからかったのよ。キツネの嫁入りなんて、見た人はいないわよ」

遼一 「そうだろうと思った、キツネに化かされるなんて、あるわけない。それから、お祖父ちゃん『腰が痛むから雨が降るかも知れない』って言ってたけど、そんなことあるの？」

父 「天気や季節の変わり目を、お年寄りや病人は敏感に感じるんだね」

遼一 「こんなことも教えてくれたよ・・・。ええと・・・、『夏海秋山』と言って、夏は海から、秋は山から天気が変わるんだって」

父 「諺だね。『朝雨にはミノ要らず』なんていうのもあるな」

遼一 「ミノって？」

指導への展開

・暮らしに生きる

天候のことば

(P.59～)

・天候に関するこ

とわざ

(P.71～)

指導の手引き 22

(P.113)

指導の手引き 23

(P.113)

父 「昔の雨具，レインコートだよ。カヤヤスゲを編んで作ったんだ」

安藤広重の浮世絵—東海道五十三次のうち『庄野』
(蓑が出ている画)を短く挿入する。

母 「『朝焼けは雨，夕焼けは晴れ』という諺もあるわ」

父 「『雪の明日は裸の洗濯』と言って，雪の翌日は暖かくて天気が良いという地方もあるね」

遼一 「この辺りでも，雪が降った次の日は晴れる日が多いよね。ポカポカして，僕たちも雪合戦をよくやるよ」

母 「そうそう，よく洋服汚してくれるわよね」

首をすくめる遼一。

母 「おかげで『雪の明日は洗濯ばかり』」

吹き出す父親と遼一。

父 「諺は地方によっていろいろで，その地域の気象に結びついたものが多いんだよ」

遼一 「ずいぶん数も多いみたいだけど」

父 「お祖父ちゃんちみたいな農家や，魚をとる漁師さんは，天気の良い悪いがそのまま収穫に影響するからね。気象にはすごく敏感で，諺も多いんじゃないかな」

母 「そういうものを調べても，おもしろいんじゃない」

遼一 「うん，ところで，お父さんたち，どの位の雨ならテニスやるの？」

父 「『小雨』や『霧雨』くらいならならやるね」

遼一 「『霧雨』？」

母 「うんと粒の細かい雨のことよ」

5 報告・発表・話し合い

26 学校の教室

黒板に，調べた内容を図や表にしたものが貼られている。

指導の手引き 24

(P.113)

綾音の司会で、ことば調べの経過を報告している。

綾音 「私達は気象用語を調べることにしました。それで気象庁の気象科学館で、気象協会の高田さんから、お話をうかがいました。今回は『雨』にかかわることばを中心に、前もって私達が用意した知りたいことや、それ以外にも私達が知らない用語や表現をたくさん教えていただきました。また、両親などからも聞きました。発表は、まず『雨の用語』、続いて『色々な雨の表現』の順でおこないます。

ワイプで場面を省略し、次へ・・・

遼一 「・・・よく何^{mm}の雨、例えば『50^{mm}の雨が降る』などという言い方をします。しかし、数字だけではわかりにくいところがあります。そこを、例をあげて説明していただき、実感としてわかるようになりました。それがこの表です・・・」

香帆 「季節の違い、降り方の違いで雨にはたくさんの表現があることがわかりました。たとえば、夏の夕方に降る『にわか雨』は『夕立』と言います・・・」

翔吾 「祖父や祖母、親戚の人たちに聞いて調べたら、同じ降り方の雨でも地方によって呼び方が違っていました・・・」

誠 「僕たちは諺についても調べました。『朝雨に蓑いらす』という諺があります。蓑というのは昔の雨具のことで、(広重の浮世絵のコピーを示しながら)この画に出てきています・・・」

綾音 「以上が私たちのグループが調べた内容です。それでは質問や感想を合わせてどうぞ」

手を挙げ、次々に発言・・・

綾音の声 「ハイ、渡辺君」

W男 「いままで雨の呼び方や表現など、あまり考えたことなかったけれど、そうして表になったのを見ると、なんてたくさんの表現があるのかと驚きました。調べてみて、特に感じたことがありますか？」

綾音 「気象協会の高田さんもおっしゃっていましたが、雨の表

現ひとつにも、日本の四季や豊かな自然を反映しているというのを感じました。これから、ただ《雨か》ではなく、見る目がかわると思います」

遼一 「みんなが気がついた雨のことばがあったら、これからも教えてください。どんどん表を増やしてゆきます」

X男 「同じ『雨』という字を書いても、『通り雨』のようにアメと読むもの、『小雨・春雨』のようにサメと読むもの、『豪雨』のようにウなど、読み方の面白さにも気がつきました」

Y子 「気象についてなら、まだ『風』や『雲』、『雪』などもあります。みんなで調べたら、もっと色々ことばの面白さがわかるんじゃないかしら」

「賛成」の声があがる。

指導への展開

・コラム①

(P.58)

6 素材編へのジョイント

27 学校の教室

女子児童1 「ねえ、雨以外のお天気の話の諺を調べてみない」

男子児童1 「霧ともやとガスとどう違うんだろう？」

女子児童2 「暑さや寒さを表現することばも面白そうね」

男子児童2 「季節・海や山・動物や植物など、自然を表現することばはどうだろう」

女子児童3 「そういうことばが出てくる詩や物語も探してみない？」

綾音 「つまり、ことば探検！」

誠 「そして、ことば発見だね」

香帆 「あんな日本語！」

翔吾 「こんな日本語！」

遼一 「みんなで調べて見ようよ！」

再び「賛成」という声に包まれる。

(終わり)

指導の手引き 25

(P.114)

【素材編】 あんな日本語・こんな日本語

声 の 出 演

案内役のキャラクター

一龍斎 貞友

① 思いやりのある日本語 配役

| 役名 | 性別 | 年齢 | 職種・他 | 俳優 |
|-------|----|----|-------|--------|
| 康文 | 男 | | 小学6年生 | 前原 一貴 |
| 実 | 男 | | 小学6年生 | 中野 史祥 |
| 俊成 | 男 | | 小学6年生 | 田谷 隼 |
| 佳織 | 女 | | 小学6年生 | 山田 ひろみ |
| 祐理恵 | 女 | | 小学6年生 | 遠藤 理菜 |
| 智絵 | 女 | | 小学6年生 | 深沢 祐依 |
| 男子児童A | 男 | | 小学6年生 | 近藤 憂 |
| 男子児童C | 男 | | 小学6年生 | 大野 翔平 |
| 女子児童B | 女 | | 小学6年生 | 飯塚 安津咲 |
| 看護婦 | 女 | | | 下村 恵里 |

③ 表情豊かな日本語

出演

入船亭 扇治

一龍斎 貞友

④ 想像がふくらむ日本語

詩朗読

植田 真美

素材① 思いやりのある日本語

1 プロローグ

1 サッカーボール

赤いロボットの声 「いくぞー! ことば君!」

赤いロボットによって、サッカーボールが勢いよく蹴られる。

宙を切るボールの背後で、大きな声。

ことば君の声 「痛ッ、痛いー!」

2 キャラクターのことば君登場

ロボットのことば君が、包帯の足を引きずって登場。

ことば君 「うーん、まだ痛い・・・実はサッカーで怪我をしてしまって、ロボット修理工場に行って来たんだ。ほくが痛い痛い悲鳴をあげたら、メカニックさん何て言ったと思う? 『自分のキックの技術が下手なんだから、仕方がないだろう』だってさ。おまけに何の予告もなく、いきなり痛い足を折り曲げてみたりしてさ。ロボットだからって、ちょっと思いやりがなさすぎると思わない? あっ、痛い!」

ことば君が転倒する。

3 タイトル【思いやりのある日本語】

2 患者と看護婦のコミュニケーション

4 整形外科病棟

康文(小学校6年生)がギプスの足を足置き台にのせて寝ている。

指導への展開

・思いやりのある

日本語

(P.90~)

指導の手引き

(P.117~)

看護婦が入ってくる。

- 看護婦 「康文さん、お加減いかがですか。まだ、痛むかしら？」
- 康文 「少し痛い。昨夜はうんと痛くて、目を覚ましちゃった」
- 看護婦 「困ったわねえ、もうそろそろ痛みがとれる頃だと思ってるんだけど・・・先生にも話しておくから、もう少し我慢できるかな？どんな痛みだったの？」
- 康文 「ズキン、ズキンとした感じ」
- 看護婦 「痛いと思うと、よけい痛くなるから、例えば野球のことだとか、サッカーのことだとか考えて、気を紛らすといいみたいよ。私も経験があるの」
- 康文 「看護婦さんも、骨折したことあるの？」
- 看護婦 「私は盲腸の手術をしたの。麻酔が覚めたら痛くてね」
- 康文 「何で気を紛らせたの？」
- 看護婦 「ウフフ・・・何だと思う？（考える康文に小声で）美味しいケーキのことだとか食べること」
- 康文 「（すっかり楽しくなって）いいなー、ぼくはやっぱり野球のことだな」
- 看護婦 「強打者なんだって？ お見舞いに来たお友だちが言ってたじゃない」
- 康文 「うん、あーあ、試合に出たいなー、いつ頃治るかなあ」
- 看護婦 「早く治るといいわね。こんど先生に聞いてごらん下さい。若いから治りはうんと早いと思うけど」

5 ことば君登場

ことば君 「康文君、なんだか元気が出たみたいだね。

看護婦さんのどんなところが、康文君を元気づけたのかな。この看護婦さんみたいに優しくしてくれたら、ぼくの足だってとっくに良くなっているんじゃないかな、なんて考えちゃうな」

6 学校の廊下（朝の通学時）

松葉杖をついた康文が、少し足をひいて歩いて来る。

実 「康文、久しぶりだな。自転車で転んで骨折だって？
何で転んだんだよ」

康文 「車を避けようと思って・・・」

実 「カッコつけすぎるからだよ、お前は！」

表情を曇らせる康文。

佳織、後ろから来て・・・。

佳織 「そんな言いかたないでしょ、だれだって転びたくて転んだんじゃないわよ、ねえ。早く治って良かったわね」

バツの悪そうな実。

俊成 「おう、康文、もう痛まないか？」

康文 「うん、ありがとう、お医者さんがもう大丈夫だって」

俊成 「強打者が退院してきてくれて良かったよ。試合続きで、みんな待ってたんだぞ」

7 ことば君登場

ことば君 「君たちが康文君に会ったら、どんな話し方、
接し方をするかな？ さあこんな場合はどうかな？」

8 小学校のランチルーム

給食が終わって、児童ら各自が食器を片づけはじめ
ている。智絵があやまって食器を落とす。

陶器製の皿が割れる。

しまったという表情の智絵、オロオロする。

児童らが集まってくる。

男子児童A 「あーあ、割れちゃってる、そそっかしいんだよな」

女子児童Aの声 「どうしたの？」

男子児童Bの声 「智絵がお皿割っちゃったんだよ！」

女子児童B 「不注意だからよ」

男子児童C 「早く遊ぼうなんて考えてるからさ」

いまにも泣き出しそうな智絵。

祐理恵が駆け寄る。

祐理恵 「みんな騒ぐのやめなさいよ、ちょっと不注意だとは思
うけど、割れちゃったものしょうがないじゃないの。(智
絵に)大丈夫、怪我しなかった?さ、一緒に片づけよう。
こんどから気をつければいいんだから、先生だって叱ら
ないわよ。だれだって失敗はあるもの、ね」

智絵 「(小さくうなずいて、小声で)ありがとう、祐理恵、大
丈夫、わたし片づけるから」

祐理恵 「ほら、黙って見ていないで、みんなも手伝って!」

祐理恵にうながされて、みんな手伝う。

9 ことば君登場

ことば君 「(自分の足をさすりながら)ほんと、だれだって、失
敗はあるよね。君たちが同じ立場だったら、どんな感
じになる? 祐理恵ちゃんみたいな友だちがいたら
ホッとするね。どんなことばをどんなふうにかけたら
いいのかな。みんなも思いやりのあることばって何
か、考えてみようよ」

手を振って奥に消えることば君。おや、足が
治ってる。

ことば君 「あれっ、走れちゃった!」

素材② 元気のいい日本語

1 プロローグ

10 祭礼 (資料映像)

威勢のいいかけ声とともに、祭神輿が町を練る。

担ぎ手 「(みんな声を揃えて)ソイヤ、ソイヤ」

「(みんな声を揃えて)オリヤ、オリヤ」

「(みんな声を揃えて)サー、サー」

など様々なかけ声が飛び交う。

指導への展開

・元気のいい

日本語

(P.94~)

指導の手引き

(P.119~)

合成画面で、御輿の横にことば君が登場、
わくわくと体を動かしながら。

ことば君 「威勢がいいな、聞いているだけで、何だか自然にか
らだが動きだしちゃうよね」

11 消防訓練

消防車が到着する。

消防団長の号令。

消防団長 「〇〇消防団第3分団到着！ ただいまより消火活
動開始！」

逃げ遅れた人を救助するために、火に包まれ
た建物に突入する団員達（訓練）。

消防団員 「よし、検索準備！」

消防団員 「検索救助開始！」

放水に備える団員達。

消防団長 「放水始め！」

12 ことば君登場

ロボットのことば君が現れる。

ことば君 「(消防士の真似をして)『放水始め!』。うーん、ハ
キハキしていて、気持ちひきしまるね」

13 タイトル【元気のいい日本語】

2 元気のいい情景

14 ことば君登場

ことば君が視聴者に問いかける。

ことば君 「どんなことばや話し方を、みんな元気がいいと
感じたりするんだろう？ ソレッ」

ことば君が胴体のキーボードを叩くと、モニ
ターから、チアリーダーの映像が現れる。その
画面が大きくなって、ことば君は消える。

15 高校の体育館・チアリーディング部の活動

チアリーダーの一団が、そろって練習している。

一団 「(声をそろえて)ワン! ツー! スリー! フォー!
ー!………アンド, テン!」

一団 「…ゴー! ファイト! ウイン!」

16 小学校の校庭

少年野球チーム。試合前に円陣を組んで、かけ声をかけ、守備に散ってゆく。

チーム全員 「ウォーツ」

守備について。

少年 「こーい!」

試合が始まっている。ピッチャーが投げる。

双方のベンチから、声を合わせて声援が飛ぶ。

攻撃側 「かっとなせー! 海老(人名)! ゴー, ゴー, レッツ
ゴー! 海老(人名)!」

攻撃側 「ピッチ, リー, リー, リー, リー, ゴー!」

17 ことば君登場

ことば君 「うーん, みんな力を合わせて元気がいいね。

君たちはあまり目にしたことないだろうけど, 魚市場も威勢がいいんだよ。ソレッ」

3 威勢のいい売り声

18 魚市場

マグロが並び, 大声で競りが行われている。

セリ人 「(品物の番号)……, ニイマル(20), ニイニイ(22), ニイサン(23), ニイヨン(24)……」

セリ人の数表現の間で, 仲買人が手を挙げて金額を示すサインを送る。セリ人はちらっとサインを確認する。

セリ人 「・・・ハチマル(80)・・・ニイゴ(25), ニイハチ(28), サンマル(30), サンニイ(32)・・・サンニイ(32) でヨネカワ(米川水産)! (と, 競り落とした仲買人を指さす) ハチイチ(81)・・・ニイマル(20), ニイニイ(22), ニイサン(23), ニイサン(23)でヤマタカ(山高)! (と, 競り落とした仲買人を指さす)」

魚河岸にことば君が登場(合成画面)。

ことば君 「うーん, 何を言っているかわからないけど, 威勢はいいね。そうだ! セリ人のおじさんに聞いてみよう」

セリ人の小袖弘利さんがカメラに向かって話す。

セリ人 「セリ人がですね, 1番いくら, 2番いくら, 3番いくらというような感じでセリを行っております。先ほどより, ニイゴ, サンマル, サングとセリ人が呼んでおりますけど, 実際にはキロ当たり2,500円, キロ当たり3,000円, キロ当たり3,500円というような感じで, 皆さん取引をされています。また, この生のマグロに関しては, 活きのいい物が入ってますから, セリ人としてもですね, 活きのいい格好で, 威勢良くセリをする, これがこの仕事となっております」

19 町の商店街の魚屋

魚屋の店主が大声で客を呼んでいる。

魚屋店主 「はい, どうぞ! タラバ2,000円! 毛ガニは2個2,000円!」

買い物に来た主婦に, 店頭の魚を指して。

魚屋店主 「はい, まけるよ! タラバ2,000円!」

20 寿司屋

寿司屋に客が入ってくる。

寿司屋店主 「はい! お二人さんです。(と, 奥の厨房に声をかける)」

厨房の人々 「はい!」

慣れた手つきで寿司を握りながら。

寿司屋店主 「はい! お待ち! (握りを出す) はい! 寒平目!」

お客 「おいしそうだねえ」

店内にことば君登場(合成画面)。

ことば君 「このお寿司屋さんも魚市場と同じで威勢がいいね。活きの良さを売るんだから、活気がなくてはいけないんだ」

以下、ことば君がつぶやくように話す。

ことば君 「『とれたて、とれたてだよ、活がいいよ』

どう? こんな言い方をしたら、なんだか古い魚を売ってるように聞こえない?」

4 威勢のいい作業の指令

21 ことば君登場

ことば君 「威勢がよくて、気持ちがひきしまることばは、こんなところでも使われているよ。見てみようか。ソレック(と、胴体のキーボードを操作する)」

22 海上保安庁・海上保安学校(舞鶴市)・海洋訓練

教官の前に学生が整列している。

教官 「体操かかれ!」

指揮官 「体操かかれ! ○○学生基準!」

学生 「(手を挙げて)基準!」

指揮官 「体操隊形にひらけ!」

学生全員「よーし!」

全員、体操を始める。

全員 「イチ、ニー、サン、シー、ゴー、ロク、シチ、ハチ……」

全員、カッターに乗り込む。

指揮官 「かい用意!」

学生全員「かい用意!」

指揮官 「用意！」

学生全員「用意！」

指揮官 「前へ！」

かいを漕ぐ学生。

指揮官 「ニー、イチ」

学生全員「ソーレ」

指揮官 「ニー、イチ」

学生全員「ソーレ」

カッター上での着岸準備作業。

指揮官 「かい上げ！」

学生全員「かい上げ」

学生、ボートフックを取り出す。

作業する学生「ボートフック注意！」

他の学生 「ボートフック注意！」

もうひとりの学生、ボートフックを取り出す。

作業する学生「ボートフック注意！」

他の学生 「ボートフック注意！」

ふたたび、カッターを漕ぎ出す。

指揮官 「用意！」

学生全員「用意！」

指揮官 「前へ！」

学生全員「ソーレ」

指揮官 「ニー、イチ」

学生全員「ソーレ」

カッターを背景にして、ことば君登場。

(合成画面)

ことば君 「みんな力がこもっているね。しかも、作業の

指令はみんな短いことばなんだね。どうしてだろう？

その短いことばをみんなが理解して、実にきびきびと

動いてるよね」

佐々木清壽教官がカメラに向かって話す。

教官 「人を助けたり、緊急の出来事に取り組む場合は、ことばは短いほど時間の節約になりますし、『これから行くぞっ!』という威勢が出るでしょう。指令を出すことばが短いのはそのためです。広い場所や動いている船の上などでは、指令のことばが聞き取りにくいことがあります。みんなで大きな声で復唱すれば、作業に間違いはありませんし、揃って大きな声を出すことで、『これからやろう!』という力がこもります」

5 エピローグ

23 ことば君登場

ことば君 「なるほど、いろいろな場面で、元気のいいことばがあるんだね。みんなも、活気のあることば、威勢のいいことばを考えてみないか。さあ、レッツ・ゴー!」

素材③ 表情豊かな日本語

1 オープニング

24 タイトル【表情豊かな日本語】

寄席(国立劇場演芸場)の舞台。

(P.99~)

落語家入船亭扇治が出囃子とともに登場する。

指導の手引き

25 落語の高座

落語の高座。

(P.122~)

入船亭扇治による落語「饅頭怖い」。

扇治 「エ~, 人にはその名前を聞いただけでも震え上がるほど怖いものがありまして。『おう, おめえ世の中で何が怖い?』『そうだねえ, 俺はやっぱり, あの蛇とかウナ

指導への展開
・表情豊かな
日本語

ギだとか、長えものが何でも嫌いだな』『おう、そうか。そっちは何だい？』『俺、カエルが怖え』『カエル？ あんなもの怖えか？』『怖えよー、カエルってのは、ばかーっと口をあくだろ。俺、口をあくってのはなんでも嫌いなんだよ。うん、がま口開けるのも嫌だ』『だらしがねえなあ。おい、そっちは何が怖いんだい？』『蟻』『蟻？ 細けえものが怖えんだな。えー、色々あって面白え。何だよ、源ちゃん、ひとりでもこう向いて、難しい顔して。おめえも何か怖えもんあんだろう？』『うーん、あることはあるんだが、言うとおめえたち笑うからな』『笑わねえよ、(一同を見回して) な？ みんな、笑わねえから言ってくれよ。何が怖いんだい？』『本当に笑わねえかい？ え？ じゃあ言うけども、実は、おらあ、饅頭が怖えんだ』『え？』『饅頭』『マンジュウ？ おい、聞いたか、みんな。知らねえよな、マンジュウってのは。怪獣とか猛獣ってんだ。よっほどすごいもんなんだよ。源ちゃん、マンジュウってのは、どんなけだものだい？』『けだものとか虫じゃねえんだよ。菓子屋で売ってんだろ。中にあんのへーった饅頭。ああ、あれが怖えんだ』『え、菓子の饅頭？ あんなものが怖え？』『怖えものは怖えんだからしょうがねえじゃねえかよ。ああ、話してるだけで、気持ちが悪くなってきた。俺、ちょっと横にならしてもらおう』『そうかい、悪かったよ。うん。じゃあ、奥へ行ってさ、布団かぶって横になって。うん、気分良くなったら、また、こっちへ出てきて話しようじゃねえか。ここピタッと閉めておくから』『おう、聞いたかよ、みんな。源公の野郎、饅頭が怖えって、面白えな。じゃあ、ひとつ、野郎をおどかしてやろうじゃねえかよ』って、悪い相談はすぐにまとまるもんで、怖い怖いって饅頭をたくさん買ってくるってえと、寝てい

る源公の枕元に、そっと置いておきます。『おう、源ちゃん、どうだい具合は？ 薬買ってきたからな、うん、起きて枕元見てごらんよ』『え？ ああ、薬をね。ありがと、ありがと。じゃあ、今、起きてね、え、枕元を・・・』『置かれた饅頭を見つけて、大げさに) ああっ、ああっ、薬じゃねえ！ 饅頭じゃねえか！ ああ、怖え、怖えってものをこんな買って来やがって、どうしようって言うんだ。ああ、怖いよー。饅頭怖いよー。ああ、栗饅頭怖いよー。そば饅頭だ。怖いよー。ああ、怖い、怖い。ああ、饅頭怖いよー。はー、怖いよー・・・(小さく笑い、饅頭を手に取り) 黒あんだあ。(と、饅頭を食べ始める) う、うん、う、うん・・・(おいしそうに食べながら) ああ、怖い』『おい、怖がってるよ、おもしれえな。ちょっと中の様子のぞいてみようじゃねえか、ええ、どういうことに・・・(部屋の中をのぞく)』『うう、栗饅頭、怖い、怖い、そば饅頭も怖いなあ、うはは』『(襖を開けて) おい、この野郎、だましやがったな、一体、おめえは何が怖えんだ？』『ああ、そろそろ苦いお茶が怖い』

26 ことば君登場

案内役のことば君が登場。

ことば君 「今の嘶には、たくさんの登場人物が出てきたけど、落語家さんてすごいよね。どうして、ひとりで何人も演じられるのかな？」

27 落語の高座

落語の高座。

扇治がカメラに向かって、ふたりの人物を演じ分ける。

扇治 「はい、それはね。こんな風にやるんですよ。『ご隠居さん、こんちはー』『おー、なんだい、だれかと思ったら、八つつあんじゃないか。さあさあ、こっちへお上がりよ。どうしたい、今日は？』『ええ、今日は、ちよいと

ね、隠居さんに聞いてえことがありますてね』

ことば君が舞台上に登場する。

ことば君 「わかった！ 人物によって、口調や表情、身ぶりや手ぶりなどを使い分けるんだね！ところで、同じことばでも口調や表情によって、伝わる意味が違ってくることがあるよね。また、ちょっと、落語家さんにやってもらおうか」

2 パラ言語(口調・韻律)・非言語行動(表情・身ぶり)が伝える意思・意図

28 落語の高座

パラ言語・非言語行動を実演する扇治。

扇治の隣にはことば君がいる。

扇治 「はい、わかりました。えー、それでは、『そうですか』ということばで、やってみましょうか。まず、『(感心の口調で) そうですか』と言うとどんな気持ちが伝わるでしょう？」

間をおいて。

ことば君 「『ああ、なるほど!』という感心した気持ちが伝わってくるね」

扇治 「これが、『(無関心の口調で) そうですか』と言うと、どうでしょ？」

間をおいて。

ことば君 「ぜんぜん興味がないみたい」

扇治 「次に、『(疑いの口調で) そうですか』と言うのはどんな感じでしょう？」

間をおいて。

ことば君 「なんだか疑ってる感じがするね」

扇治 「はい、えー、続いてこんな言い方ならどうでしょう？『(落胆の口調で) そうですか』」

間をおいて。

ことば君 「あ～あ、がっかり」

扇治 「おしまい、『(中立の口調で) そうですか』と言うと、
どうでしょう？」

間をおいて。

ことば君 「あれれ？ 何の気持ちも伝わってこないぞ！」

扇治の話芸に感心することば君。

ことば君 「う～ん、同じ『そうですか』ということばでも、
口調や表情で全然意味が違ってくるんだね。それにし
ても、やっぱり落語家さんは上手だね。」

照れて頭をかく扇治。

3 表情豊かな日本語の達人

29 アニメの録音スタジオ

モニターにことば君が写っている。

ことば君 「さて、他にも話しことばの達人が、みんなのすぐ
近くにいるんだけど、わかるかな？」

カメラが後ろに引くと、ことば君の声優・一龍
斎貞友が現れる。

貞友 「(素の声で) こんにちは！ みんな、わかったかな？
ことば君の声を出している一龍斎貞友です」

貞友、ふたたびモニター画面に向き直って。

貞友 「(ことば君の声で) 自分で達人なんて恥ずかしいけど、
アニメの声優も、聞いている人がわかりやすく楽しく感
じるように、いろいろと声の調子を変えているんだよ」

画面にことば君が登場する。(合成画面)

そこへ雨が降ってきて。

貞友 「(ことば君の声で) あっ、あっ、雨が降ってきたー。あ
ー、雨だー」

雨の中を叫びながら、駆け出すことば君。
貞友の姿が消え、アニメ画面のみになる。

4 声の表情を抑制した話し方

30 アニメーション

走って来たことば君、雨宿りのため軒下に入る。

ことば君 「おかしな天気だなあ、よしっ、天気予報を聞いてみよう」

携帯電話で177(気象情報)にかける。

気象情報のアナウンスが流れてくる。

電話(177)の声 「気象庁予報部発表の8月5日午後1時現在の気象情報をお知らせします。現在、東京地方に大雨雷注意報が出ています。午前11時発表の予報です。東京地方の今日は西の風、夕方までやや強く雨でしょう。沿岸の海域の波の高さは3メートルでしょう」

気象情報を聞き終えたことば君。

ことば君 「う～ん、そうか。気象情報は、情報を正確にわかりやすく伝えることが大切なんだね。だから、不自然に強調したり、表情をつけすぎたりしない話し方がわかりやすいんだね。これと同じように情報を正確に伝えるため、ゆっくり、ていねいに読んだ方が良い場合があるよ。ソレッ!」

胴体のキーボードをたたき、次のシーンの画面を映し出す。

31 図書館の対面朗読室

視覚障害者を相手に、朗読ボランティアが科学図書を朗読している。

ことば君の声 「(ボランティアの朗読に重ねて)この人は、目の不自由な人のために文章を声に出して読む朗読ボ

ランティア。これも気象に関する文章を読んでいるよ」

朗読ボランティアの丹羽真理恵さん

「夏が過ぎると、北から寒冷前線が南下して寒気をもたらす。これが、秋雨前線（秋霖）であり、梅雨前線の活動が西日本から中部日本で顕著であるのに対し、北日本や日本海側の地方で顕著になるという特徴があります。秋雨前線が顕著な年もあれば、ほとんど現れない年もあります」

（※入門ビジュアルサイエンス『気象のしくみ』日本実業出版社より）

5 エンディング

32 ことば君登場

カメラに向かって話すことば君。

ことば君 「話しことばは、文字では伝わらない気持ちを口調や表情で伝えることができるんだ。おしまい、ひとつ問題を出すね。『何やってるの』ということばも、伝えようとする気持ちによって声の調子が変わってくるよ。3とおりの言い方をするから聞いてみて。それぞれどんな気持ちかな？『（質問する感じで）何やってるの？』『（叱責する感じで）何やってるの！』『（からかう感じで）何やってるの』さあ、みんな、考えてみてよ」

素材④ 想像がふくらむ日本語

1 プロローグ 詩「あめ」の朗読

33 詩の情景 まど・みちお「あめ」

指導への展開

・想像がふくらむ日本語

（P.103～）

コンピュータグラフィックス(CG)による雨の
情景。

指導の手引き

(P.124~)

画面右側に詩のスーパーが流れる。

朗読の声 「あめが ふる

あめが ふる

あめが ふる

そらが おおきな かお あらう

あめが やんだ

あめが やんだ

あめが やんだ

そらが きれいな かお だした」

(まど・みちお『地球ばんざい』より「あめ」)

最後のフレーズ「そらが きれいな かお
だした」で、雨雲が切れて、陽光が射し、青空
が広がる情景となる。

34 タイトル【想像がふくらむ日本語】

35 ことば君登場

ことば君 「みんな、この詩から何を感じた? 『あめがふる』
ということばを繰り返しているね。どんな雨なんだろう、
たくさん、降っているのかな?
『そらが おおきな かお あらう』も面白いね。雨
は、空が顔を洗っている時なんだって。もう一度、い
まの詩に耳を傾けてみようか。ソレッ!」

胴体のモニターから、ふたたびCGによる雨
の情景が現れる。

36 詩の情景 (S. 33と同じ画面)

S. 33と同じCGによる雨の情景。

朗読の声 「あめが ふる

あめが ふる

あめが ふる

そらが おおきな かお あらう
あめが やんだ
あめが やんだ
あめが やんだ
そらが きれいな かお だした」

2 詩「かずかぞえ」の朗読

37 ことば君登場

ことば君 「こんどの詩は、ことばのリズムが楽しめるよ」
ことば君が胴体のキーボードをたたき、次の
シーンの画面を映し出す。

38 詩の情景 谷川俊太郎「かずかぞえ」

さまざまな数字が画面を飛びかう。その中央
に、詩のスーパーが四方八方から飛び込んで
くる。

朗読の声 「いっぴきにひき ひきがえる

さんにんよにん べんごにん
ごほんろっぼん まいくろほん
ななだいはちだい じどうしゃだい
くだんじゅうだん はしごだん」
谷川俊太郎『わらべうた・続』より「かずかぞえ」)

3 詩「ふわり うかんだ しゃぼんだま」の朗読

39 ことば君登場

ことば君 「ぼくたちがふだん使っていることばでも、表現
を工夫すると、躍るようなリズムが生まれるんだね。み
んなも、詩を聞きながら想像をふくらませてみようよ」
前と同じキーボード操作で、次のシーンの画

面を映し出す。

40 詩の情景 まど・みちお「ふわり うかんだ しゃぼんだま」

CGによるシャボン玉のファンタジックな映像に、詩のスーパーが下から上に流れていく。

朗読の声 「ふわり うかんだ しゃぼんだま

ちいさな わたしが のっている

ふわり ふわりと ふく たびに

どれにも わたしが のっている

いいな わたしよ ならんでけ

ともだち みたいに ならんでけ

やねも かざみも とびこえて

くもまで さんぽに ならんでけ」

(まど・みちお『よむうた』より「ふわり うかんだ しゃぼんだま」)

ことば君がシャボン玉に乗って登場。シャボン玉の上に立とうとするが、バランスをくずし、シャボン玉の中に入ってしまう。

ことば君はそのまま手を振りながら空を飛んで行く。

(終わり)

自然科学と暮らしを結ぶことば

気象情報のことば

●日常生活に密接なかかわりを持つ気象情報のことば

テレビ・ラジオ・電話などで視聴する気象情報は、我々の日常生活に役立つ生活情報である。ここでは、実践編「気象科学館で調べよう」でテーマにした「天気予報のことば」を中心に、次のような観点から解説していく。

- 気象情報は、どのようにして私たちに提供されているか。
- 気象情報のことばは、どのような性格を持っているか。
- 気象情報のことばは、どのように定められているか。
- 予報用語には、どんなものがあるか。

●気象庁からの情報発信

気象庁の業務

気象庁は、自然現象を常時監視し、予報、警報その他の気象情報を関係省庁や地方公共団体、民間気象事業者、報道機関などに提供することにより、災害の防止、交通安全の確保、産業の発展への寄与、国民生活の利便の向上、などを図る国土交通省の外局である。

気象庁が発表する気象、地震、津波などに関する情報は、以下のとおり多様な役割を果たしている。

- 自然災害から国民の生命・財産を守るための防災気象情報
- 陸・海・空の交通の安全を支援する交通安全情報
- 農業、電力、観光など各種産業活動を支援する産業情報
- 国民の日常生活に役立つ生活情報
- 人類の将来に警鐘を鳴らす環境情報

また、気象、地震、津波などの現象は、国境を越えて波及するところから、これらを把握するには国際的な協力が不可欠であり、気象庁は、各国の気象機関や国連の世界気象機関と緊密な連携を図っている。

正確さ・精密さが求められる情報

正確さ、精密さが求められる科学的情報を発信するために、気象庁では次のような気象

観測網によって、観測とデータ収集を行っている。

- 気象観測網：地上気象観測（アメダス観測等）、高層気象観測、レーダー気象観測、衛星気象観測、航空気象観測、地震・津波／火山観測、海上気象・海洋気象観測。
- 部外の観測データ：関係行政機関、都道府県・市町村、民間航空機・船舶等の観測データ。
- 外国の観測データ

気象情報の高度化

防災気象情報の高度化をめざして、気象庁では平成13年3月にスーパー・コンピュータ・システムを更新し、次のような改善を図っている。

- 集中豪雨などの局地予報の精度向上
- 台風の強さに関する予報の時間延長
- 週間天気予報の精度向上と信頼度情報の付加
- 一ヶ月予報の精度向上
- 降水短時間予報の時間延長

数値予報

数値予報とは、大気の運動と気温の変化、水蒸気の変化を支配する物理学の方程式に基づき、現在の大気の観測から出発して、将来の大気の物理状態（気圧配置、気温と風の分布、水蒸気と降水の分布）をコンピュータ・システムを用いた計算によって推定する技術である。身近なところでは「降水確率」もその技術によって得られる情報の一つである。

現在、気象庁から発信される天気予報は、数値予報によって得られたデータがもとになっている。気象庁では1959年から数値予報を行っているが、予報の精度が向上し、天気予報の根幹となった。高度化、精密化に向かって現在も発展中の技術である。

● 気象情報の流通

気象庁が提供する情報

気象庁が提供している気象・地震・海洋などに関するデータには、オンラインや無線通報により発表する即時的な情報と、印刷物やCD-ROM等による非即時的な情報がある。

即時情報

天気予報や天気図、注意報、地震情報などの即時情報は、気象業務支援センターからオンラインやファックスなどで入手することができる。

このほかに、以下の無線通報を行っている。

○第1気象無線模写通報(JMH)

船舶向け専用の無線FAX。

○気象庁気象衛星無線通報

気象衛星「ひまわり」が観測した雲画像を衛星経由で配信するシステム。

○緊急情報衛星同報システム

気象衛星「ひまわり」経由で津波予報等を伝達するシステム。

非即時情報

非即時情報には気温、降水量、地震などの統計資料、天気図、気象衛星の雲画像などがある。これらは印刷物やCD-ROMなどの電子媒体に収録されている。

現代の社会生活により適合した説明

気象庁が提供する防災気象情報では、想定される強い雨や風の程度を、雨量や風速で表現している。しかし、そのような定量的な表現だけでは、雨や風によって人や建物などにどのような影響が出るかを、情報の受け手に伝える上で必ずしも十分ではない。定量的な表現に加えて、人や建物などへの影響の度合いを具体的に表現することによって、情報の受け手の防災意識を高めることができる。防災関係者や報道関係者からの、現代の社会生活により適合した説明を、との要望に応えるためのものである。

●科学的な情報をわかりやすく正確に伝えるために

◆財団法人 気象業務支援センター

科学的な情報をわかりやすく伝える、近年の民間気象事業者による気象情報サービスの展開には目覚ましいものがある。気象庁では、こうした民間の気象事業者を支援するため、気象庁が保有する各種データを、財団法人・気象業務支援センターを通じて事業者を提供するなど、気象情報サービスの振興に努めている。

◆財団法人 日本気象協会

民間気象事業者の一つである日本気象協会では、気象庁が提供する気象データや情報を素材として、一般向けの気象予報(主に報道機関から報道される)、個別企業への付加価値情報サービスなどの気象情報事業を展開している。私たちの生活に身近なところでは、NHKテレビの天気図・解説図、気象情報の解説や、インターネット気象情報、NTT電話天気予報サービスなどを提供している。そこでは、ビデオ作品の実践編「気象科学館で調べよう」に出演を依頼した高田斉氏のような気象予報士が活躍している。高田氏をNHK

テレビなどの気象情報で見かけたことがある人も多いことだろう。科学的な情報をわかりやすく正確に伝えることも、気象予報士の仕事の一つである。なお、日本気象協会では、独自に研究開発事業、調査事業、国際事業、普及事業なども行っている。東京東池袋に本社、札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・福岡に支社、全国各県に支店・事業所がある。

●定義づけられた予報用語

天気予報などが、だれにもわかりやすく、正確に伝わるよう、気象庁では報道機関・気象事業者などの意見を聞きながら、次の4つの観点から予報用語を定めている。

①明確さ

意味の明確な用語を用いること。ただし、予報用語の「明確さ」は、技術的な限界を超えてまで時間や場所を特定するのではなく、予報の持つ「不確かさ」を一定のルールに基づいて表現すること。例：「所により」「一時」「時々」など。

②平易さ

天気予報などは広く一般の人を対象として発表しているため、専門的な用語は最小限とし、だれにも理解できるような用語を選択する。

③聞き取りやすさ

気象に関する情報は活字や画像で提供されるばかりでなく、ラジオ・テレビなどで音声でも提供される。文字では一目瞭然な用語でも、音声にすると意味の取り違えが起こったり、わかりにくくなったりするものがある。そのため、音声でも聞き取りやすい用語を用いるようにしている。

④時代への適応

本来、科学的な用語は時代の進歩とともに変化し、時代の求めに応じて新しい用語が生まれる。予報用語の選択にあたっては、固定的にとらえず、社会一般の言語感覚と遊離しないようにして、時代への適合を図っている。

このような観点から定められた予報用語のうち、特に日々の天気予報、注意報・警報などによく使われているものを、以下に示す。

時に関する用語

| | |
|------------|---|
| 「午前3時頃まで」 | 午前0時から午前3時頃まで。 |
| 「夜明け」 | 日の出の前の空が薄明るくなる頃。 |
| 「明け方」 | 午前3時頃から日の出頃まで。 |
| 「朝」 | 「夜明け」からおよそ9時頃まで。予報で「明日朝の最低気温」と用いるときは0時から9時。 |
| 「早朝」 | 「夜明け」からおよそ1～2時間(季節、地域により異なる)。 |
| 「朝のうち」 | 日の出からおよそ9時頃まで。 |
| 「午前中」 | 一般には午前0時から正午までだが、5時発表の予報、11時発表の予報の「今日」の予報では発表時から正午までの期間に対して用いる。 |
| 「昼頃」 | 正午の前後それぞれ1時間を合わせた2時間くらい。 |
| 「昼前」 | 正午の前、3時間くらい。 |
| 「昼過ぎ」 | 正午の後、3時間くらい。 |
| 「午後」 | 12時から24時まで。 |
| 「夕方」 | 15時頃から日没頃まで。 |
| 「宵のうち」 | 日没頃から21時頃まで。 |
| 「夜」 | 日没から日の出まで。府県天気予報では日界が24時のため、日没から24時まで。 |
| 「日界(につかい)」 | 日の統計を行う場合、1日を区切る時刻をいう。地上気象観測の統計では、日本標準時による24時を日界としている。(例) 気温0時から24時の値で統計する。 |
| 「夜遅く」 | 21時頃から24時頃まで。 |
| 「朝晩」 | 「朝」と「宵のうち」のこと。 |
| 「朝夕」 | 「朝」と「夕方」のこと。 |
| 「日中」 | 午前9時頃から日没前1時間くらいまで。予報で「明日(今日) 日中の最高気温」と用いるときは9時から18時。 |

時間経過などを表す用語

| | |
|------|-------------------------------------|
| 「一時」 | 現象が連続的に起こり、その現象の発現期間が予報期間の1/4未満のとき。 |
|------|-------------------------------------|

| | |
|-----------|--|
| 「時々」 | 現象が断続的に起こり、その現象の発現期間の合計時間が予報期間の1/2未満のとき。 a) 府県天気予報でいう現象の「連続的」と「断続的」は、次のように取り決める。 「連続的」……現象の切れ間がおよそ1時間未満。 「断続的」……現象の切れ間がおよそ1時間以上。 |
| 「のち」 | 予報期間内の前と後で現象が異なるとき、その変化を示すときに用いる。 |
| 「次第に」 | ある現象が(順を追って)だんだんと変わるときに用いる。 「はじめ(のうち)」:予報期間の初めの1/4ないし1/3くらい。週間天気予報では予報期間の初めの1/3(2日間)くらい。今日、明日、明後日に対する予報では、朝の9時くらいまで。今夜に対する予報では、19時くらいまでとなる。 |
| 「中頃(半ば)」 | 季節予報、週間天気予報で用い、予報期間の中間の1/3くらい。 |
| 「半ば過ぎ」 | 季節予報、週間天気予報で用い、予報期間の中間から1/4くらいあとまで。 |
| 「終わり」 | 季節予報、週間天気予報で用い、予報期間の終わりの1/3くらい。 |
| 「前半(後半)」 | 季節予報、週間天気予報で用い、予報期間の前(後ろ)半分を指す。 |
| 「～の日がある」 | 季節予報、週間天気予報で用いる。 a)季節予報では、記述した現象の発現期間が予報期間の1/2未満のとき。 b)週間天気予報では、記述した現象の発現期間が予報期間内で1～2日あるとき。 |
| 「～の時期がある」 | 季節予報、週間天気予報で用い、記述した現象が連続的に起こり、その現象の発現期間が予報期間の1/2未満のとき。 |
| 「～の日が多い」 | 季節予報、週間天気予報で用い、記述した現象が予報期間の1/2以上発現するとき。 |

継続を表す用語

| | |
|--------|---------------|
| 「今日一杯」 | 予報発表時から24時まで。 |
| 「明日一杯」 | 明日の0時から24時まで。 |

| | |
|--------|--|
| 「2～3日」 | 今日を含めて2～3日をさす。状況によって過去の期間をいう場合と未来の期間をいう場合がある。 |
| 「数日」 | 4～5日程度の期間。 |
| 「しばらく」 | 2～3日以上で1週間以内の期間をさす。状況によって過去の期間をいう場合と未来の期間をいう場合がある。 |

府県天気予報の予報期間

| | |
|-------------|--------------------------------|
| 「きょう(今日)」 | 5時, 11時発表の天気予報では「発表時刻から24時まで」。 |
| 「こんや(今夜)」 | 17時発表の天気予報では「発表時刻から24時まで」。 |
| 「あす(明日)」 | 天気予報では「明日の0時から24時まで」。 |
| 「あさって(明後日)」 | 天気予報では「明後日の0時から24時まで」。 |

地域に関する用語

| | |
|----------|--|
| 「海上」 | 海面から上をいう。海面上の風, 視程, 天気などの現象を述べるときに用いる。 |
| 「海岸(地方)」 | 陸と海の相接する地帯。 |
| 「沿岸(部)」 | 海岸線の両側のある広さを持った地域と水域。 |
| 「沿岸の海域」 | 海岸線からおおむね20海里(約37km) 以内の水域。 |
| 「沖」 | 海などで岸から遠く離れたところ。 |
| 「内陸」 | 海岸(地方)に対して, 海から遠く離れた地帯。「沿岸」に相対する用語で, 「沿岸」を除く地帯を指す。 |
| 「平野部」 | 起伏の極めて少ない地帯。盆地を除く。 |
| 「平地」 | 「平野」と「大きな盆地」。「山地」に相対する用語。 |
| 「山岳部」 | 平野部に対して山地の部分。 |
| 「山地」 | 山の多いところ。「平地」に相対する用語。 |
| 「山沿い」 | 山に沿った場所。平野から山に移る地帯。 |
| 「山間部」 | 山と山の間地域。 |
| 「全般に」 | 「全国的に」, 「広い範囲に」など, 広い地域を対象とするときに用いる。 |
| 「局地的」 | (府県予報区)の細分区域内のごく限られた範囲。 |
| 「方面」 | ある領域とその周辺を含む地域または海域。 |
| 「ところどころ」 | ある現象が散発して発生しているとき, その状況を総括的に表 |

現する場合に用いる。

| | |
|--------|--|
| 「所により」 | 現象が地域的に散発し、その地域が特定できない場合で、その発現域の合計面積が対象予報区全体の50%未満であるときに用いる。 |
|--------|--|

雨に関する用語

| | |
|-------|-------------------------|
| 「霧雨」 | 微小な雨滴（直径0.5mm未満）による弱い雨。 |
| 「雷雨」 | 雷を伴う雨。 |
| 「長雨」 | 数日以上続く雨の天気。 |
| 「夕立」 | 夏の午後に降るにわか雨で、雷を伴うこともある。 |
| 「ひょう」 | 積乱雲から降る直径5mm以上の氷塊。 |

雨の強さに関する用語

| | |
|----------|---|
| 「暴風雨」 | 暴風に雨を伴うもの。 |
| 「豪雨」 | 1時間または3時間の少なくとも一方が大雨警報基準を超え、かつ24時間の警報基準を超える大雨。すなわち、「激しい雨」の状態が（断続的に）続き24時間以内に100mm（北日本）～200mm（西日本）以上となる大雨。 |
| 「集中豪雨」 | 狭い範囲に比較的短時間に降る豪雨。 |
| 「局地的な大雨」 | 狭い範囲における大雨。 |
| 「大雨」 | 大雨注意報基準以上の雨。 |

雨の強さ、降雨状況

| | |
|---------|---|
| 「小雨」 | 数時間続いても雨量が1mmに達しないくらいの雨。地面がほとんどぬれないか、かすかに湿る程度。 |
| 「弱い雨」 | 1時間雨量が3mm未満の強さの雨。地面がすっかり湿る。※天気予報ではあいまいな表現は使わなくなっているため、この場合はただ「雨」という予報になる。 |
| 「（並の）雨」 | 1時間雨量が3mmから10mm程度の強さの雨。地面に水たまりができる。 |
| 「やや強い雨」 | 1時間雨量がおおよそ10mm以上で、大雨注意報の基準に達しないくらいの強さの雨。雨の降る音が聞こえる。 |
| 「強い雨」 | 1時間または3時間の大雨注意報の基準（1時間におよそ15～ |

30mm以上)を超えるくらいの強さの雨。どしゃ降りになり、傘をさしていてもぬれる。側溝があふれる。

「激しい雨」 1時間または3時間の大雨警報の基準(1時間におよそ40～50mm以上)を超えるくらいの強さの雨。バケツをひっくり返したような雨。都市では下水管があふれる。

「雨が強くなる」 「強い雨」が降るようになること。

「雨が激しくなる」 「激しい雨」が降るようになること。

にわか雨(雪)に関する用語

「にわか雨」 降水が地域的に散発する一過性の雨。

「にわか雪」 降水がしゅう雪性であって、地域的に散発する一過性の雪。

「しゅう雨」 対流性の雲から降る雨。

「しゅう雪」 対流性の雲から降る雪。

季節現象に関する用語

「季節現象」 ある季節にだけ現れ、その季節を特徴づける生物活動や大気・地面の現象。梅雨、春一番、桜の開花、秋雨、初霜、初雪、初氷、初冠雪など。

「菜種梅雨(なたねづゆ)」 菜の花の咲く頃の長雨。

「桜の開花予想」 桜(ソメイヨシノなど)の開花予想で、原則として3月3日頃(九州～関東)、3月20日頃(九州～東北)、4月4日頃(東北)、4月10日頃と4月25日頃(いずれも北海道)の5回発表している。

「さつき晴れ」 5月の晴天。本来は旧暦の5月(さつき)に由来することばで、梅雨の合間の晴れのことを指していた。

「梅雨(つゆ)」 晩春から夏にかけて雨や曇りの日が多く現れる現象、またはその期間。

「梅雨入り」 梅雨の期間に入ること。

「秋の長雨」 9月頃に現れる長雨(曇りの日があってもよい)。

「紅葉(こうよう)の見頃の季節」 落葉樹の葉が紅色や黄色に色づき、最も美しくなる時期についての予想。9月30日頃関東地方についてのみ発表している。

「時雨(しぐれ)」 晩秋から初冬にかけて、対流雲が次々に通り、晴れやくもりをくり返し、断続的に雨や雪の降る状態。

| | |
|-----------------|--|
| 「小春日和 (こはるびより)」 | 晩秋から初冬にかけての暖かく穏やかな晴天。 |
| 「冬の訪れが早(遅)い」 | 季節予報では、11月の平均気温が「低(高)い」と予想されるとき。寒候期予報および3か月予報で用いる。 |
| 「初雪 (はつゆき)」 | 寒候期 (10月～3月) が来て初めて降る雪。みぞれでもよい。富士山ではその年の高温の極値が出た日以後の雪を初雪とする。 |
| 「初冠雪 (はつかんせつ)」 | 夏が終わった後、山麓の気象官署から見て、山頂付近が初めて積雪などで白く見えること。 |
| 「風花 (かざはな)」 | 青空を背景にして、花びらが舞うようにチラチラと落ちてくる雪。群馬県では「吹越 (ふつこし)」と言う。 |

いろいろな風に関する用語

| | |
|----------|--|
| 「海風」 | 日中、気温の低い海面から気温の高い陸地に向かって吹く風。気圧傾度の弱い時に顕著となる。 |
| 「陸風」 | 夜間、気温の低い陸地から気温の高い海面に向かって吹く風。気圧傾度の弱い時に顕著となる。 |
| 「突風」 | 急に吹く強い風で継続時間の短いもの。 |
| 「風の息」 | 瞬間の風速の変動幅。(風は強かったり、弱かったり一定でない。) |
| 「季節風」 | 季節によって特有な風向を持つ風で、一般には日本付近で冬型の気圧配置の時に吹く、北西の風などをいう。 |
| 「卓越風向」 | ある地点で月ごと、または年間を通して一番吹きやすい風向。 |
| 「海陸風」 | 海陸の温度差により日中は海から陸に、夜間は陸から海に向かって吹く風。 |
| 「朝(夕)なぎ」 | 海陸風の弱まる朝夕に沿岸でほとんど風が吹かなくなること。 |
| 「局地風」 | a) 予報用語としては「局地的な風」を用いる。b) 地域によって「××おろし」、「××だし」などの名称が付く強風がある。 |
| 「離岸風」 | 岸から離れる方向に向かって吹く風。海岸付近では比較的波が穏やかでも、沖合では波が高くなっていることが多い。 |
| 「おろし」 | 山から吹きおろす冷たい強風。 |
| 「だし」 | 陸から海に向かって吹き、船出に便利な風であることからきた風の名。 |
| 「春一番」 | 冬から春への移行期に、初めて吹く暖かい南よりの強い風。 |

| | |
|-----------|--|
| 「木枯らし」 | 晩秋から初冬にかけて吹く、北よりの冷たい（やや）強い風。 |
| 「北東気流」 | 大気の下層に流れ込む、寒冷な東よりの気流で曇りや雨になることが多い。主として、関東地方を中心に用いられる。 |
| 「やませ」 | 春から夏に吹く冷たく湿った東よりの風。東北地方では凶作風といわれる。主として、東北地方の太平洋側を中心に用いられる。 |
| 「風圧」 | 風にさらされた物体が、風から受ける力。物体の形状によってかなり異なる。風向に垂直に向けた平板では風速の2乗に比例する。 |
| 「乱気流」 | 大気中の乱流。通常、飛行中の航空機に揺れを与えるような気流の乱れをいう。山岳波や積乱雲などの影響で起こることが多く、ジェット気流の近傍の高度の高いところでは、晴天乱気流（CAT）が起こることもある。 |
| 「竜巻」 | 激しい空気の渦巻きで、大きな積乱雲の底から漏斗状に雲が垂れ下がり、陸上では巻き上がる砂塵、海上では水柱を伴う。 |
| 「ダウンバースト」 | 積乱雲の底から爆発的に吹き下ろす気流およびこれが地表に衝突して吹き出す破壊的な気流をいう。通常、積乱雲の下で発生するが、雄大積雲や塔状積雲の下で発生することもある。予報用語としては「突風」として扱う。 |

注意報、警報、情報

| | |
|-------|--|
| 「注意報」 | 大雨などによって、災害の起るおそれがある場合にその旨を注意して行う予報。気象、地面現象、津波、高潮、波浪、浸水、洪水の注意報がある。気象注意報には風雪、強風、大雨、大雪、雷、乾燥、濃霧、霜、なだれ、低温、着雪、着氷、融雪の注意報がある。地方气象台などが、府県予報区を一次細分区域、または二次細分区域に分けて定められた基準をもとに発表する。ただし、地面現象注意報と浸水注意報はその注意報事項を気象注意報に含めて発表する（注意報の内容についてはそれぞれの関連項目を参照）。 |
| 「警報」 | 重大な災害の起るおそれがある旨を警告して行う予報。気象、地面現象、津波、高潮、波浪、浸水、洪水の警報がある。気象警報には暴風、暴風雪、大雨、大雪の警報がある。地方气象台などが、府県予報区を一次細分区域、または二次細分区域に分けて |

定められた基準をもとに発表する。ただし、地面現象警報と浸水警報はその警報事項を気象警報に含めて発表する（警報の内容についてはそれぞれの関連項目を参照）。

| | |
|--------------|---|
| 「見出し的警告文」 | 警報の理解，伝達を早めるために警報の要旨として「いつ」「どこで」「何が」を48文字以内でまとめたもの。 |
| 「気象情報」 | 気象の予報などについて，一般および関係機関に対して発表する情報をいう場合と，気象庁が保有する情報を総称するという場合とがある。予報に関する気象情報は目的別に分けられる。 a) 注意報，警報に先立って注意を喚起するためのもの。 b) 注意報，警報が発表された後の経過や予想，防災上の注意を解説するもの。 c) 数年に1回程度発生する記録的な短時間の大雨を観測したなどのときに，一層の警戒を呼び掛けるもの。 d) 少雨，長雨，低温，梅雨など比較的長期にわたる現象について注意を喚起したり，解説するためのもの。 e) 気象情報の種類としては，台風に関する情報，大雨に関する情報，記録的短時間大雨情報，低気圧に関する情報，少雨に関する情報，海水情報，異常潮に関する情報，指定河川の洪水情報などがある。また，対象とする予報区により全般，地方，府県気象情報がある。 |
| 「記録的短時間大雨情報」 | 大雨警報が発表されている時に，数年に1回程度発生する激しい短時間の大雨を観測，または解析したことを発表する情報。現在の降雨がその地域にとって希な激しい状況であることを周知するために発表する。 |
| 「大雨注意報」 | 大雨によって，災害の起こるおそれがある場合にその旨を注意して行う予報。 |
| 「大雨警報」 | 大雨によって，重大な災害の起こるおそれがある旨を警告して行う予報。大雨注意報，警報共通して次のように定める。 a) 大雨が原因となる地面現象によって，災害の起こるおそれがある場合または重大な災害の起こるおそれがある場合は，地面 |

現象注意報（警報）による注意報事項（警報事項）を大雨注意報（警報）に含める。

b) 大雨が原因となる浸水によって、災害の起こるおそれがある場合または重大な災害の起こるおそれがある場合は、浸水注意報（警報）による注意報事項（警報事項）を大雨注意報（警報）に含める。

c) 浸水による災害のうち、河川の増水による浸水は、洪水注意報または警報とする。

気象衛星に関する用語

| | |
|------------|--|
| 「気象衛星」 | 気象要素を観測したり、気象観測資料などを中継する機能を持った人工衛星。静止気象衛星と極軌道気象衛星の2種がある。 |
| 「静止気象衛星」 | 赤道上空約35,800kmに打ち上げられ、地球の自転と同じ角速度で移動し、地球上からは静止した状態に見える気象衛星。 |
| 「ひまわり」 | 日本が打ち上げた静止気象衛星の呼称。 |
| 「極軌道気象衛星」 | 地球の両極の上空を通る軌道を持つ気象衛星。 |
| 「ノア（NOAA）」 | 米国の極軌道気象衛星。 |
| 「雲画像」 | 雲の情報を映像化または写真化したもの。 |

アメダスに関する用語

| | |
|-----------------|---|
| 「アメダス（AMeDAS）」 | 「地域気象観測システム」(Automated Meteorological Data Acquisition System)の略称。 a) 風向・風速，気温，降水量，日照，積雪の深さの観測を自動的に行う観測システム。 b) 風向・風速，気温，降水量，日照の4種目の観測所は全国で約840か所，降水量のみの観測所は約480か所，積雪の深さの観測所は約210か所である。 |
| 「アメダスの4要素」 | 風向・風速，気温，降水量，日照の観測種目をいう。 |
| 「レーダー・アメダス解析雨量」 | レーダーとアメダスの長所を生かして作成された5km格子の降水量分布。 |

その他の気象用語

| | |
|-----|---|
| 「霧」 | 地表面付近で、無数のごく小さな水滴が空気中に浮かび、遠くがはっきり見えない現象。人の目の高さの視程（水平視程）が1km |
|-----|---|

未満の場合が「霧」であり、1km以上の場合が「もや」である。地方によっては「霧」のことを「ガス」と言う所もあるが、気象用語としては「霧」を使い、「ガス」は使わない。

| | |
|---------------|---|
| 「濃霧」 | 濃霧注意報の基準に達するような霧を言う。その基準は地方によって異なるが、視程が陸上で100m以下、海上で500m以下に定めている。 |
| 「スモッグ」(smog) | 煙 (smoke) と霧 (fog) の合成語。霧に煙が混ざったもの。狭義には、ばい煙で汚れた霧を指す。広義には、霧と関係なく、見通しを悪くするような高濃度の大气汚染を示す場合に使われる。 |
| 「気温」 | 地上の気温は、地表面から人の身長とほぼ同じ高さの1.25m～2.0mのところで測るのが基準である(世界気象機関〔WMO〕の技術規則)。1日の最高気温と最低気温の差を日較差と言う。放送では、「気温の日(月、年)較差」は、「1日(1月、1年)の気温の最高と最低の差」と言い換える。 |
| 「放射冷却」 | 地表面が空に向かって熱を放出して冷却して気温が下がる現象を言う。晴れた風の弱い夜ほど放射冷却は強い。 |
| 「気圧」 | 地球を取り巻く大気の重さによって生じる圧力を言う。気圧の単位は1992年12月から「ヘクトパスカル (hPa)」を使用する。気圧は高度が上がるほど低くなる。地表では1013ヘクトパスカル前後だが、およそ高度3kmで700ヘクトパスカル、5.5kmで500ヘクトパスカル、9kmで300ヘクトパスカルである。 |
| 「震度」 | 地震を感じた場所での揺れの強さの程度を表す指標である。被害の程度と密接に関係している。震度は地震の規模(マグニチュード)や震源の深さ、震源からの距離によって異なる。震度階級は、震度0、震度1、震度2、震度3、震度4、震度5弱、震度5強、震度6弱、震度6強、震度7、の10階級を用いる。 |
| 「マグニチュード (M)」 | 地震の規模、つまり地震が持つエネルギーの大きさを表す数字で、震源地からの距離と地震計に記録された最大振幅をもとに算出する。 |
| 「津波」 | 地震が海底で起きた場合、断層運動によって海底面が隆起した |

り沈降したりすると、海水が上下変動を起こして津波が発生する。地震の規模がマグニチュード6.5～7以上になると津波が発生するおそれがある。

【参考文献・資料】

NHK放送文化研究所編(1996)『NHK気象ハンドブック』 日本放送出版協会
 気象庁予報部編(1999)『予報作業指針 予報用語』 (財)気象業務支援センター
 ホームページ
 気象庁 <http://www.kishou.go.jp/>
 財団法人 気象業務支援センター <http://www.jmbasc.or.jp/>
 財団法人 日本気象協会 <http://www.jwa.or.jp/>

(吉岡 泰夫)

***** 【コラム①】 「雨」の読み方と語の構成 *****

漢字の「雨」は、単独では「あめ」と読む。ところが、複合語の一部になると、「通り雨・大雨・長雨・小ぬか雨・にわか雨・天気雨」のように「あめ」と読む場合のほか、「豪雨・雷雨・梅雨・穀雨・慈雨・降雨」のように「ウ」と読んだり、さらには「小雨・春雨・秋雨・霧雨・水雨・村雨」のように「さめ」と読んだりする。「ウ」は音読み、「あめ」「さめ」は訓読みである。

「雨」は「～雨」のような複合語の後半要素だけでなく、「雨～」のように前半要素にもなる。「雨量・雨滴・雨後・雨中・雨季」などは「ウ」と音読みし、「雨風・雨露・雨降り」などは「あめ」と訓読みするが、「さめ」と読む例は一つもない。「さめ」は後半要素専用の読み方である。前半要素の場合は、「あめ」よりもむしろ「雨雲・雨具・雨音・雨垂れ・雨乞い」のように「あま」と読むことが多い。また、「雨模様」のように「あめ」「あま」の両方に読む例も少なくない。いずれにせよ、「あま」は前半要素専用の読み方である。

以上を整理すると、次のようになる。

| | あめ | あま | さめ | ウ |
|------|----|----|----|---|
| 単 独 | ○ | × | × | × |
| 前半要素 | ○ | ○ | × | ○ |
| 後半要素 | ○ | × | ○ | ○ |

漢字の「雨」には4種類の読み方があるが、語の構成面から見ると、「あめ」「あめ～」「～あめ」「あま～」「～さめ」「ウ～」「～ウ」の7種が実際に語として存在する形ということになる。

【シナリオ実践編「気象科学館で調べよう」[p.23] 参照】 (相澤 正夫)

暮らしに生きる天候のことば

●地域によって異なる天候の表現

方言辞典、言語地図、方言集、方言調査報告書などによって調べると、日本語の天候に関する表現は地域的な特色があり、きわめて多彩であることがわかる。

ここでは、「夕立」「天気雨（日照り雨）」「雷（かみなり）」「梅雨」「大雨」「しのつく雨」「（雨が）降りしきる」「豪雨」「どしゃ降り」「天が抜けたような大雨」「にわか雨」「しゅう雨」について、全国各地の特色ある表現をとりあげる。

| 夕立 | | |
|---------|--------|---|
| アッタアミ | 【一雨】 | 沖縄県。 |
| アマグリー | 【雨一】 | 沖縄県新城島。「アマウクリ」沖縄県小浜島。「アモーレー」 沖縄県石垣島。「アモーリ」沖縄県竹富島。「アモーイ」沖 縄県首里。 |
| イッカケ | 【沃掛】 | 長崎県南高来郡。「イッカケアメ【沃掛雨】」熊本県宇土郡。 |
| ウチブリ | 【打降】 | 島根県。 |
| ウレー | 【潤】 | 静岡県周智郡。 |
| オシオエ | | 福島県東白川郡。 |
| オライサマアメ | 【御雷様雨】 | 宮城県石巻。「オライサンアメ」宮城県仙台市。「オライハ ンアメ」福島県相馬郡。「オライアメ」長野県諏訪。 |
| カミナリゴチ | 【雷一】 | 山形県東田川郡。「カミナリコチ」石川県能美郡。 |
| カンダチ | 【神立】 | 青森県南部、岩手県、千葉県東葛飾郡、東京都大島、神奈 川県、長野県東筑摩郡、三重県度会郡。「オカダチ」仙台、 山形県、福島県北部。「オカダチアメ」仙台、岩手県気仙 郡・胆沢郡、山形県山形市・西村山郡。「カタジアメ」岩手 県九戸郡。「カダチ」山形県。「カダチアメ」山形県、福島 県。「コダツ」山形県飽海郡。 |
| クマダチ | | 青森県津軽。 |
| カケブリ | 【一降】 | 茨城県。 |
| サダチ | | 三重県志摩、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、長崎県南 |

高来郡・西彼杵郡，熊本県天草郡，宮崎県南那珂郡，鹿児島県・肝属郡・屋久島・種子島。「サタチ」愛媛県。「サダツ」鹿児島県・蛤良郡。「サダテ」愛媛県北宇和郡・東宇和郡。「サダツチャメ」鹿児島県。「サダチアメ」熊本県天草郡。

| | |
|----------------|--|
| サナゲーユーダチ 【一タ立】 | 愛知県知多郡。北から来るタ立。 |
| ザブリ | 和歌山県。 |
| ザンザン | 静岡県浜名郡。 |
| サンバイネ 【三把稲】 | 埼玉県北葛飾郡。 ※稲を三把も束ねないうちに降ってくるところからか？ |
| シグレ 【時雨】 | 千葉県，茨城県。 |
| シタキ | 秋田県男鹿市，北海道。 |
| ソバエ 【戯】 | 島根県石見，広島県大崎上島・高田郡，徳島県，香川県。「スバイ」徳島県，香川県。「ソバエ」徳島県，香川県高松。 |
| ダイシャチコ 【大車軸】 | 岐阜県郡上郡。「ダイチャチコ」岐阜県郡上郡。 |
| トコロブリ 【所降】 | 東京都八丈島。 |
| ドシヤケ | 岐阜県恵那郡。 |
| ドンドロソバエ 【一戯】 | 香川県小豆島。 |
| ナガシ | 沖縄県首里。 |
| ナチアモーリ 【夏雨一】 | 沖縄県鳩間島。「ナツィアモーレー」沖縄県石垣島。「マツイアモリ」沖縄県小浜島。「ナツィグリ」沖縄県首里。「ナチグリ」沖縄県中頭郡。「ナツグレ」沖縄，鹿児島県徳之島。 |
| ニワカアメ 【俄雨】 | 北海道，青森県，秋田県，山形県，福島県，岐阜県，長崎県壱岐。 |
| ババオドシ 【婆脅】 | 長崎県南高来郡。 |
| ハヤテ 【疾風】 | 三重県，愛知県。 |
| フッカケ 【降掛】 | 長崎県対馬，茨城県多賀郡。 |
| ムラサメ 【村雨】 | 千葉県，石川県，青森県。「ムラサ」島根県八束郡。「ムラサク」東京都利島。 |
| ユーズ 【ター】 | 大分県南海部郡。 |

| | | |
|------------------|---------|--|
| ヨーアメ・ヨーヤメ | 【一雨】 | 鹿児島県種子島。 |
| ヨーダチ | 【夕立】 | 京都府、兵庫県、岡山県、広島県、奈良県、徳島県。 |
| ライサマアメ | 【雷様雨】 | 宮城県、福島県、岩手県。 |
| 天気雨(日照り雨) | | |
| アガリアメ | 【一雨】 | 三重県志摩郡。 |
| オヒサンアメ | 【御日一雨】 | 徳島県名西郡。 |
| キツネアメ | 【狐雨】 | 神奈川県横浜市・茅ヶ崎市、三重県名張市、徳島県麻植郡。 |
| キツネドンゴズンケ | 【狐殿御前迎】 | 鹿児島県鹿児島郡。 ※「ゴズンケ」は「ゴゼムカイ【御前迎】」と同じく、嫁入り、 婚礼のこと。 |
| キツネノゴシュウギ | 【狐御祝儀】 | 山梨県南巨摩郡。「キツネンシューギ【狐祝儀】」熊本県 天草郡。「キツネノシューゲン【狐祝言】」千葉県夷隅郡、 神奈川県中郡・小田原市。「キツネノシーゲン【狐祝言】」 島根県仁多郡。 ※「シューギ」「シューゲン」は、婚礼、嫁入りのこと。 |
| キツネノヨメリ | 【狐嫁入】 | 岐阜県飛騨、静岡県志太郡、三重県志摩郡、兵庫県淡路 島、島根県、広島県佐伯郡・芦品郡、香川県、高知県土佐 郡。「キツネノヨメリ」三重県。「キツネノヨメトリ【狐嫁 取】」青森県南部、富山県砺波。「キツネンヨメジヨモレ【狐 嫁女貰】」宮崎県西諸県郡。 |
| コビヨリ | 【小日和】 | 徳島県勝浦郡。 |
| サダチ | | 長崎県南高来郡。 |
| ティダアミ | 【天道雨】 | 鹿児島県徳之島、沖縄県鳩間島。「ティーダアミ」沖縄県 首里。「ティーダアーミ」鹿児島県沖永良部島、沖縄県石 垣島。「ティダアミー」鹿児島県喜界島。「テダアミ」鹿児 島県沖永良部島。「ティダアーミヤ」沖縄県石垣島。「テ ィダアム」鹿児島県与論島。「テダアム」鹿児島県徳之 島・奄美大島。「ティーダブイ【天道降】」沖縄県首里。「シ タシリアミ【一照雨】」沖縄県石垣島。 ※「ティダ」は「テントー【天道】」と同じく、太陽のこと。 |

「ティダアミ【天道雨】」は「太陽が照っていながら降る雨」の意味。

| | | |
|----------|-------|---|
| テリテリアメ | 【照照雨】 | 徳島県美馬郡，香川県。「テルテルアメ」徳島県三好郡。「テラテラアメ」奈良県南大和。「テンテラアメ」香川県仲多度郡。「テリフリアメ【照降雨】・テリアメ【照雨】」三重県志摩郡。「テリサメ【照雨】」新潟県佐渡。 |
| テンキヤワリ | 【天気ー】 | 三重県上野市。 |
| ネズミノヨメイリ | 【鼠嫁入】 | 香川県。 |
| バケアメ | 【化雨】 | 島根県隠岐島。 |
| ヒアタリアメ | 【日当雨】 | 神奈川県三浦郡，三重県志摩郡，和歌山市，徳島県海部郡・勝浦郡。「ヒガタリアメ」神奈川県三浦郡，山梨県南巨摩郡，徳島県海部郡。 |
| ヒアメ | 【日雨】 | 熊本県天草郡。「ヒノアメ」徳島県美馬郡。 |
| ヒデアメ | 【日照雨】 | 青森県三戸郡，徳島県。「ヒノテリアメ」徳島県名西郡，長崎県壱岐島，熊本県玉名郡。「ヒンテリアメ」新潟県佐渡。「ヒノトイアメ」鹿児島県種子島。「ヒトイアメ」鹿児島県屋久島。「ヒナテリアメ」三重県志摩郡，徳島県。「ヒガテリアメ」新潟県佐渡，愛知県知多郡，山口県大島，徳島県那賀郡・海部郡，香川県小豆島，愛媛県周桑郡。「ヒガテリ」香川県三豊郡。「ヒアテリアメ」三重県志摩郡，徳島県勝浦郡。「ヒヤテリアメ・ヒーテリアメ」三重県志摩郡。「ヒテイアメ」鹿児島県屋久島。「ヒャーリアミー」鹿児島県加計呂麻島。 |
| ヒナタアメ | 【日向雨】 | 神奈川県横浜市，山梨県，徳島県，熊本県天草郡，宮崎県西諸県郡，鹿児島県。「ヒガタアメ」熊本県天草郡。 |
| ヒヨリアメ | 【日和雨】 | 岩手県上閉伊郡，千葉県安房郡，新潟県佐渡，三重県志摩郡，山口県，徳島県美馬郡，香川県綾歌郡・三豊郡，熊本県天草郡，宮崎県。「ヒョーリアメ」島根県。「ショーリアメ」新潟県西頸城郡。「ヒヨリヨセ・ヒリョッリヤメ」徳島県。 |
| ワイタ | | 香川県三豊郡・伊吹島。 |

雷 (かみなり)

| | | |
|---------------------|--------|---|
| エナッシャマ | | 栃木県芳賀郡。 |
| オカマヤ | | 山梨県。 |
| オカミナリ (サマ) 【御雷 (様)】 | | 山梨県, 山形県。 |
| オシグレ | | 茨城県行方郡。 |
| オヤランサマ | 【一雷様】 | 山形県北村山郡。 |
| カミ | 【神】 | 石川県能美郡・江沼郡, 熊本県球磨郡。「カン」石川県河北郡。「オカミ」山梨県南巨摩郡。「オーカミ」石川県江沼郡。「カミサマ」熊本県球磨郡, 大分県北海部郡。「カミサン」新潟県佐渡。 |
| カミナリ | 【神鳴・雷】 | 共通語。「オカンナリ【御神鳴・雷】」山梨県。「カンナレ」石川県鹿島郡, 香川県綾歌郡 (幼児語), 鹿児島県。「カンナレドン・カンナレノン・カンナレロン・カンネドン」鹿児島県揖宿郡。「カンナル」富山県射水郡, 沖縄県石垣島。「カンナー」島根県出雲。「カンナサマ【神鳴・雷様】」大分県西国東郡。「カンネー」沖縄県竹富島。 |
| カンダチ | 【神立】 | 常陸, 甲府, 秋田県, 山形県西村山郡, 福島県岩瀬郡, 茨城県多賀郡, 群馬県館林, 武蔵, 上総, 神奈川県津久井郡, 山梨県, 長野県。「オカダチ【御一】」仙台, 宮城県登米郡, 秋田県雄勝郡, 山形県。「オカダチサマ」仙台, 宮城県栗原郡。「オカダツサマ・オカダツァマ・オカザツァマ【御一様】」山形県。「オカダツサマ」秋田県平鹿郡・雄勝郡, 山形県新庄市・最上郡。「オカタツァン」山形県新庄市・最上郡。「オカラツァマ」山形県北村山郡。「オカンダチ」群馬県吾妻郡・利根郡, 埼玉県入間郡, 山梨県・南巨摩郡, 長野県上伊那郡・上田。「オカンダツァマ」長野県諏訪・上伊那郡。「オゴダツァマ」秋田県鹿角郡。「カタジ」岩手県九戸郡。「カダチ」山形県, 福島県。「カミタチ」千葉県市原郡。「カンダイ」長崎県五島。「カンタチ」千葉県安房。「カンダチサマ」長野県北佐久郡。「カンダツ |

アマ」長野県南部。「カントゥメー」沖縄県波照間島。「コンダチ」青森県南津軽郡。

| | | |
|-------------------|--------|---|
| カングレ | 【神垂】 | 宮崎県都城、鹿児島県。「ガングレ」石川県鹿島郡。「カンドーラ」沖縄県小浜島（幼児語）。「カンバラ」石川県能美郡。 |
| カントゥユム | | 沖縄県宮古島・波照間島。 |
| カンナイ | 【神鳴・雷】 | 沖縄県。「カンナミ」沖縄県。 |
| ゴロゴロサン ・ゴロゴロサマ | | 熊本県、群馬県、山形県、青森県。「ゴロ」島根県美濃郡・益田市。「ゴロスケ」三重県伊賀。「ゴンゴサン」和歌山県日高郡。「ゴンゴンサン・ゴーゴーサン・ゴゴサン」熊本県。「コンボ」大分県。 |
| シグレ | 【時雨】 | 常陸。 |
| トート(コ)サマ | | 青森県、岩手県。 |
| ドンドロ | | 三重県志摩郡、岡山県、広島県、山口県屋代島・浮島、香川県（幼児語）、愛媛県。「トド」熊本県球磨郡。「トドーサン」島根県仁多郡。「ドドーサン」島根県仁多郡、広島県比婆郡。「トドサマ」山形県飽海郡。「ドドサマ【一様】」山形県西置賜郡。「ドドハン」山形県鶴岡市。「ドドラ」三重県志摩郡。「トドロ」三重県志摩郡、島根県邑智郡。「ドドロ」三重県志摩郡、島根県邑智郡、広島県、山口県。「トドロガミ【一神】・ドドロガミ」島根県邑智郡。「ドドロサン」広島県江田島・東能美島。「ドロガミ・ドロガミサン」長崎県。「ドロガミサマ【一神様】」大分県大分市・大分郡。「ドロサン」鳥取県西伯郡。「ドロダ」三重県志摩郡。「ドロドロ」島根県大田市、広島県比婆郡。「ドロドロサマ」大分県大分郡・北海部郡。「ドロンサマ・ドンドンサマ」大分県。「ドロンサン」佐賀県。「ドンガラサマ」群馬県吾妻郡。「ドンドガミ」石川県能美郡。「ドンドラ」三重県志摩郡、香川県、愛媛県中島。「ドンドラサン」香川県、愛媛県。「ドンドラハン」香川県。「ドンドリサン」長崎県佐世保市。「ドンドログメ」広島県芦品郡。「ドンドロケ」兵庫県美方郡、鳥取県。「ドンド |

ロゲ」島根県大田市。「ドンドロサマ」岡山県小田郡。「ドンドロサン」岡山県北木島・児島郡，広島県比婆郡，香川県（幼児語），愛媛県中島・越智郡大島。「ドンドロハン」香川県（幼児語）。「ドンドン」香川県佐柳島。「ドンドンサン」秋田県平鹿郡（児童語）。

| | | |
|----------|-------|--|
| ナラシ | 【鳴】 | 青森県南部，秋田県北秋田郡。 |
| ナルカミ | 【鳴神】 | 東京都八丈島，島根県石見，広島県，山口県，愛媛県。「ナルカミサン」愛媛県周桑郡。「ナリカミ」青森県南部，秋田県北秋田郡，群馬県吾妻郡，島根県石見，広島県比婆郡・高田郡，愛媛県，大分県南海部郡。「ナリカミサマ【鳴神様】」大分県東国東郡・速見郡。「ナリガミ」岩手県気仙郡。「オナリガミサン【御鳴神】」岩手県紫波郡。「オナリ」高知市。「ナラカミ」島根県那賀郡・江津市，広島県比婆郡，佐賀県。「ナラカミサン」長崎県佐世保市。「ナラカメ」島根県鹿足郡・那賀郡。「ナリカメ」島根県石見。「ナルカンガナス」鹿児島県徳之島。 |
| ハタガミ | 【霹靂神】 | 福井県西部，京都府北部。「ハタカミ」兵庫県。 |
| ハミドゥル | 【神轟】 | 鹿児島県沖永良部島。 |
| ヒカヒカ | | 兵庫県宍粟郡，鹿児島県屋久島。「ヒカヒカドン・ピカピカドン・ヒカヒカイドン・ヒカヒカサマ」鹿児島県揖宿郡。 |
| ヒャーイガンナイ | 【一雷】 | 沖縄県首里。 ※「ヒャーイ」は日照り，旱魃のこと。「ヒャーイガンナイ」は日照りのときの雷，雨を伴わない雷の意味。 |
| ヘソトリ | 【臍取】 | 島根県鹿足郡・隠岐島，大分市。「ヘソトロサン」熊本県飽託郡。「ヘソヌギ【臍拔】」山形県最上郡。 |
| ユーダチ | 【夕立】 | 長野県上伊那郡，岐阜県，静岡県庵原郡，愛知県西春日井郡・東春日井郡，兵庫県但馬・飾磨郡。「ユーダチサマ【夕立様】」愛知県東春日井郡。「ユーダツサマ」岐阜県羽島郡・郡上郡，愛知県東春日井郡。「ユーダツァマ」岐阜県。「ヨーダチ」埼玉県秩父郡，東京都八王子，神奈川県 |

津久井郡、長野県、岐阜県稲葉郡、静岡県磐田郡、愛知県、
 兵庫県、徳島県。「ヨーダチサマ」埼玉県秩父郡、東京都
 八王子、静岡県磐田郡。「ヨーダツサマ」愛知県葉栗郡・
 愛知郡。「ヨーダツツアマ」神奈川県津久井郡、長野県、岐
 阜県恵那郡、愛知県北設楽郡、徳島県。「ヨーダチサン・
 ヨーダツツァン」徳島県。「ヨダチ」京都府愛宕郡、兵庫県。
 「ヨラチ」兵庫県播磨。「イダチ」岐阜県山県郡。

| | | |
|----|-----|--|
| ライ | 【雷】 | 仙台、静岡県庵原郡、熊本県。「ライサマ【雷様】」青森県南部、秋田県鹿角郡・河辺郡、山形県、福島県、茨城県真壁郡、栃木県下都賀郡・河内郡、群馬県、埼玉県、千葉県印旛郡・東葛飾郡、東京都八王子、神奈川県津久井郡、新潟県・東蒲原郡、大分県大野郡。「オライ【御雷】」長野県諏訪。「オライサマ【御雷様】」岩手県胆沢郡・気仙郡、宮城県。「オライサン」岩手県紫波郡、宮城県仙台市。「オライハン」福島県相馬郡。「ライデンサマ【雷雷様】」群馬県勢多郡。「ライケン」岩手県気仙郡。「ダイ」熊本県。「ダイセン」熊本県下益城郡。 |
|----|-----|--|

| | | |
|-----|--|------|
| ランプ | | 秋田県。 |
|-----|--|------|

梅雨(つゆ)

| | | |
|-----------|---------|--|
| ウメシグレ | 【梅時雨】 | 鹿児島県肝属郡。 |
| クロミ | | 徳島県板野郡、香川県大川郡。 |
| ゴガツナガセ | 【五月一】 | 愛媛県周桑郡。 |
| サズイ | 【一梅雨】 | 新潟県。「サズイ」新潟県佐渡。「サゼ・サゼー」新潟県上越。「サンズイ」富山県。「タウエサズイ【田植一梅雨】」新潟県佐渡。 |
| ジアメ | 【地雨】 | 岡山県児島郡。 |
| シケ | 【時化・湿気】 | 千葉県印旛郡、岐阜県恵那郡、愛知県愛知郡・碧海郡。 |
| シブクタ・シブータ | | 東京都大島。 |
| ジブリ | 【地降】 | 岡山県児島郡。 |
| ズリ | | 北海道。 |

| | | |
|------------|-------|--|
| セツ (アメ) | | 三重県。 |
| タウエアメ | 【田植雨】 | 島根県美濃郡・益田市。 |
| チソイ・ツソイ | | 大分県大分郡。 |
| ツイ | 【梅雨】 | 香川県, 広島県, 大分県, 福岡県, 熊本県。「ツヨ」山形県。 「ツー・チュー」沖縄県宮古島。 |
| ツイリ | 【梅雨入】 | 東京都利島・新島, 神奈川県中郡, 福井県, 岐阜県, 愛知県, 三重県北部, 奈良県吉野郡, 和歌山県西牟婁郡。「ツユリ」三重県志摩郡, 和歌山県牟婁。「ツイレ」岐阜県飛騨。「ツイジ」三重県名賀郡。 |
| ナガアメ | 【長雨】 | 鹿児島県日置郡。「ナガアミ」沖縄県, 鹿児島県沖永良部島。「ナガアーミ」沖縄県竹富島・鳩間島・与那国島。 |
| ナガシ | | 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 長崎県, 徳島県美馬郡, 高知市。「ナガス」鹿児島県種子島・徳之島。「ナガセ」徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県, 福岡県朝倉郡, 佐賀県, 長崎県対馬・南高来郡, 熊本県, 大分県, 宮崎県延岡・西臼杵郡。「ナガセツユ【一梅雨】」徳島県。「ナガサアメ【一雨】」静岡県庵原郡。「ナガサメ」香川県綾歌郡。「ナガセアメ」熊本県阿蘇郡, 大分県。「ナガシニアメ・ナガシドン」熊本県天草郡。「ナガシタ」鹿児島県。「ナガイ」鹿児島県肝属郡。「ナゲシ」大分県大分郡・北海道郡。 |
| ナガブリ | 【長降】 | 岩手県。 |
| ナガメ・ナガミ | 【長雨】 | 沖縄県, 鹿児島県沖永良部島・与論島。 |
| ニューバイ・ニーバイ | 【入梅】 | 愛知県, 静岡県, 山梨県, 岐阜県, 長野県, 新潟県, 群馬県, 栃木県, 埼玉県, 東京都, 神奈川県, 茨城県, 福島県, 山形県, 宮城県, 秋田県, 岩手県, 青森県, 北海道。 |
| ハエ | | 三重県志摩郡。 |
| ボースーアミ | 【芒種雨】 | 沖縄県中頭郡。 |
| ユドゥンアミ | 【淀雨】 | 沖縄県石垣島・黒島・竹富島・鳩間島・波照間島。「ユドゥンアーミ」沖縄県石垣島・新城島。「ユードゥンアミ・ユードゥンアーミ」沖縄県石垣島。「ユドゥアミ」沖縄県波照間島。 |

「ユンドゥン」沖縄県小浜島。「ユードゥン」沖縄県石垣島。

大雨 しのかつ雨

| | | |
|-----------|-------|--|
| オーゾレ・オードレ | 【大ー】 | 奈良県南大和。 |
| ガチャアメ | 【一雨】 | 新潟県佐渡、富山県砺波。「ガチャガチャブリ【一降】」新潟県佐渡。 |
| ザラク | | 新潟県・西蒲原郡。 |
| シャジク | 【車軸】 | 宮崎県椎葉村、山梨県。「サジク」山梨県南巨摩郡、静岡県磐田郡。「シャジキ」静岡県榛原郡。「シャジキ」滋賀県愛知郡。「シャチキー」長崎県対馬。「シャチコ」愛知県北設楽郡・宝飯郡。「シャジケ」三重県北牟婁郡。「オーシャジク【大車軸】」新潟県・南蒲原郡。「ダイシャチコ【大車軸】・ダイチャチコ」岐阜県郡上郡。 ※「雨滴が車軸(車の心棒)ほどもある」ことの形容。雨脚の太い雨、大雨が降ることの意味。また、「車軸を流すほどの大雨」の意味。文献例：浮世草子『新可笑記一三・三』(1688年刊)「七日七夜の大風車軸ののち海中泥波を立」。 |
| タテコーズイ | 【一洪水】 | 山梨県・南巨摩郡。「タテコーゼー」長野県諏訪。「タテコージ」群馬県多野郡。 |
| デーウ | 【大雨】 | 沖縄県首里。 |
| ドーサメ | 【一雨】 | 岐阜県。「ドーシャメ」岐阜県羽島郡。 |
| ドシャケ | | 岐阜県恵那郡。 |
| フーアミ | 【一雨】 | 沖縄県石垣島・竹富島。「ブーアーミ」沖縄県石垣島。 |
| フルシャジク | 【降車軸】 | 長崎県壱岐島。「フリシズク」京都。 |

(雨が)降りしきる

| | | |
|--------|------|---|
| フリシャジク | (動詞) | 山口県大島。「盛んに降る」の意味。「シャジク(車軸)」の動詞化と考えられる。「～シャジク」は動詞の連用形に付いて「盛んに～する」の意を添える。使用例：「雨が降りシャジク(降りしきる)」。 |
|--------|------|---|

豪雨 どしゃ降り 天が抜けたような大雨

| | | |
|--------|-------|---------|
| シャデーブリ | 【車台降】 | 宮崎県椎葉村。 |
|--------|-------|---------|

※「車軸を流すほどの大雨」をさらに上回る豪雨を誇張した表現。

| | | |
|------------------|--------|---|
| シャデアードーデン | 【車台ー】 | 宮崎県椎葉村。 |
| ヌケブリ | 【抜降】 | 富山県東礪波郡，岡山市。 |
| にわか雨 しゅう雨 | | |
| アタダアメ | 【一雨】 | 鹿児島県。「アタダアム」鹿児島県奄美大島。「アタアミ」鹿児島県徳之島。 ※「アタダ」は「急なさま，にわかなさま」の意味。文献例：『日葡辞書』（1603年刊）「アタダニ，すなわち，ニワカニ」 |
| アッタブイ | 【急降】 | 沖縄県首里。 |
| オチアレ | 【一荒】 | 秋田県雄勝郡，山形県，新潟県佐渡。 |
| オドシアメ | 【魯雨】 | 東京都八丈島。 |
| オライサマアメ | 【御雷様雨】 | 宮城県石巻。「オライサンアメ」宮城県仙台市。「オライハンアメ」福島県相馬郡。「オライアメ」長野県諏訪。 |
| カダチ | 【神立】 | 山形県西田川郡，茨城県，群馬県吾妻郡，千葉県安房郡，東京都大島。「オカダチアメ【御神立雨】」仙台，岩手県気仙郡，山形県南置賜郡・西置賜郡。「カダチ」山形県，茨城県。「カダチアメ」山形県。 |
| サダチ | | 三重県志摩郡，香川県大川郡，愛媛県，高知県，長崎県西彼杵郡，熊本県・天草郡，宮崎県児湯郡，鹿児島県。「サーダチ」高知県香美郡。「サタチ」愛媛県，高知県。「サダッ」鹿児島県。「サダテ」愛媛県北宇和・東宇和郡。「サダチアメ【一雨】」鹿児島県肝属郡・揖宿郡。「サナッガメ」鹿児島県揖宿郡。 |
| ザブリ | | 京都府竹野郡，岡山県南部，宮崎県東諸県郡。 |
| シカケブリ | 【仕掛降】 | 鳥取県東部，島根県出雲。「シカケ」鳥取県西伯郡，島根県。 |
| シグレ | 【時雨】 | 三重県阿山郡，広島県高田郡。 |
| ソバエ | 【戯】 | 兵庫県淡路島，島根県石見，岡山県，徳島県，香川県，愛媛県，長崎県対馬。「スバイ」香川県，愛媛県新居浜市・伊予三島市。「ソバエ」山口県大島，香川県高松。「ソーバエ」 |

兵庫県淡路島。

| | | |
|--------|-------|--|
| ダシアレ | 【出荒】 | 新潟県北魚沼郡，長野県上水内郡・佐久。 |
| タチアメ | 【一雨】 | 栃木県安蘇郡。 |
| タンテキアメ | 【端的雨】 | 千葉県安房郡。 |
| ナガシ | | 沖縄県。「ナガセ」三重県志摩郡。「ナガシアミ」沖縄県中頭郡。 |
| ナガリアミ | 【流雨】 | 鹿児島県奄美大島。 |
| ニワカ | 【俄】 | 香川県。 |
| パイソーリ | | 沖縄県黒島。「ペーシュラ」沖縄県波照間島。 |
| ハコビアメ | 【運雨】 | 岩手県気仙郡，宮城県仙台市，奈良県，大分県津久見市。 |
| ハリヤミ | 【晴雨】 | 鹿児島県奄美大島。 |
| ヒトクモアレ | 【一雲荒】 | 新潟県・北蒲原郡。「ヒトクチアレ【一口荒】」富山県砺波。「ヒトカタケアレ【一片食荒】」富山県東礪波郡。 |
| フッカケ | 【降掛】 | 宮城県登米郡・玉造郡，栃木県，千葉県長生郡。「フッカエ」千葉県安房郡。「フッカケ・ブッカキアメ【降掛雨】・フッケフッケ」東京都八丈島。 |
| モラッタアミ | 【一雨】 | 沖縄県与那国島。 |
| ユーダチ | 【夕立】 | 新潟県中蒲原郡，富山県中新川郡，長野県下高井郡・上伊那郡，岐阜県飛騨，大分県速見郡。「ヨーダチ」群馬県北甘楽郡，長野県上水内郡，鳥取県八頭郡，広島県。「ヨダチ」石川県能美郡，京都府・中郡。「ヨーダチアメ【夕立雨】」静岡県駿東郡。 |
| ワイタ | | 愛媛県。 |

【参考文献】

国立国語研究所編（1966～74）『日本言語地図』全6集 大蔵省印刷局

徳川宗賢編（1979）『日本の方言地図』 中公新書

徳川宗賢・佐藤亮一編（1989）『日本方言大辞典』全3巻 小学館

徳川宗賢・吉岡泰夫ほか（1994）『椎葉のことばと文化』 宮崎日日新聞社

日本大辞典刊行会編（1972～76）『日本国語大辞典』全20巻 小学館

（吉岡 泰夫）

天候に関することわざ

天気変化

「朝雨に蓑いらず」 朝に降る雨はすぐにやむから、雨具の用意はいらない、外出を見合わせる必要はないということ。類似の意味を持つことわざに、「卯の刻（朝6時頃）の雨に傘持つな」、「朝雨は女の腕まくり」、「朝雨に鞍置け」などがある。

「朝カミナリは隣のお爺さんの頭を焼き割る」（宮崎県椎葉村） 朝、カミナリが鳴ると、隣のお爺さんの頭を焼き割るようなかんかん照りになる。

「朝雷（あさかん）鳴れば、隣（とない）にも行くな」（鹿児島県） 朝、雷が鳴るのは、いずれ天気が荒れる兆しなので、隣家にも行くなということ。類似の意味を持つことわざに、「朝雷に川渡りすな」「朝雷に川越しするな」（三重県）などがある。

「朝焼けは雨、夕焼けは晴れ」 朝、空が朝焼けしていたら、その日は雨になり、夕方、空が赤く夕焼けしていたら翌日は天気が良い前兆である。

「入り日よければ明日天気」 夕日が美しく輝いていれば、その翌日はよい天気になる。

「朝虹は雨、夕虹は晴れ」 朝、虹が立つと雨になり、夕方、虹が立つと晴れてくる。類似の意味を持つことわざに、「朝虹に川越すな」「晩の虹は鎌を研げ、朝の虹は隣へ行くな」などがある。

「月に雨傘なし、日に日傘なし」（宮崎県椎葉村） 月に暈がかかれば翌日は晴れ、太陽に暈がかかれば翌日は雨になる。暈は巻層雲が出て太陽や月のまわりに生じる白色の光の輪。

「夏海秋山」 夏は、海の沖のほう晴れていれば天気が良くなり、秋は、山のほうが晴れていれば天気が良くなる。「夏沖の秋山」とも言う。

「春海秋山」 春は海が晴れば良い天気になり、秋は山が晴れば好天になる。

「雪の明日は裸の洗濯」 雪の降った翌日は、衣類をあまり持っていない者でも安心して洗濯するという。雪の降った翌日は晴天の暖かい日になることが多いことを言う。類似の意味を持つことわざに、「雪の明日は孫子の洗濯」「雪降りには孤児の着物を洗う」などがある。

「夜の鳶に雨具を貸すな」 夜に鳶が鳴けば翌日は晴れとなるから、人に雨具を貸さなくてもよい。

「土用の朝曇り」 土用の期間は、朝曇っていると日中には晴れて蒸し暑くなる日が多い。

「曇気楼が現れた翌日は天気が悪い」(富山県魚津市)

「寒中のぼた雪は時化(しけ)の前兆」(佐渡)

「したき(大粒の湿り雪)は大時化(おおしけ)の前ぶれ」(北海道)

「寒に南風が吹けば大雪」(佐渡) ※「ぼた雪(湿った雪)」「したき」も「南風」も低気圧の接近の前兆である。

季節の移り変わり

「冬西風に春東、秋北風に夏南」 冬は西風が、春は東風が、秋は北風が、夏は南風が吹くことが多い。四季それぞれの風の方向を言ったもの。

「土用半ばに秋風が吹く」 暑い盛りの土用の期間でも、半ばを過ぎれば涼しい風が吹き、秋の気配がただよいはじめる。「土用半ばに秋の風」ともいう。類似の意味を持つことわざに、「土用の秋模様」「土用の入りに秋風が吹く」などがある。

雨

「四つ晴れに傘離すな」 「四つ」は午前10時ごろ。午前10時ごろやんだ雨はまた降ることが多いから、その日は傘を手放すなということ。類似の意味を持つことわざに、「十時上がりに傘離すな」などがある。

「冬の雨は三日降らず」 冬の雨は三日と続かず、あがりやすいものである。

「草腐しの雨は七日つづく」 草を腐らせるほど、秋の雨はいつまでも降り続く。

「百日の日照りには飽かねど一日の雨には飽く」 雨の降らない日が100日続いてもいやになつたりはしないが、雨の日は一日だけでもいやになってしまう。「百日の日照りには飽かねど三日の雨には飽く」とも言う。類似の意味を持つことわざに、「千日の晴れに飽かて一日の雨に飽く」がある。

「半夏生(はんげしょう)にゃ半夏生水(はげみず)の出る」(熊本県) 半夏生は梅雨の最盛期(7月2日頃)で、この頃までに田植えを済ませるとともに、大雨や洪水に用心する。

「夕立は馬の背を分ける」 夕立は激しくてもごく局地的に、しかも一時的にしか降らない。それはちょうど馬の背の左右で、降るところと降らないところが分かれるほどだということ。「夏の雨は馬の背を分ける」とも言う。

「雨は花の父母」 春の雨はいっせいに花を咲かせることを形容。

霧

「霧の深い朝は、昼間晴れて暑くなる」

「朝霧が早くあがると、にわか雨が早い」(京都府)

「霧が山へ上れば晴天となる」(福岡県)

「霧に雨なし」(福島市) 朝のうち霧がかかった日に雨は降らない。

天候と動物

「かつぼが顔に来れば雨」(宮崎県椎葉村) かつぼとは蛎(およ)のこと。蛎がたくさん顔に来るときは翌日雨になる。

「栗はかり(きつつき)が栗をはかれば雨」(宮崎県椎葉村) きつつきが木をつつく音が、栗を升で量るように、近く聞こえるときは雨になる。

「蜂(あしながばち)が低いところや物陰に巣を作る年は、大風(台風)が来る。高く風通しのよい所に作る年は台風が来ない」。

「蛇が木に登ると雨になる」(岐阜県、石川県、広島県、島根県、高知県)

「赤とんぼが群れをなして飛ぶときは、大風がある」(石川県鹿島郡)

天候と作物

「雪の多い年は麦の豊作」(宮崎県椎葉村)

「雪は豊年のしるし」 類似する英語のことわざに"A snow year, a rich year."がある。

「こぶしの花が上向きに咲けば豊年、下向けば凶年」(北海道)

「こぶしの花がたくさん咲くと豊作」(岩手県)

【参考文献】

- 秋山正次・吉岡泰夫(1991)『暮らしに生きる熊本の方言』 熊本日日新聞社
NHK放送文化研究所編(1996)『NHK気象ハンドブック』 日本放送出版協会
旺文社編(1992)『成語林』 旺文社
徳川宗賢・吉岡泰夫ほか(1994)『椎葉のことばと文化』 宮崎日日新聞社

(吉岡 泰夫)

話しことばコミュニケーション

敬語や敬意表現の使い方

敬語や敬意表現を使う、改まった場面のコミュニケーションは、まず、実践編の、気象庁にお願いの電話をする場面、気象科学館で気象予報士にインタビューする場面にみられる。これらの場面では、初めて接する未知の大人が相手であるから、児童・生徒も敬語や敬意表現の使い方に、気を配らなければならないと思うところであろう。相手をする気象庁の受付や、気象予報士の高田さんも子供扱いしないで、初めて接する大人とほぼ同じ程度に、敬語や敬意表現の使い方に気を配っているから、それを聞き止めて模倣を心がけることもできる。これらの場面では特に、話し相手に敬意を表す敬語や敬意表現に留意する必要がある。

同じく実践編の、教室での報告・発表・話し合いの場面では、発表・報告にふさわしい程度の改まった発話スタイル(丁寧体・敬体)が求められる。また、その場に居ない第三者に対する敬語や敬意表現にも留意する必要がある。例えば、教えていただいた高田さんに敬意を表す尊敬語や謙譲語、自分の身内を控えめに言う謙譲語などである。

いずれの場面も、児童・生徒が、改まった場面でのコミュニケーションの仕方、敬語行動を学習するよい機会である。

シナリオでは、場面に適切であること、児童・生徒にも使いやすく簡素であることに配慮して、具体的な会話で以下のように敬語や敬意表現を使った。

◆ 気象庁にお願いの電話をする場面 ◆

[p.11]

綾音 「はじめまして、希望ヶ丘小学校6年1組の坂村綾音といたします」
(初対面の挨拶) (所属・姓名を省略しない丁寧表現) (丁寧語)

気象庁の案内の声 「はい、こちらは気象庁です」
(丁寧な応答詞) (丁寧語) (丁寧語)

綾音 「今度、総合的な学習の時間で、お天気のことばを調べたいと思っています。」
(美化語) (丁寧語)

それで、気象庁にうかがって、お尋ねしたいことがあります。私たち5人で、
(謙譲語「何う」) (謙譲語「お尋ねする」) (丁寧語) (謙譲語)

質問にうかがっていいでしょうか?
(謙讓語) (丁寧語「です」)

気象庁の案内の声「はい、どうぞ おいでください。気象のことばを調べる
(丁寧な応答詞) (丁寧語) (尊敬語「おいでくださる」)

なら、気象科学館もございます。そちらもいいですよ」
(丁寧語) (丁寧語) (丁寧語)

綾音 「気象科学館ですか? それはどこにありますか?」
(丁寧語) (丁寧語)

気象庁の案内の声「気象庁の1階です。気象庁の場所をご存じですか?」
(丁寧語) (尊敬語+丁寧語)

綾音 「はい、ホームページで調べました。それで、来週の金曜日の午後2時頃に
(丁寧な応答詞) (丁寧語)

うかがいたいと思いますが、いいでしょうか?
(謙讓語「伺う」) (丁寧語) (丁寧語)

気象庁の案内の声「15日の金曜日、午後2時頃ですね。正面玄関に入って右手
(丁寧語)

の気象科学館においでください、お待ちしております」
(尊敬語) (謙讓語「お待ちする」) (丁寧語)

綾音 「ありがとうございます、それでは、どうぞ よろしく お願いします」
(感謝の挨拶) (丁寧語) (丁寧語) (謙讓語「願います」+丁寧語)

◆ 気象科学館で気象予報士にインタビューする場面 ◆

[p.12]

綾音 「・・・それできょうは、雨についての表現やことばを、主に教えていただきたい
(謙讓語「いただく」)

んです。例えば『一時雨』とか、『所により雨』とか・・・」
(丁寧語)

[p.13]

高田 「(いずれも経過をという表現で・・・) みなさん こちらに来て下さい」
(尊敬語) (丁寧語) (尊敬語「くださる」)

[p.15]

遼一 「うちの母がテニスをやろうと思っていた日に、『バケツのような雨』で行けな
(謙讓語)

くなっちゃって……」

誠 「あつ、祖母が言っていたのを、聞いたことがあります。俺のように雨が降って、
(謙讓語) (丁寧語)

前が見えなくなったそうです。きっと50^ミ以上の雨だったんだ」
(丁寧語)

[p.16]

綾音 「予報以外でも使われる雨についての表現を、教えていただきたいのです。
(謙讓語「いただく」) (丁寧語)

例えば『わか雨』と『夕立』とは、同じなんでしょうか?」
(丁寧語)

[p.18]

高田 「その通りです。みなさんのお父さんやお母さん、お祖父さんやお祖母さんに
(丁寧語) (尊敬語) (尊敬語) (尊敬語) (尊敬語) (尊敬語)

うかがってみれば、まだまだたくさん出てくるはずですよ」
(謙讓語「何う」) (丁寧語)

[p.19]

児童一同 「はい! (丁寧にお辞儀して) どうも ありがとうございます」
(丁寧な応答詞) (丁寧語) (丁寧な感謝の挨拶)

◆教室での報告・発表・話し合いの場面◆

[p.22]

綾音 「……それで、気象庁の気象科学館で、気象協会の高田さんから、お話をうかが
(尊敬語) (尊敬語)

いました。今回は『雨』にかかわることばを中心に、前もって私達が用意した
(謙讓語+丁寧語) (謙讓語)

知りたいことや、それ以外にも私達が知らない用語や表現をたくさん教えて
(謙讓語)

いただきました。また、両親などからも聞きました。発表はまず天気予報の
(謙讓語+丁寧語) (丁寧語)

『雨の用語』, 続いて『色々な雨の表現』の順でおこない ます」
(丁寧語) (丁寧語)

[p.22]

遼一 「・・・よく何^ミの雨, 例えば『50^ミの雨が降る』などという言い方をします。
(丁寧語)

しかし, 数字だけではわかりにくいところがあります。そこを, 例をあげて説明
(丁寧語)

していただき, 実感としてわかるようになりました。それがこの表です・・・」
(謙讓語) (丁寧語) (丁寧語)

翔吾 「祖父や祖母, 親戚の人たちに聞いて調べたら, 同じ降り方の雨でも地方に
(謙讓語) (謙讓語)

よって呼び方が違っていました・・・」
(丁寧語)

綾音 「気象協会の高田さんもおっしゃっていましたが, 雨の表現ひとつにも, 日本の
(尊敬語) (尊敬語) (丁寧語)

四季や豊かな自然が反映しているというのを感じました。これから, ただ
(丁寧語)

《雨か》ではなく, 見る目が変わると思います」
(丁寧語)

遼一 「みんなが気がついた雨のことばがあったら, これからも教えてください。…」
(尊敬語「くださる」)

(吉岡 泰夫)

コミュニケーション能力を育てる敬語行動教育

人間関係を築く言語能力

話しことばによる表現力や、対人関係を円滑にするコミュニケーション能力の育成ということが、学校における言語教育の課題にあげられるようになった。ことばの持つ機能の中でも、意思や情報を伝え合う伝達機能、さらに、伝え合うことによって他者との社会的なつながりを築く人間関係構築機能にかかわる、言語能力の獲得を目指すものである。

このような言語能力は、児童・生徒の話し方や対人接触の実情を知る先生方からは危機的に不足していると指摘される。その危機感から指導の必要性が提唱されるが、国語科の先生の間で話しことばコミュニケーションがもっとも指導しにくい項目としてあげられることも事実である。

ことばの機能の面からみれば、従来の国語科教育は文学教材の読解が中心であり、鑑賞機能・美的機能にかかわる言語能力の獲得を重要視してきた。国際比較によって、日本人がいかに関話しことばコミュニケーションを軽視してきたか指摘される(水谷・1983)ところであるから、国語科教育もその例外でなかったことは致し方ない。しかし、社会的・文化的にも多様な人々の交流があり、対人関係の様々な場面で円滑なコミュニケーションを行うことが重要となった現代の社会状況は、それではすまなくなっている。まして将来の社会を担う児童・生徒たちが、ことばの機能の面からもバランスの良い言語能力を獲得することは必須のこととなるろう。

話しことばコミュニケーション能力は、社会の中でよりよい人間関係を築いて生きていくために欠かせない力である。その育成は、教室に縛られず、地域や職域さまざまな社会に入り込んだ自律学習をめざす、総合的な学習の時間で取り組むのにふさわしい課題であろう。

敬語行動の学習

ことばの伝達機能や人間関係構築機能の獲得を目指す新たな課題への取り組みを考えるとき、対人的な配慮に基づくコミュニケーション行動である敬語行動は最適の学習対象となる。人が敬語行動を実現するプロセスをみてみよう。まず、コミュニケーション場面にかかわる人物の人間関係に配慮する。どんな立場の話し手が、どんな関係の聞き手に、どんな関係の人のことを話題にして話すかといった人物同士のさまざまな人間関係である。また、その場面の状

況や場所柄、話題にあがることやら伝える内容などにも配慮する。そうした配慮に基づいて、広範な言語表現や言語行動様式などの言語的要素、および非言語的要素（表情、身振り、身だしなみなどことばによらない伝達手段）の中から、その場面に最適と思う要素を選択する。選択した言語的要素の構成によって発話を生成し、非言語的要素も活用して、談話を組み立てていく。談話は参加者の相互作用によって常に再構成される。

このようなプロセスで実現する言語行動であることを踏まえ、その各段階に配慮して、コミュニケーション能力を育てる敬語行動教育を設計しなければならない。その学習内容は尊敬・謙譲・丁寧など普通に言う敬語の表現形式や用法に限らず、人に対する配慮の及ぶ言語行動を広く見渡した上で精選する必要がある。また、意思や情報を適切に伝達し、良好な人間関係を築くという目的に沿って、言語行動を最適化するプロセスを学習するのであるから、対人接触能力・対人認知能力などを含めた多種の言語能力の育成も考慮する必要がある。学習方法を考えるにあたっては、学習者の実態を把握し、どういうところが習得の壁となっているのかも考慮しなければならない。

敬語行動習得の壁

(1) 達成動機と克服すべき壁

社会人となることを意識し始める高校生を対象にした、調査研究によって次のようなことがわかっている。敬語習得の必要性についてどう意識しているかをみると、「敬語を知らないと困ることが多い」(93%)や「敬語は相手を思いやる心から生まれるものだから必要である」(80%)、「敬語は人間関係を調整するものだから必要である」(74%)など、敬語の必要性を肯定する意見がきわめて高く(吉岡・1990)、企業の事務系社員の意見(国研・1982)と同程度である。敬語習得の達成動機は企業社会の成員と変わらないくらい高いとみることができる。

その一方で、フォーマルな場面での敬語行動は苦手と意識している高校生は少なくない。その理由を尋ねた結果をみると、「ことばは知っているが、場面に合った使い方がわからない」(34%)がもっとも多く、次が「どんな言い方をすればいいか、ことばを知らない」(21%)である。敬語の表現形式についての知識が不足しているという壁も無視できない。それ以上に、コミュニケーション場面における人間関係によって規定される条件、状況やことばによって規定される条件を適切に認知できないという壁。また、その条件に配慮して言語要素を選択し発話を生成する段階の、敬語行動を最適化するプロセスがわからないという壁

が大きい。この壁を乗り越えることが敬語行動習得の重要課題と言えよう。「目上の人そのものが苦手、ことばが出てこない」(20%)や「ことばも使い方も知っているが、なんとなく気恥ずかしい」(18%)という理由には共通性がある。いずれも特別な人に対する人見知りによる苦手意識である。社会の中で生きていくためには、人見知りや人間嫌いで狭く閉じこもるわけにはいかない。身内や仲間うち以外の人との対人接触場面も自ら成立させなければならない。敬語行動実現の第一段階である対人接触に障壁があるわけで、シャイネスの克服ということも課題と言えよう。

(2) 敬語回避のコミュニケーション行動

達成動機は高いのに、フォーマルな場面での敬語行動は苦手と意識している高校生が、初対面の目上の人と対話をするとなったら、どのような談話行動がみられるのだろうか。筆者はかつて、高校生の談話を三段階の場面で収録したことがある。その中で、高校生二人と筆者(研究者と紹介された)が向かい合う、もっともフォーマルな場面の談話分析から、敬語回避のコミュニケーション行動を見いだした(吉岡・1990)。その特徴を以下に紹介する。まず、目上には未知の学校生活が話題になっても、話題進展のイニシアティブをとる積極的な発話が少ない。また、その話題をめぐって情報提供を求める目上からの問いかけに対し、応答の発話を直接的に目上に返すことなく、同席の友人とのやりとりに進展させる。目上との発話のうけつぎを回避することによって、敬語を使わなくて済むように避けておくという、敬語回避のコミュニケーション行動である。

このような談話行動をする理由について、高校生の内省は次のとおりであった。

①自分だけの判断では自信が持てない話題であるから、仲間の同意を求める。②自分だけが目上の人との発話の組み合わせに入っていくと、仲間から浮き上がってしまうような気持ちになる。③目上の人に直接的に発話を返さないで、話しやすい友人どうして話題を進展させることになっても、目上の方は参加者として聞いているのだから、間接的に伝達できる。④初対面の目上の人と面と向かうと、改まった話し方をしなければならないと思うから堅苦しい。苦手な敬語はなるべく使わなくて済むよう避けておきたい。⑤敬語がうまく使えないというコンプレックスがある。使えない敬語を無理して使って失敗したくない。

敬語行動習得の壁がどこにあるかを考えると、特に④⑤の内省には示唆されるところがある。まず、フォーマルな場面になると、自分はいまうまく使えないというコンプレックスを持つ高いレベルの敬語を使わなければならないと意識しすぎるところである。また、場面の対人関係は把握できていても、その対人的配慮を発話の生成や談話の構成に反映させようとい

うところで回避してしまうところである。このような壁を克服するには、次のような指導が必要となる。敬語の上手な使い方は、いつもていねいに言うことではない。ていねいすぎる敬語は、隔ての表現としてはたらし、よそよそしい態度に受けとられてしまう。それは、発話を直接的に返さないのと同じくらい相手を遠ざけてしまう。敬語に習熟した大人の談話では、場面に応じたていねいさで言うために、敬意レベルを下げた表現を使ったり、敬語の集中度の高い言いまわしを避けたりする敬語回避が行われる。ぎくしゃくした人間関係にならないためにも、人に対する配慮を伝える手段は、普通に言う敬語だけではないことに気づくべきである。また、高校生が普段の話しことばで使っている方言敬語も人を高めて近づける効果を持った敬語であることに気づけば、敬語コンプレックスの克服に役立つであろう。

敬語行動の学習方法

敬語行動の学習は、自分や身の回りの人のコミュニケーション行動を内省・観察することから出発するのが効果的と考えられる。それでは教材の準備が大変だと言われそうだが、人間関係に悩む小説や人の世を論じた評論を掲載した国語教科書に勝るとも劣らない、生きた教材が現実社会にはふんだんにある。もちろん学校生活にも見出すことができる。

例えば、①三者面談の席で先生から「運動会にはお祖父さんもいらっしゃいますか」と聞かれた母親が「はい、参ります」と答えた。②自分(生徒)が聞かれたときは「はい、来ます」と答えた。③自分がパソコン・ショップに店長さんを訪ねて行ったとき、店員さんは「すぐ参りますので、こちらでお待ちください」と言った。④学校に校長を訪ねてきたお客さんに応じた受付は「応接室にいらっしゃいますので、ご案内します」と言っていた。これだけの内省・観察を教材にしても、敬語行動を観察する視点の指導があれば、学習者自身が次のようなことに気がつくであろう。話し手にとって身内であり目上である人物のことを話題にして、よその人に話すとき、人によって「来る・参る・いらっしゃる」の使い方に違いがあること。家族と商店は身内の側を控えめに言う表現を使っているのに対し、学校では身内の側を高める表現が使われること。自分(生徒)が使っている「来る」はそのどちらでもないこと。これは、その場面の話し手・聞き手・話題の人物の関係をどのように位置づけるかという人間関係把握の習慣や、ことばを選択するルールが違うからではないかということまで考えが及べば、学習の出發は成功と言えよう。

さらに、聞き手の側の気持ちを考えることもできるであろう。③の場面では聞き手である自分はどんな感じがするか。もし④の場面で自分が外来者であったらどんな感じがするか。人に

対する配慮がどう伝わり、どう受け止められるのか、いろいろな立場で考えることも効果的な学習である。

筆者は昔、ある高校生から国語の授業をボイコットした話を聞いた。その理由を尋ねると、その先生が生徒を相手にして使う自称が「先生」である。これは「日本語の使い方としておかしい。子供扱いされているようで嫌だ」と言うのである。格好の教材を演出する先生と、それを「子供扱いされている」という鋭い視点でとらえる生徒が対峙する教室は、もうそれだけで敬語行動学習の導入に成功している。この話題をきっかけにして、その高校生と筆者は学校生活場面で気になる自称および呼称を選び出して、どう受け止められているかを学習した。教材を提供し、学習を展開したのはもっぱら高校生の方である。

敬語行動の学習では、敬語行動を実現するプロセスの各段階で必要な能力が習得されなければならない。まず、対人接触を成立させる段階では、自分とは異なる他者を理解し、折り合いをつけて受容する対人接触能力が必要となる。接触が起こる場面の状況を把握する力も求められる。場面把握の段階では、その場の社会的状況を受け止め、参加者の人間関係の条件に適切に配慮する対人認知能力が求められる。場所柄や状況に関する条件、伝えることがらに関する条件に配慮する能力も必要となる。人に対する態度の形成とともに、配慮の仕方を学習することが目標となる。

発話を生成する段階では、人に対する配慮、状況やことがらに対する配慮を、言語要素の選択や文の構成に反映させる言語能力が必要となる。この段階での学習では、敬語の語彙や文法に関する知識を習得することとともに、敬語行動のしくみを学習することが目標となる。

談話を構成する段階では、目的に応じた効果的な敬語行動を学習することが目標となる。談話には何らかの目的がある。とりとめもないようなおしゃべりでも対人関係の距離を近づけるという目的がある。会議なら合意を得るといった目的がある。その目的を遂行するコミュニケーション方略を学習するのである。

敬語行動の学習内容

(1) 話し相手に配慮した敬語行動

● 丁寧語

従来の敬語教育では、話し相手に敬意を表す対者敬語の中で、丁寧語の「です」「ます」「ございます」がもっぱら取り上げられてきたところである。しかし、コミュニケーション能力を育てるということを目標にするならば、話し相手にていねいな気持ちを伝える言語表現・言

語行動を広範に見渡した学習内容が考えられる。

● 丁寧表現

話し相手の気持ちを考えて、ことばを選ぶということは、友達どうしのコミュニケーション場面であっても普通に行っていることである。例えば、友達から自転車を借りようとするとき、どんな言い方をするか考えてみよう。「チャリ貸せ! (命令)」「チャリンコ貸してよ (要求)」「チャリンコ貸してもらえないかなあ (依頼)」「チャリンコ貸してほしいんだけど (願望)」「かっこいい自転車, 貸してくれたら嬉しいなあ (婉曲)」「チャリンコ, いいかなあ? (許諾依頼)」「自転車, あいてる? (問いかけ)」などさまざまであろう。「チャリ!」と言いながら、カギを求める手を差し出すこともあるかもしれない。これらの言い方の中で、相手が気持ち良く貸す気になるのは、どの表現か、相手の立場に立って考えてみよう。大切にしている自転車だったら、「チャリ貸せ!」や「チャリ!」と言われて、貸したくないだろう。やはり、依頼や願望の表現の方が、貸してもいいかなという気持ちになるだろう。婉曲の表現も親しい間柄では効果的かもしれない。もう少し相手の立場を考慮すると、相手には貸せない事情や断らざるを得ない理由があるかもしれない。友達のたのみというものは断りにくいものだが、断らざるを得ない理由を言えば、友達に悪いなあという気持ちの負担は軽くなる。そこまで考慮して、相手の断る権利を保証した言い方が許諾依頼や問いかけの表現である。相手に気を配ると、相手もこちらに気を配ってくれるはずである。「自転車, あいてる?」に対して、「悪いなあ, 今から使うんだよ。でも, B君ならあいてると思うから, 聞いてみるよ。ちょっと待って」という返事が期待される。このように、お互いに折り合うことによって、気持ちのかよい合うコミュニケーションが成り立つ。丁寧表現の使い方の基本的なところである。

このほか、シナリオの中で例をあげると、初対面の挨拶「はじめまして」、丁寧な応答詞「はい」(否定の場合は「いいえ」)、感謝の挨拶「ありがとうございます」「ありがとうございました」、丁寧なイントネーションや口調といったパラ言語的要素も、丁寧表現となる。

● 丁寧な言語行動

対人的な配慮に基づく丁寧な言語行動も、取り上げておく必要がある。自分の意思や持っている情報を、相手に理解されやすいようにと配慮して、説明の仕方、話題の持ち出し方、話の進め方を工夫する言語行動である。例えば、面接試験の場は、自分を相手に理解してもらい、受け入れてもらうための言語行動の工夫が必要とされる場所である。相手に配慮して工夫するところが丁寧表現行動である。

シナリオの中で例をあげると、気象庁にお願いの電話をする場面で次のような丁寧な言

語行動がある。まず、訪問して取材させてもらうことをお願いするという目的に沿って、「どこの、だれが」「なんの目的で」「なにを調べに」「なん人で」「なん月なん日の」「なん時頃に」という明確な希望を、ノートのメモにしたがって伝えている。また、「どこの、だれが」についても、初めて電話をする相手であることに配慮して、所属・姓名を省略しないで「はじめまして、希望ヶ丘小学校6年1組の坂村綾音と申します」と言っている。「希望小の坂村です」では初めての相手にはわかりにくい。自分を相手に理解してもらい、受け入れてもらうための丁寧な言語行動である。

● 丁重語

普通に言う敬語の範囲で、改まった気持ちを伝える丁重語は、従来の敬語教育ではあまり取り上げられなかったところである。シナリオの中で例をあげると、気象庁にお願いの電話をする場面で、気象庁の案内が使っている「どうぞ」「そちら」、坂村綾音が使っている「どうぞ」「よろしく」「おこない(ます)」などである。これらの丁重語は、場所柄や状況をわきまえて、改まった気持ちを伝えるとともに、その場の聞き手に敬意を表すものである。

職域社会でよく使われる丁重語に、「こちら」「そちら」「あちら」「どちら」「いかが」「いかほど」、「しばらく(ちょっと)」「少々(少し)」、「さくじつ(きのう)」「ほんじつ(きょう)」などがある。

使い方に注意が必要なものに、「よろしい(良い)」と「けっこう」がある。「2時にお訪ねしてよろしいでしょうか?」と相手の許諾を求めるときに使うのは適切だが、その返事で「よろしいです」と使うと尊大な感じを与える。承諾と断りの両方に使われる「けっこう」は、「けっこうです」だけでは意図が伝わらない。承諾ならば「その価格でけっこうです。契約しましょう」と補足する必要がある。また、「もう一杯いかがですか」とすすめられて、断る場合は「もうけっこうです。十分いただきました」と補足すると意図が伝わる。

(2) 話題にのぼる人に配慮した敬語行動

話題にのぼる人に配慮した敬語行動の学習では、話題の人物に対する素材敬語の、尊敬語・謙譲語が学習内容となる。話題の人物に対する敬語の用法というのは英語のpolitenessには希薄なもので、英語圏の日本語学習者はその習得に苦労すると聞く。実は、学習のモデルとなる日本人にとっても習得はそう簡単ではない。誤用かゆれかで論争が起こったり、ことば遣いになってないと非難され、摩擦の原因になったりするのも多くは尊敬語・謙譲語の問題である。筆者は、日本人の尊敬語・謙譲語の使用と規範意識に大きな地域差・社会差が生じている調査

結果を示し、広範な社会的関係の人々の交流で、对人的配慮がうまく伝わらないコミュニケーション障害が起きるおそれがあることを指摘した(吉岡・1997・2000)。だからこそ、実社会に出て必要となれば自然と身につくと楽観しないで、学校教育で敬語行動の学習に取り組んでほしいと筆者は思う。

【ウチ・ソトによる尊敬語と謙讓語の使い分け】

尊敬語と謙讓語は、その場面に関わる人物同士の間人間関係を把握して、使い分ける必要がある。他者の側つまり「ソト」について言う場合は尊敬語を、自分の側つまり「ウチ」について言う場合は謙讓語を使う。尊敬語は、他者の側を高めて表現するときに使う敬語で、他者に対して敬意を表す。謙讓語は、自分の側を控えめに表現するときに使う敬語で、自分の側について謙遜した表現をすることによって、相対的に他者に対して敬意を表す。

【尊敬語の用法】

尊敬語の用法は、大きく分けて二つある。

(A) 友だちに「高田さんもそうおっしゃってたよ」と言ったときに使われている「さん」や「おっしゃる」の用法である。これは話し手が、話題にのぼった他者(高田氏)を敬称「さん」で、その行為「言う」を尊敬語「おっしゃる」で高めて表現することによって、その場に居ない他者に敬意を表すものである。

(B) 対面する相手に「ビデオをご覧になりますか」と言ったときに使われている「ご覧になる」の用法である。これは話し手が、面と向かっている他者(聞き手)の行為「見る」を尊敬語「ご覧になる」で高めて表現することによって、目の前に居る他者に敬意を表すものである。

(B') 対面する相手に「それはご両親のご希望ですか」と言ったときに使われている「ご両親」や「ご希望」である。これは話し手が、面と向かっている他者(聞き手)の側に属する人(聞き手の両親)を尊敬語「ご両親」で、また、その人の希望を尊敬語「ご希望」で高めて言うことによって、目の前に居る他者に対してと同じように、他者の側の人に敬意を表すものである。

【謙讓語の用法】

謙讓語の用法は、大きく分けて二つある。

(A) 友だちに「母も高田さんからお話をうかがいたいと言っていたよ」と言ったときに使われている「母」や「うかがう」の用法である。これは話し手が、自分の側の人である「お母さん」のことを謙讓語「母」で、その行為「聞く」を謙讓語「うかがう」で控えめに言うことによって、その行為の相手である他者(高田さん)に敬意を表すものである。

表1 動詞を間にはさむ形式、動詞の後に敬語の助動詞・補助動詞を付ける形式

(～は動詞。「 」内は使用例)

| 尊敬語 | 謙讓語 |
|----------------------|-----------------------|
| お(ご)～になる 「お待ちになる」 | (ご)～する 「お待ちする」 |
| お(ご)～なさる 「ご質問なさる」 | お(ご)～いたす 「お尋ねいたします」 |
| お(ご)～くださる ※「お書きくださる」 | お(ご)～いただく 「ご利用いただく」 |
| | お(ご)～申し上げる 「ご案内申し上げる」 |
| | お(ご)～にあずかる 「おほめにあずかる」 |
| ～ていらっしゃる「分かっていらっしゃる」 | ～ていただく 「譲っていただく」 |
| ～てくださる ※「教えてくださる」 | ～てさしあげる 「調べてさしあげる」 |
| | ～てあげる 「読んであげる」 |
| ～なさる ※「見せなさる」 | |
| ～れる・～られる 「希望される」 | |

※印の用法は、「お書きください」「教えてください」「見せなさい」などのように命令形で用いることがあるが、ほかの活用形に比べて敬意は低くなる。

表2 もっぱら敬語として用いられる動詞(敬語動詞)

(普通の動詞を敬語動詞に置き換えて使う)(「 」内は使用例)

| 動詞 | 尊敬語 | 謙讓語 |
|------------|----------------------------------|---|
| 行く・来る・居る | いらっしゃる・おいでになる・みえる 「会場においでになる」 | まいる・参上する・うかがう 「二時にうかがいます」 |
| 言う | おっしゃる 「名前はなんとおっしゃいますか」 | 申す・申し上げる 「坂村綾音と申します」 |
| する | なさる「どうなさいますか」 | いたす「私がいたします」 |
| 聞く | ※ | 拝聴する・うかがう・うけたまわる 「お話をうけたまわります」 |
| 見る | ご覧になる | 拝見する |
| 食べる | 召し上がる 「何を召し上がりますか」 | いただく 「和食をいただきます」 |
| くれる・やる・与える | くださる 「招待状をくださる」 「一つください」 | さしあげる・あげる 「招待券をさしあげる」 「お年玉をあげる」 |
| もらう | ※ | いただく・頂戴する・たまわる 「お土産をいただく」 「祝辞をたまわる」 |
| 会う | ※ | お目にかかる |

| | | |
|-------------|------------------|------------------------------|
| 見せる | ※ | お目にかかる |
| 知る・知っている・思う | ご存じ 「ご存じでしたか」 | 存ずる・存じ上げる 「存じます」「存じ上げません」 |

※印の箇所のように敬語動詞がない場合は、表1に示した「お～になる」「～れる・～られる」などの形式を使って「お聞きになる」「会われる」などのように言うことができる。

(B) 対面する相手に「気象庁にうかがって、おたずねしたいことがあります」と言ったときに使われている「うかがう」や「おたずねする」の用法である。これは話し手が、自分の行為「行く」「たずねる」を謙譲語「うかがう」「おたずねする」で控えめに言うことによって、その行為の及ぶ相手である他者（聞き手）に敬意を表すものである。

(A) (B) いずれの用法においても、謙譲語は、自分の側を控えめに言うことによって、相対的に他者に対して敬意を表すものである。

【尊敬語と謙譲語の形式】

人の行為について言う場合の尊敬語と謙譲語のおもな形式を、表1、表2の対照表に示す。

表1は、普通の動詞を間にはさむ「お～になる」「お～する」などの形式や、動詞の後に敬語の助動詞・補助動詞を付ける形式を示す。表2は、もっぱら敬語として用いられる動詞（敬語動詞）を示す。これらは普通の動詞を敬語動詞に置き換えて使う。

(3) 話し手のみだしなみに配慮した敬語行動

話し手のみだしなみや、話の品格に配慮した敬語行動で使われる敬語に美化語がある。これは、聞き手にどう感じられるか意識して使うものだが、敬意を表すということはない。上品なことばを使うことによって話し手の品位を保つものである。「食べる（食う）」「おいしい（うまい）」「ごはん（めし）」「あたえる（やる）」「お手洗い・化粧室・レストルーム（便所）」などのほか、「お天気」「お菓子」などの「お」がある。「お」の使い過ぎはしばしば問題になる。2音節の「ねぎ」に「お」を付けて「おねぎ」と言うのは良いが、4音節の「にんじん」に「お」を付けると使い過ぎの感がある。4音節以上の長い語や外来語に「お」を付けるのは好ましくない。「おビール」や「おトイレ」は誤用例である。

言語環境への配慮

敬語行動の教育にあたっては、学習者の言語環境に配慮することも大切である。ここで言う

言語環境とは、学習者の社会的・文化的な背景である。外国人と日本人が接するとき、異文化による摩擦が起きないように、お互いの文化・社会習慣を理解しあって、敬語行動においても相互に歩み寄る。ひとくちに日本人の児童・生徒と言っても、住んでいる地域、所属する社会（家庭やクラブ）によって言語環境は異なる。「国語に関する世論調査」（文化庁・1996）のデータを分析した結果（吉岡・2000）によって、次のような敬語行動の地域差が明らかになった。

- 方言敬語が簡素な地域では、目上の聞き手の行為を面と向かって尋ねる改まった場面でも、尊敬語を使わない形式（「見ますか」「しますか」「読みましたか」など）の使用率が高い。方言敬語簡素地域という言語環境が、共通語場面の敬語行動の習慣にも影響していることがわかる。
- 共通語敬語が発達している地域では、尊敬語動詞や「お～になる」形式などを用いた共通語で敬意の高い尊敬表現（「ご覧になりますか」「お読みになりましたか」など）の使用率が高い。敬意の高い共通語敬語形式を多く使う敬語行動の習慣は、使い過ぎの誤りである二重尊敬（「お召し上がりになりますか」「お読みになられましたか」など）の使用率が、他の地域に比べて高いという傾向も生んでいる。
- 方言敬語が多彩に発達している地域では、方言敬語にも敬意の高い形式があり、改まった場面でも、多彩な方言敬語と共通語敬語の両方が使われる傾向がある。しかも、年齢の高い世代になるほど、敬意の高い形式が求められる場面でも方言敬語をよく使う傾向がみられる（吉岡・1995）。方言場面で、多彩な敬語をよく使う敬語行動の習慣は、共通語場面にも転移し、共通語で敬意の高いものから低いものまで幅広い尊敬表現の使用率が、他の地域に比べて高いという傾向を生んでいる。逆に、尊敬語を使わない形式の使用率は、三つの地域区分の中で最低である。

地域社会の言語レパートリーに、方言敬語が簡素であるか、豊かであるかという言語環境が、共通語場面の敬語行動にも大きく影響することが明らかになった。児童・生徒の言語環境として、地域的な多様性や母方言への配慮も忘れてはならないことである。

さらに、方言敬語が多彩に発達している地域では、同じ尊敬語形式が少し離れた地域で、敬意の高さに差が生じていることがある。熊本日日新聞に掲載された記者のコラムを紹介しよう。記者が天草島の中学校から希望に燃えて熊本市内の県立高校に入学した少年時代の傷心の思い出である。

ある日、体育教官室に先生を呼びに行った時のこと、不在だったので、いっしょに来た友人に「先生は、オラッサン」と言った途端、居合わせた別の教師から、「オラッサンとは

何か、オンナハランだろ」と烈火のごとく怒られた。こちらは、十分に尊敬を込めて言っ
たつもりだったから、キョトンとした覚えがある。

この場面で「イラッシャラナイと共通語で言え」と言われなかっただけでも、まだましである
が、「君の母方言は悪いことばだから、改めよ」と、方言コンプレックスを植え付けるような指
導をされたことに変わりはない。

地域的にも社会的にも多様な人々の交流が盛んな現代である。児童・生徒が、さまざまな場
面で円滑なコミュニケーションを実現させ、良好な人間関係を築く言語能力を育てる敬語行
動教育が求められる。

【参考文献】

- 国立国語研究所(1982)『企業の中の敬語』三省堂
文化庁文化部国語課(1996)『国語に関する世論調査』(平成8年度調査)文化庁
水谷 修(1983)「日本人の話し方を考える」『話しことばの表現』筑摩書房
吉岡泰夫(1990)「フォーマル・コミュニケーションの壁」『言語』19-8 大修館書店
吉岡泰夫(1995)「敬語行動と規範意識」国立国語研究所編『研究報告集』16 秀英出版
吉岡泰夫(1997)「敬語行動と規範意識の地域差」『言語』26-6 大修館書店
吉岡泰夫(1997)「コミュニケーション能力を育てる敬語行動教育」『日本語学』16-11 明治書院
吉岡泰夫(2000)「敬語使用と規範意識の社会差・地域差」『計量国語学』22-6 計量国語学会

(吉岡 泰夫)

豊かな日本語

素材編【あんな日本語・こんな日本語】(約23分)は、ことばやコミュニケーションのさまざまな側面を素材として提供している。4パートのオムニバス形式で、それぞれのテーマと素材は次のとおりである。

☆「思いやりのある日本語」

人への心くばりや思いやりを伝える、話しことばコミュニケーション。

☆「元気のいい日本語」

作業や運動をするときの威勢や活気を生み出すコミュニケーション。

社会集団で異なる表現(社会方言)。職種の違いによるコミュニケーションの多様性。

☆「表情豊かな日本語」

心情や意図を伝える話しことばコミュニケーション。

口調や韻律などのパラ言語。表情や身ぶりなどの非言語行動。

☆「想像がふくらむ日本語」

想像がふくらむ詩的表現。リズムやテンポの表現。

話しことばと書きことばを結ぶ朗読音声。

思いやりのある日本語

人はだれも、ひとりぼっちで生きていくことはできない。家庭、学校、地域、職場など、人と人が互いに支え合いながら社会集団をつくって生きている。そこでは、自分と他の人との結びつき、つまり人間関係を自分で築いていくことが必要になる。人と人がつきあい始めて人間関係を築くとき、ことばでお互いの気持ちや考えを伝え合うことが重要になる。特に、話しことばによるコミュニケーションを円滑に進めると、お互いに気持ちを通い合わせることができる。

このパートでは、人間関係を築く話しことばのはたらきに目を向けている。児童・生徒が日常的に経験する場面を設定して、人への心くばりや思いやりを伝える、話しことばコミュニケーションの在り方を示している。各場面の要点は以下のとおりである。

● 相手の人格を認めるコミュニケーション

小学6年生の康文君が、骨折して整形外科に入院したときの、看護婦さんとのコミュニケー

ションと、キャラクターのことは君が怪我をして、ロボット修理工場に行ったときの、メカニックさんとのコミュニケーションを比較してみよう。

看護婦さんは「康文さん、お加減いかがですか。まだ、痛むかしら?」と声をかける。康文君に対して敬語(尊敬語「さん」「お加減」・丁寧語「いかが」・丁寧語「です」)を使って、大人と同等の対応をしている。相手の人格を認めるコミュニケーションの在り方で、康文君を子供扱いしていない。時として、高齢者が「おじいちゃん、まだ、痛い?」と言われて、人格を傷つけられる思いをしたと聞くことがあるが、この看護婦さんにはそんなところがない。冒頭の会話で敬語を使って康文君に敬意を表し、その後は、敬語を抜きにして親近感を表すコミュニケーションをしている。

一方、キャラクターのことは君が、サッカーで怪我をしてしまって、ロボット修理工場に行った時、苦痛を訴えることは君に対して、メカニックさんは「自分のキックの技術が下手なんだから、仕方がないだろう」と言う。おまけに何の予告もなく、いきなり痛い足を折り曲げる。これは、ことは君を機械あつかいして、人格を認めていない対応である。ことは君が「ロボットだからって、ちょっと思いやりがなさすぎると思わない?」と言うとおり、思いやりのないコミュニケーションの典型である。

相手の人格を認めることが、思いやりのあるコミュニケーションの第一歩と言えよう。

● お互いに共感を得られるコミュニケーション

共通の話題を見つけて、歩み寄り、お互いに共感を得られるコミュニケーションが達成できたら、こんなに楽しいことはないだろう。話はずむと、自分とはいろいろな面で違いが大きく、遠い存在と思っていた人とも、また、初対面の人とも、気持ちがかよい合って、お互いの距離を近づけることができる。では、どうしたらお互いに共感を得られるコミュニケーションが成り立つのだろうか。

看護婦さんと康文君とのコミュニケーションをみてみよう。

看護婦 「痛いと思うと、よけい痛くなるから、例えば野球のことだとか、サッカーのことだとか考えて、気を紛らすといいみたいよ。私も経験があるの」

康文 「看護婦さんも、骨折したことあるの?」

看護婦 「私は盲腸の手術をしたの。麻酔が覚めたら痛くてね」

康文 「何で気を紛らせたの?」

看護婦 「ウフフ・・何だと思う? (考える康文に小声で) 美味しいケーキのことだ

とか食べること」

康文 「(すっかり楽しくなって) いいなー、ぼくはやっぱり野球のことだな」

看護婦 「強打者なんだって？ お見舞いに来たお友だちが言ってたじゃない」

康文 「うん、あーあ、試合に出たいなー、いつ頃治るかなあ」

看護婦 「早く治るといいわね。こんど先生に聞いてごらん下さい。若いから治りは
うんと早いと思うけど」

看護婦さんは、苦痛に耐えている康文君に対して共感を示している。また、相手の置かれた状況に気を配って、自分の経験を話すことによって歩み寄り、苦痛を克服する提案をしている。

●お互いの接点を見つける

相手に関心を持つ話題で接点を見つけることも大切である。共感を得るコミュニケーションのためには、お互いに関心のある話題を探すという努力が必要である。そのためには、自分とはいろんな面で異なる相手に関心を持つことである。相手が持っている興味や関心、考え方や価値観などに近づくことによって、お互いの接点となる話題を見つけ出すこと、その話題を提供して相手の興味や関心を引き出すことができれば、話がはずんでお互いに楽しくなる。

話し方のスタイルを工夫することで接点を見つけるのも効果的である。看護婦らしい話のスタイルに終始することなく、時にはコードスイッチして、「ウッフ・・何だと思う？」というような、お互いに気持ちがよく伝わるようなことばを使っている。これも話し方のスタイル面での歩み寄りである。

●相手に配慮したことばの選び方

心の中では骨折した友だちのことを気遣っていても、ことばの選び方しだいで、その気持ちが伝わらなかつたり、また逆に、気遣ってないように受け取られてしまうことがある。相手を理解し、相手に配慮したことばを選ぶことが大切である。

まず、ことばの選び方に失敗した例をあげよう。

実 「康文、久しぶりだな。自転車で転んで骨折だって？ 何で転んだんだよ」

康文 「車を避けようと思って・・・」

実 「カッコつけすぎるからだよ、お前は！」

実君は康文君を気遣ってはいるのだが、その気持ちをうまく康文君に伝えることができなかった。実君は、ことばの選び方と、そのことばを伝える口調や表情に工夫が足りなかったの

である。親密な間柄であれば、「カッコつけすぎるからだよ、お前は！」ということばでも励まし
の気持ちは伝わるかもしれない。しかし、その口調が、「まったく、心配させやがって、しょう
がないなあ、おまえは、アハハ」というような、冗談めかした笑いを含む調子でないと、うまく
伝わらない。

その点を、俊成君のことばの選び方と比較してみよう。

俊成 「おう、康文、もう痛まないか？」

康文 「うん、ありがとう、お医者さんがもう大丈夫だって」

俊成 「強打者が退院してきてくれて良かったよ。試合続きで、みんな待ってたんだぞ」

俊成君は、「もう痛まないか？」と、康文君を気遣う気持ちを素直に伝えることばを選んでい
る。また、退院できたことを共に喜び、みんなの喜びとする表現を選んでいる。

●思いやりのあるコミュニケーション

思いやりのあるコミュニケーションを実行しているのが、誤って食器を割って皆から責め立
てられている智絵さんに、助けの手をさしのべる祐理恵さんである。

まず、「みんな騒ぐのやめなさいよ、ちょっと不注意だとは思うけど、割れちゃったものしよ
うがないじゃないの」と、責め立てる皆を制止して、四面楚歌の智絵さんを救っている。さら
に思いやりを感じさせるのは、割れた皿より先に、智絵さんに目を向け、「大丈夫、怪我しなか
った？」と、気遣うことばをかけているところである。食器より智絵さんの身体の方を大切に
思う気持ちが伝わる。「さ、一緒に片づけよう。こんどから気をつければいいんだから、先生だ
って叱らないわよ。誰だって失敗はあるもの、ね」というのも、共感を示して、助けの手をさし
のべるコミュニケーションであり、決して恩着せがましく聞こえない。このように思いやりを
示すと、みんなも、「ほら、黙って見ていないで、みんなも手伝って！」とうながされて、手伝う
しかない。

人への心くばりや思いやりを伝える、話しことばコミュニケーションの理想的な姿を、祐理
恵さんの言語行動にみることができる。

【参考文献】

吉岡泰夫・村上敬一(1999)『日本語の話しことば』アルク

(吉岡 泰夫)

元気のいい日本語

このパートでは、作業や運動をするときの威勢や活気を生み出すコミュニケーションに目を向けている。そこで使われることばは、どんな作業をする職業集団であるか、どんな運動をする社会集団であるかによって、異なる特色を持つ。特定の職業や職種で伝達手段として使われることばを、集団語あるいは専門語と呼んでいる。また、このような社会集団によって多様な姿を見せることばの違いを社会方言と言う。地域によることばの違いを地域方言と言うのと、対比させた呼び方である。

作業や運動をするときの威勢や活気を生み出すことばが、それぞれの社会集団でどのような特色を持っているか、登場順にみていく。

【祭りのかけ声】

祭りのかけ声は、祭りという集団行事を盛り上げ、威勢の良さを表現する点では全国どこへ行っても変わらない。一方で、それぞれの地域独自の伝統の中で受け継がれてきたものであり、地域による特色も兼ね備えている。社会方言と地域方言の両方にまたがることばと言える。

表現としての特色は、感動詞が多く、意味内容よりも、もっぱら感覚的に威勢の良さを表すはたらきをしている点である。

【消防訓練の指令】

「〇〇分団到着!」「消火活動開始!」「よし、検索準備!」「検索救助開始!」など、簡潔な漢語熟語が、大きな声で短く発せられる。簡潔で短いのは、緊急事態にあって少しでも時間を節約するためである。指令が、大きな声で威勢よく発せられるのは、火災や消防車の騒音にかき消されないようにするためであり、また、危険な火災現場に突入する勇気を奮い立たせるためでもある。

【運動部のかけ声】

外国から新しく入ってきたスポーツほど、英語そのままのかけ声を使っている。武蔵越生高等学校のチアリーディング部の場合、チアリーダーのかけ声は「one, two, three, four... go, fight, win」と、すべて英語そのままである。

少年野球部の場合は、lead「リー」、go「ゴー」、let's go「レッツゴー」などの英語や、pitcher, pitchingを短縮した外来語「ピッチ」などを使う一方で、「こーい(来い)」「かつとばせー」などの日本語も使っている。

柔道や剣道など日本の伝統的な運動で使われるかけ声と比較すると、スポーツの違いによる集団語の語彙的な特色が明らかになる。

団体競技の運動部のかけ声には、威勢や活気を盛り上げて勇気を奮い立たせるはたらきとともに、行動を促す指示・命令のはたらきもある。特に団体に統一した動きをする場合は、次の動きへの指令としてはたらく。

【魚市場のセリ】

魚市場のセリは、セリ人と仲買人のやりとりで、手際よく進められる。騒然とした状況で、能率よく取引するために、セリ独特の話しことばと身ぶり記号であるサインが使われている。セリ人は、仲買人集団に対して大きな声で独特のことばを発し、仲買人は、手を使った独特のサインでそれに応じている。

セリ人が発する独特のことばの指示内容は、品物の番号、キロ当たりの金額、競り落とした買い手である。仲買人のサインの指示内容はキロ当たりの金額である。この中で、部外者が聞いてかろうじて理解できるのは、競り落とした買い手を言うことばであろうか。しかし、これも会社名の略語（「ヤマタカ」「ヨネカワ」など）であるから、その会社を知っている人にしか理解できない。

品物の番号やキロ当たりの金額についての数表現は、セリ人と仲買人の間で通用する独特のものであるから、専門の訓練を受けた人でないと、理解できないし、使うこともできない。しかも、それらのことばやサインが、きわめてスピーディに飛び交うので、よほどの熟練者でないと、そのコミュニケーションについていけない。

ビデオでは東京築地の東京都中央卸売市場で、生マグロのセリを撮影した。そのシーンでは、次のようなコミュニケーションが行われている。その一部は、字幕スーパーで示している。

セリ人は「ハチマル(80)…」、ニイマル(20)、ニイニイ(22)、ニイサン(23)、ニイヨン(24)…」と、早口の独特の口調で数表現を連発しながら、ひとつひとつの数表現の間で視線を仲買人に向けて、仲買人のサインを確認している。最初の数表現「ハチマル(80)」は、これからセリをするマグロの番号を指している。それに対して仲買人がいっせいに手を挙げてサインを送る。そのサインは、指の立て方、本数、方向などによって数を表現している。買い手として、そのマグロをいくらで買いたいのか、キロ当たりの金額を提示する。20というサインを送ったら、それはキロ当たり2,000円を提示したということである。

セリ人は仲買人のサインを見渡して、その中でもっとも高い金額を提示したものを、まず声に出して言う。セリ人の発話の2番目に出てくる数表現「ニイマル(20)」がそれである。また、それに対して、より高い金額でも買いたい仲買人が、さらにサインを送り、セリ人が確認した中でもっとも高い金額を声に出して言う、というやりとりが繰り返される。仲買人の競争が行

われているわけで、一番高い金額を提示した仲買人がそのマグロを競り落とすことになる。その段階で、セリ人は「サンニイでヨネカワ」とか、「ニイサンでヤマタカ」とか、競り落とした買い手を指さしながら言う。「サンニイ」「ニイサン」は、キロ当たりの金額がそれぞれ3,200円、2,300円であること、「ヨネカワ」「ヤマタカ」は競り落とした買い手の社名を指している。

セリで使われることばの特色は、まず、テンポが早くリズムカルな独特の口調で、声も大きいことである。これが威勢の良さや活気を生み出している。活きのいい魚を扱う仕事では、鮮度の良さを訴えるために必要な表現力である。また、大きい声は、騒然とした場所での伝達手段としても必要である。

次に、セリ人と仲買人の間で通用する独特の表現が、きわめてスピーディに飛び交うことである。このようなコミュニケーションの方法は、仕事の性格に応じて発達してきたものである。大量の鮮魚を短時間で能率よく、しかも、金額など間違いなく確実に取引するために、魚市場独特の表現を使って、スピーディに伝達されるのである。

なお、身ぶり記号であるサインは、魚市場だけでなく、株式市場、クレーン作業の現場、放送の制作現場などでも使われている。騒然とした仕事場、声の届かない場所、声を出してはいけない場面での伝達手段として、それぞれ独自に発達してきたものである。どんなサインがどんな指示を伝えているか、調べてみるのも面白い。現場を訪ねて、専門家に取材するのがもっとも確実な調べ方であるが、それが無理な場合は、例えば『記号の辞典』（江川清ほか編、三省堂）で調べることもできる。

【海上保安庁・海上保安学校の指令とかけ声】

海上保安庁は、海上犯罪の取締りや海難救助などの警備救難業務、海洋調査や水路測量などの水路業務、光や電波の灯台の建設・保守・運用などの航路標識業務といった、海の安全を確保するための幅広い海上保安業務を行っている。

海上保安庁の職員として採用された学生に対して、これらの海上保安業務の遂行に必要な教育訓練を行うのが海上保安学校（京都府舞鶴市）である。

ビデオでは、海上保安学校を訪ねて、カッターを使った海洋訓練を撮影し、海上保安業務で使われる指令のことばについて、佐々木清壽教官に解説をお願いした。

●指令と復唱

海洋訓練のシーンでは、次のようなコミュニケーションが行われている。それを訓練の項目にしたがってみていく。その一部は、字幕スーパーでも示している。

| | | |
|--------------------|--|----------------------|
| [準備体操] | | [カッター出発] |
| 教官「体操かかれ！」 | | 指揮官「かい用意！」(かいをセットせよ) |
| 指揮官「体操かかれ!○○学生基準！」 | | 学生全員「かい用意！」 |
| 学生「(手を挙げて) 基準！」 | | 指揮官「用意！」(漕ぐ用意せよ) |
| 指揮官「体操隊形にひらけ！」 | | 学生全員「用意！」 |
| 学生全員「よーし！」 | | 指揮官「前へ！」(漕いで前進せよ) |

ここでは、教官→指揮官→学生と指令が伝わっていくとき、指令にしたがって機敏に行動するとともに、復唱が行われていることに注目したい。復唱は、指令を受けたことをお互いに確認するために行うコミュニケーションである。

カッターを出発させるときも、指揮官の指令に対して、きびきびと行動し、漕ぎ手の学生全員がいつせいに復唱する。ビデオでは画面の左手前で漕ぐ、女子学生の元気のいい声が大きく響いている。

| | | |
|-------------|--|-------------------|
| [カッター上での作業] | | |
| 指揮官「かい上げ！」 | | 作業する学生「ボートフック注意！」 |
| 学生全員「かい上げ」 | | 他の学生「ボートフック注意！」 |

ここでも作業の指令が復唱されている。「かい上げ」は、かい(オール)をカッターの中央に格納するために上げよ、または、かいをセットするために上げよ、という指令である。「ボートフック注意」は、カッターを接岸させるときに使うボートフック(boat hook・鉤棒)を扱うから注意せよ、という指令である。

指令に使われることばの特徴をみてみよう。一つの指令は、ほとんど、「かい」「上げ」のように二つの単語か、「用意」のように一つの単語で成り立っている。しかも、「～を」「～せよ」の部分は省略されることが多い。要点だけに絞って短く簡潔にしたことばである。また、大きな声ではっきりと発せられることばである。簡潔明瞭という特徴を持つ。

指令のことばが簡潔明瞭で、復唱されるのはなぜか。その理由を、佐々木教官は次のように説明している。

人を助けたり、緊急の出来事に取り組む場合は、ことばは短いほど時間の節約になりますし、「これから行くぞっ!」という威勢が出るでしょう。指令を出すことばが短いのはそのためです。

広い場所や動いている船の上などでは、指令のことばが聞き取りにくいことがあります。みんなで大きな声で復唱すれば、作業に間違いはありませんし、そろって大きな声を出すことで、「これからやろう!」という力がこもります。

佐々木教官の背景にある船は、最新鋭の練習船「みうら」(3,000トン)である。荒海で海難救助訓練をすることもある。そういう緊急事態でのコミュニケーションの仕方も学生たちは学んでいるのである。

● 作業のかけ声

海上での力仕事には、カッターを漕ぐ作業、錨を上げる作業などがある。こんな作業では、みんなでいっせいに力を合わせる必要がある。どんなかけ声で力を合わせているか、カッターを漕ぐ学生の側(漕ぎ手)の動作の流れを追ってみよう。

| [かけ声] | [漕ぎ手の動作] |
|---------------------|-----------------------|
| 指揮官「前へ!」(漕いで前進せよ) | |
| 学生全員「ソーレ」…………… | かいを回して水中に入れる。 |
| 指揮官「ニー(2), イチ(1)」…… | 力いっぱい漕ぐ, 終わって次の態勢をとる。 |
| 学生全員「ソーレ」…………… | かいを回して水中に入れる。 |
| 指揮官「ニー(2), イチ(1)」…… | 力いっぱい漕ぐ, 終わって次の態勢をとる。 |
| 学生全員「ソーレ」…………… | かいを回して水中に入れる。 |

かけ声によって、漕ぎ手全員の呼吸がぴつたりと合って、一糸乱れぬ動きになり、カッターが滑るように進む。

かけ声には、みんなで力を合わせるために、力を入れるタイミングを一致させるはたらきと、威勢や活気を盛り上げて、力を呼び起こすはたらきがある。

【参考文献・資料】

江川清・青木隆・平田嘉男編(1985)『記号の辞典』三省堂

ホームページ

海上保安庁 <http://www.kaiho.mlit.go.jp/>

海上保安学校 <http://www.kaiho.mlit.go.jp/school/index.html>

(吉岡 泰夫)

表情豊かな日本語

このパートでは、落語家はどのようにしてひとりでも何人も的人物を多様に演じられるのか、という疑問に端を発して、話し手の心情や意図を伝える、話しことばならではのコミュニケーション手段に目を向けている。ことば君が「わかった！ 人物によって、口調や表情、身ぶりや手ぶりなどを使い分けるんだね」と言うとおりの、音声による話しことばは、口調や韻律などのパラ言語によって、また、表情や身ぶりといった非言語行動を伴わせることによって、書きことばでは伝えられない情報を、表情豊かに伝えることができる。

口調や韻律などのパラ言語、表情や身ぶりなどの非言語行動は、話しことばならではの伝達手段である。文字で書けば同じ文でも、話すときのパラ言語や非言語行動によって、伝わる意味が違ってくる。例えば、「そうですか」という文は、話し手がパラ言語を制御することによって、感心、無関心、落胆、疑い、中立（無表情）などの意味で使い分けることができる。また、「なにやってるの」は質問、叱責、からかいなどの意味で使い分けすることができる。

●パラ言語的情報

パラ言語は、言語に伴って生じるもので、パラランゲージ (paralanguage) あるいは副言語、周辺言語などとも呼ばれる。話しことばでは主として音声の韻律的な特徴によってパラ言語的情報が伝えられる。パラ言語的情報は、話しことばコミュニケーションで、言語的情報を補助したり、変えたりするために話し手が意図的に生み出す情報で、発話に込められた話し手の意図や態度、発話のスタイルなどがある。例えば、「そうですか」という発話における感心、無関心、落胆、疑い、中立（無表情）、さらには丁寧さなどの情報である。

話しことばコミュニケーションでは、言語的情報とパラ言語的情報が同時に伝えられる。ラジオに例えれば、話しことばはステレオ放送であり、一つのチャンネルが言語的情報、もう一つのチャンネルがパラ言語的情報の伝達に利用されているようなものである。

パラ言語的情報の伝達には、音声の韻律的特徴が利用されている。具体的には、音声の高低に関わるイントネーションやアクセントのピッチ形状、長さに関わる持続時間、声の強さや大きさに関わるストレスやパワーの特徴、声の質の差異などである。

パラ言語的情報は、話し手が意図的に表出する情報でありながら、音声を文字に転写するとほぼ完全に欠落してしまう。例えば、感心を意図する「そうですか」を文字で表出するのは、「そ～ですか～！」などと工夫してみたところで、結局のところ不可能である。その点でもパラ

言語的情報は話しことばの本質を規定するものと考えられる。言い換えれば、話しことばならではの表現力や表情の豊かさを生み出すはたらきをしていると言えよう。

● 非言語行動

非言語行動は、表情やまなざし、身ぶりやしぐさ、さらには身なりや装いなども含めた言語記号(ことばそのもの)以外の手段による伝達行動で、「非言語的伝達」あるいは「ノンバーバル・コミュニケーション」とも言う。現実人間があるメッセージを伝えようとするとき、言語的手段と非言語的手段とが相互に補完し合って有機的に機能するコミュニケーション行動を行うことが多い。非言語的手段が実際のコミュニケーションにおいて果たす役割が大きいことは「目は口ほどにものを言い」などのことわざで昔から指摘されている。

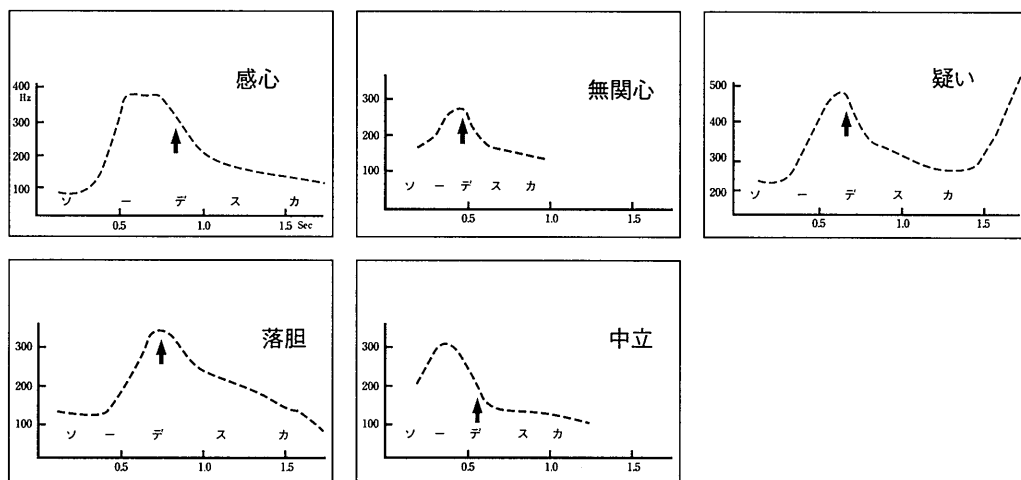
表情やまなざし、身ぶりやしぐさなどの非言語行動は、言語行動に伴って現れ、相互補完的に何らかの情報を伝えることが多い。このように言語行動に伴って出現するものを随伴的非言語行動と呼ぶ。

一方、身なりや装い、さらには音響、色彩、香りなどを利用する非言語行動は、必ずしも言語行動に伴って現れるとは限らない。独立して何らかの情報を伝えることも多いところから、独立的非言語行動と呼ぶ。

話しことばコミュニケーションをビデオカメラでとらえると、特に、視覚にうたえる非言語行動による伝達が明らかになる。このパートでは、落語家・入船亭扇治氏の、顔の表情 (facial expression)、まなざし (eye contact)、姿勢 (posture)、身振り・しぐさ (gesture) などに注目し、どのような非言語行動がどのような意思や感情を表出するはたらきをしているか、観察してほしい。また、多少誇張して描いているが、ことば君の顔の表情にも注目し、どんなことを言うときに、どんな表情をしているか、観察してほしい。

● 「そうですか」のパラ言語的情報

ビデオでは、「そうですか」という文を、落語家の入船亭扇治氏に、5種のパラ言語的意味(「感心」「無関心」「疑い」「落胆」「中立」)で発話してもらった。それぞれの発話のピッチ形状と持続時間の変化を、以下に順番に示す。縦軸の目盛りは周波数ヘルツ、横軸の目盛りは秒である。図中の↑印は、「デ」の母音が始まる時間をあらわしている。ピッチのピークとの位置関係が色々に変化していることに注目して観察してほしい。



パラ言語的情報が顕著な「感心」「落胆」「疑い」に注目するだけでも、次の(1)～(5)のように多くの特徴が読み取れる。(1)発話の冒頭と末尾の持続時間が大幅に延長される。(2)発話冒頭に低ピッチが持続する区間が生じる。(3)「疑い」では発話末の上昇に先だって低ピッチが持続する。(4)「感心」と「疑い」ではアクセント核の実現タイミングが遅れて後続モーラ「デ」の時間領域に侵入する。(5)アクセント核による下降は「感心」よりも「疑い」の方が急激である。

落語家である入船亭扇治氏は演技力に優れた話し手であるため、いくつかの発話を聞いてみると、本来のパラ言語的な意味に加えて、次のような含意を感じさせる。「無関心」は＜不満＞の含意を感じさせる。「感心」は＜納得＞の含意を感じさせる。「落胆」は＜絶望＞を含意するような落胆ではなく、軽くコミカルである。

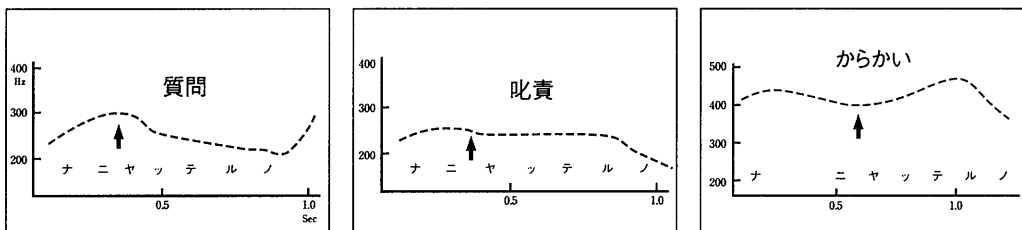
● 科学図書朗読のパラ言語的情報

視覚障害者に対する科学図書の朗読ボランティアの音声を聞くと、声の表情をできるだけ抑制して、淡々と話しているように感じられる。これは朗読者がパラ言語的情報をできるだけ「中立」に保とうと制御しているためである。科学図書の朗読の場合、文字で書かれた言語情報を、それぞれ「文字通りの意味」で声に出して、視覚障害者に伝えることが求められる。もし、朗読者が文字通りの言語情報に加えて、自分が感じた、例えば「感心」「納得」「無関心」「疑い」などのパラ言語的情報を意図的に音声で伝えたとしたら、それは朗読者の解釈を視覚障害者に押しつけることになってしまう。科学図書を朗読するとき、朗読者は言語情報を変容するようなパラ言語情報を抑制し、文字通りの科学的情報をできるだけ客観的に伝えようとパラ言語情報を制御しているのである。

●「なにやってるの」のパラ言語的情報

話しことばの「なにやってるの」には、少なくとも三つのパラ言語的な意味を見出すことができる。まず、「質問」の意味での発話がある。次に「叱責」の意味をもつことがある。パラフレーズすれば「なにやってるの(やめなさい!)」となるだろうか。さらに「からかい」の意味も考えられる。「なにやってるの(はははっ、まぬけなやつだなあ)」という意味である。

ビデオでは、このパートのエンディングのところで、ことば君が「なにやってるの」という文を、3種のパラ言語的意味(「質問」「叱責」「からかい」)で発話して、「それぞれどんな気持ちか、わかるかな?」とクイズを出している。ことば君の声は、女性声優の一龍斎貞友氏である。それぞれの発話のピッチ形状と持続時間の変化を、以下に順番に示す。縦軸の目盛りは周波数ヘルツ、横軸の目盛りは秒である。図中の↑印は、「ニ」の母音が終わる時間をあらわしている。



それぞれの発話には次のような含意が感じられる。「質問」の発話には、強く興味をひかれた結果、身を乗りだして質問するような調子がある。「叱責」の発話には、憤激して叱るような調子がある。「からかい」の発話は、うっかりミスをした友人を軽く「おちょくっている」感じがする。失笑を含むような「からかい」である。

なお、それぞれの発話に感じる含意は、聞き手によって幅がある。ことば君のクイズに解答する児童・生徒が、どんな含意を感じたか、尋ねてみたいものである。

【参考文献】

前川喜久雄・吉岡泰夫(1997)「発話の丁寧さに対する語彙的要因と韻律的要因の寄与」『国語学』190

前川喜久雄ほか(1998)『音声』岩波講座言語の科学2 岩波書店

前川喜久雄(1999)「韻律とコミュニケーション」『日本音響学会誌』55-2

前川喜久雄(2000)「パラ言語情報：話しことばの本質」『現代日本語必携』別冊国文学53 學燈社

(吉岡 泰夫)

想像がふくらむ日本語

このパートでは、「想像がふくらむ日本語」と題して、三編の詩作品の朗読を、コンピュータグラフィックスの映像とともに提供している。

ことばは、思考の内容や意思や感情のありさまを表現して、それらを他者に伝達するというはたらきと並んで、話し手自身や聞き手・読み手にさまざまな想像をふくらませるはたらきを持つものである。ここで「想像」と言うのは、表現されたことばそのものの持つ文字通りの意味内容だけでなく、ことばがきっかけになって、それ以上のことがらを話し手自身や聞き手や読み手が考えたり、思い出したり、思い描いたりすることを意味している。

例えば、一番目の詩「あめ」(まど・みちお作品)では、「あめがふる」という短い文が繰り返されている。この単純な繰り返しは、雨がやむ様子も見せずにいつまでも降り続けていることを想像させる。また、「そらが おおきな かお あらう」や「そらが きれいな かお だした」という表現は、「そら」を一個の人格としてとらえる想像、そして雨という気象をその人格の具体的な振舞いとしてとらえる想像を呼び起こすだろう。「反復(繰り返し)」とか「擬人法」と呼ばれることばの表現技法から、そのような想像が生まれているのである。

二番目の詩「かずかぞえ」(谷川俊太郎作品)では、ことばの最初や最後の音声を部分的に繰り返す「韻を踏む」という表現法が見られる。これは、七五調とあいまって作品全体を通したことばのリズムを生み出し、聞いたり読んだりすると自然に身体がリズムをきざんで動き出すような力を持っている。また、「いっぴき にひき」のあとに「ひきがえる」がつながったり、「さんにん よにん」から「べんごにん」がつながったりするように、ことばから別のことばが連想されて3, 4, 5の数の連続に乗ってわき出てくるという様子も感じられる。ことばが別のことばを想像させ、生み出す働きを持っているのである。

三番目の詩「ふわり うかんだ シャボンだま」(まど・みちお作品)では、自分が作り出したシャボン玉に「ちいさな わたしが のっている」「どれにも わたしが のっている」と表現されている。文字通りに読めば、シャボン玉の一つ一つに自分の姿が映っている様子を描写しているのだろう。しかし、「いいな わたしよ ならんでけ」「ともだち みたいに ならんでけ」「くもまでさんぽに ならんでけ」と続く詩のことばは、単にそうした描写だけでなく、仲良く並んでどこまでも遠くへ飛んで行く自分自身の姿を想像させる力や、そのような夢や希望を表現する力をも持っていると言うことができる。

これらの三つの詩作品からは、以上に説明した「想像」とは異なる、もっと多様で豊かな「想

像」がふくらむ可能性がありそうだ。その意味で、限られた内容の「想像」を解説するだけのビデオ視聴にとどまらず、作品をめぐる児童・生徒ひとりひとりが自由に想像をふくらませる機会が期待される。

また、ことばがふくらませる「想像」ということについて、ここで扱った三作品とは異なる「想像」を呼び起こす作品やことば遣いを児童・生徒から提示させ、どんなことばからどんな「想像」をふくらませたかを自由に語り合うような機会を期待したい。ビデオで扱った三作品は、そうした機会を教室で創るためのきっかけとなる素材である。

(杉戸 清樹)

*****【コラム②】 全国ネットの気象庁 *****

実践編「気象科学館で調べよう」は、東京の希望ヶ丘小学校(架空)の6年生が気象庁に行き、気象のことばを調べるという設定である。このような実践は、首都圏の児童・生徒にしかできないわけではなく、全国どこの児童・生徒も行動力さえあればできることである。

気象庁は全国ネットの組織で、福岡・大阪・東京・仙台・札幌の管区気象台のほか、各都道府県に1ヶ所以上の地方気象台を持っている。また、海洋気象台や測候所・航空測候所、空港出張所などもある。詳しくは、気象庁ホームページを開き、「気象台リンク」、つづいて「気象官署一覧表・各県地方気象台紹介」をクリックして調べることができる。総合的な学習では、インターネットの活用も大切ではあるが、実際に気象台に行き取材することによって、学習効果はもっと高まるであろう。

気象庁では窓口業務として、天気予報の詳しい内容の解説や、気象に関係する問い合わせに対応するために、各地の気象台に天気相談所を開設している。実践編で坂村綾音が電話でアポイントメントをとったように、「どこの、だれが」「なんの目的で」「なにを調べに」「なん人で」「なん月なん日の」「なん時頃に」という明確な希望を伝えて、窓口の了解を得ておく方が取材はうまくいく。

気象庁(東京大手町)の中にある気象科学館、統計室、図書館は一般に開放されていて、児童・生徒の自律学習に適した施設である。修学旅行先が東京の場合は、グループ行動のコースに組み入れることも考えられる。気象科学館は実践編で紹介したとおり、実物展示、大型ディスプレイ、資料や図書などが豊富で、しかも、パネルで詳しい説明が付いている。統計室には、気象観測データを調べることができる閲覧室を設けている。図書館は、国会図書館支部図書館としての役割を持ち、一般の閲覧も受け付けている。

なお、今回のビデオ制作にあたっては、気象科学館を閉館日(土・日)に借り切って、ロケを行った。また、児童・生徒に対応する解説者は、特別に、日本気象協会の高田斉(たかだひとし・気象予報士)氏にお願いした。テレビカメラの前での解説となると、NHKテレビの気象情報のベテランが適任と考えたからである。ビデオ制作の趣旨にご賛同いただいた、気象庁と高田斉氏の格別の御厚意によるものである。 【「気象情報のことば」[p.44~]参照】 (吉岡 泰夫)

指導の手引き

実践編【気象科学館で調べよう】

ここでは主に、小学校の「総合的な学習の時間」に、実践編「気象科学館で調べよう」を活用する場合の事例をあげる。

1 ねらい

- (1) 自然の風物や現象と結びついた表現の豊かさに気づき、ことばに対する関心を深めることができるようにする。
- (2) 日常生活にうるおいを与えたり、必要な事柄を正確に伝え合ったりすることばの働きに関心を持ち、それらのことばやことばが伝える事柄を、自分の生活に活かすことができるようにする。
- (3) 興味や関心を持った課題について、方法を考えて調べたり体験したりして、理解を深める学習の進め方が身に付くようにする。総合的な学習の時間に活かす。

2 展開（1単位時間でのビデオ活用の基本的な展開）

※ビデオ視聴の前に

ビデオ視聴のねらいを指導者自身の視点で明確にしておく。

- 指導者が前もってビデオを視聴し、本ビデオを通して何を指導するか、児童・生徒にどのような力をつけるために視聴させるのかを明確にしておく。
- ねらいに合わせて視聴の方法を考えておく。
 - ・全体を通して視聴させる。
 - ・場面に合わせて質問する。
 - ・必要ところで止める、くり返す、など。

(1) 導入

- 学習や生活の中でのねらいに合った会話や出来事をきっかけに、自然な形で発展的に、または、必要感や目的を持たせて視聴させる。

【導入例】

- ◆ 雨降りの日が続く中で。「いやだなあ」「また雨」などの児童・生徒の会話やことばをと

りあげる。

……………雨のことを調べたこんなビデオがあるから、みんなで見てみよう。

……………でも雨って、とても奥が深いものよ。いいビデオがあります。

◆自然現象や風物を表すことばに触れたとき、そこから話を広げる。

……………きれいな(またはおもしろい、聞いたことのない)ことばでしょう。日本語にはこういう表現がたくさんあります。このビデオを見て、日本語について考えてみませんか。

◆授業の発展として(授業の中でのことばや学習内容をきっかけに)。

| | | |
|------|--------------|------------------------------|
| 5年 | 「社会」 | 農林業、水産業、各地の風土や地形の学習から |
| | 「理科」 | 植物の成長や天候、水の流れ、天気の変り方や様子、太陽や月 |
| 5・6年 | 「家庭」 | 食材や家族のかかわり |
| 6年 | 「理科」 | 虫や植物の成長や様子 |
| | 「社会」 | 文字を中心とした文化 |
| 5・6年 | 「国語」「図工」「音楽」 | の教材 |
| 中学 | 「国語」「社会」「理科」 | など |

◆課題について調べたり、調査したりする学習方法を学ぶ参考にするために。

◆グループ学習の進め方について考えるために。

◆総合的な学習の時間の課題を見つけたり、学習を広げたり、進めたりする方法を知るために。

(2) ビデオ視聴(実践編:約23分)

① 導入に続けて視聴する。気付いたことや感想をメモするための用紙を準備する。

② タイトル「ことば探検・ことば発見」で止める。導入(ビデオ視聴のねらい)と関連付けて内容を予想させる。

③ ビデオを視聴する。

○児童・生徒の反応に合わせて視聴の方法を工夫する。

○途中で気付いたこと、思ったこと、考えたこと、覚えておきたいことなどがあつたらメモするように伝える。

(3) 視聴後

① ストーリーを確かめ、要所を板書する。

○ねらいに合わせて、必要な箇所について確認する。

—— 朝,「一時雨」の予報。 傘を持たずに出る。

帰校時, 雨。

天気予報の雨に関することばを集める計画を立てる。

気象科学館に行く。

家族に聞く。

調べたことを学級で発表する。

みんなでいろいろなことばについて調べようとする, など。

② ビデオについての感想, 疑問に思ったことなどを話し合う。

③ ことばについて(または, 自分たちの課題に対して) 調べてみたいこと, 知りたいことを話し合う。

④ 話し合ったことをもとにテーマ別グループを作り, 調べる計画を立てる。

※ ③④の学習についてはビデオ視聴のきっかけになったねらいや, 学習の進め方それぞれの学級・学年の実態によってさまざまな形態がありうる。

(4) 発展的な学習例

○ 日本語の豊かさを感じ取ることができる学習の計画を立て実践する。

文や詩歌をよむ・作る, ことば集め, 場面にふさわしいことば, など。

○ 日常生活の中での, 生きたことば集め。

○ 古くから伝えられてきた日本語調べ。

○ 地方によって異なることばの使い方。

○ ことわざを集めたり考えたりする。

○ 総合的な学習の時間のきっかけ, など。

| ビデオの 場面ページ | 表現の豊かさ・ことばに対 する関心を深める | ことばの働きについて考え 自分の生活に活かす | 学習の進め方を身に付け る |
|-------------------|--|--|---|
| 1 きっかけ 1 (P.8) | | ○天気予報が流れていても 気にかけていない遼一の様 子を意識させておく。 ほとんどの児童・生徒は 同様の反応だろう。 | |
| 2 (P.8) | ○大雨が降る様子をたと える表現。ことばから雨 の様子を想像させ、表現 のおもしろさに気付かせ る。 | ○「一時雨」の予報を、一 時に雨が降ると思った 遼一の捉え方の間違い に気付かせ、間違っ た理由を想像させる。 ○この後の遼一の天気 に対する関心の変化を みていく。 | |
| 3 (P.8) | ○その他の雨の降り方を たとえる表現を考えさせ 、本ビデオの内容の伏 線にするのもよい。 | ○情報が伝えられている のに生活に役立てよう としない遼一の様子に 触れる。情報は伝える側 と受け取る側があって初 めて、情報の役割を果た すことに気付かせる。 | |
| 4 (P.9) | | ○自分と違ってほとんどの 児童・生徒は、天気予報 を見て傘を持って来 ていることを知る遼一。 予報を自分のこととして 捉えず、また、予報で使 われ | 課題をつかむ。 ○生活や身近な出来事 の中から知りたいこと、 調べたいことなどを見 つけたり、それらに気 付いたりして、課題を つかむ |

| ビデオの 場面ページ | 表現の豊かさ・ことばに對 する関心を深める | ことばの働きについて考え 自分の生活に活かす | 学習の進め方を身に付け る |
|--|--|--|---|
| <p>2 話し合い 5 (P.10)</p> <p>6 (P.11)</p> <p>7 (P.11)</p> | <p>○「朝」が付くことばを集め、太陽が昇る様子に合わせた微妙なことばの使い分けに気付かせる。</p> <p>○太陽が昇ること(沈むこと)に対する昔の人々の気持ちを考えさせる。</p> | <p>ていることばに対してもあいまいな自分に気づき、調べてみようと思う、遑一の意識をおさえる。</p> <p>○ 依頼やお願いの電話の正しいかけ方を知り、情報を得る手だての一つとして活用できるようにさせる。発展として、次のような場合の電話のかけ方を学習させるのもよい。</p> | <p>ようにすることの大切さをとりあげる。</p> <p>○ふだん、何気なく聞き流したり見過ごしたりしていることばや、まわりの様子にも、学習課題になる事柄があることを、指導者が例を示して、気付かせるようにする。</p> <p>○話し合いをもとに課題を整理して、調べる事柄を明確にする。</p> <p>○調べる方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所 ・内容 ・手順 ・気を付けることなど <p>○役割分担と、調べるための段取りをつける。</p> <p>○それぞれのことばは、何となく使われているのではなく、太陽の動きをもとにしてきちんと使い分けられていることに気付く。</p> <p>○調べる内容を具体的にはっきりさせ、焦点化する。</p> <p>○話を聞かせてもらう相手先 にお願いの電話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す内容を決めてメモをする。 ・相手の返事もメモをする。 ・敬語を正しく使う。 ・事前に話し方を練習する。 <p>◇自分の名前・所属</p> <p>◇調べたい内容</p> |

| ビデオの 場面ページ | 表現の豊かさ・ことばに対 する関心を深める | ことばの働きについて考え 自分の生活に活かす | 学習の進め方を身に付け る |
|------------------------------|--|--|--|
| 3 調べるA・ 気象科学館 8 (P.12) | | <ul style="list-style-type: none"> ・会や行事に招待する。 ・出来事などを知らせる。 ・相手の様子や具合をたずねる。 ・留守番をしていて電話を受ける場合。 | <ul style="list-style-type: none"> ◇相手の都合 ◇希望の日時 場合によっては相手に聞く <ul style="list-style-type: none"> ◇確認 ◇お礼とあいさつ |
| 9 (P.13) | ○本ビデオは、それぞれのことばの意味を覚えさせることがねらいではない。さまざまな雨の状況を、適切に表現することばのすばらしさやおもしろさを感じ取らせるようにする。 | ○省かれている、訪問した時のあいさつのことばを考えさせる。 | ○省かれている、訪問した時のあいさつのことばのやりとりを考え、役割を決めて事前に演じてみる。 ○質問事項をわかりやすく伝える。(口々に言わないで、代表がたずねるか分担して質問するかを前もって決めておく) ・質問したい理由を言う。 ・具体的にことばの例をあげて、適切なことばで質問する。 ・ていねいなことばでたずねる。 |
| 10 (P.13) | ○インターネットで調べた朝や夜の時間帯を表す表現同様、一時雨、時々雨などのことばも、雨が降る一定の状況をわかりやすく短くして表していることばであることを気付かせる。 | ○気象のことばの定義をはっきりさせて、生活に活かそうとする姿勢を持たせる。 | ○説明を正確に聞き取る。 ・わからない点は聞き返す。 ・メモをとりながら聞く。 ・相手を見て、うなずきながら聞く。 ○説明の内容と、自分の生活や経験などを関連付けながら聞く。 |
| 11 (P.13) | ○雨の強さと量を表すことばにも、科学的な裏付けがあることを知らせる。 | ○雨の強さを表すことばから、降り方を予測し、行動、衣類、持ち物など | ○説明を聞いて思い付いたことを話したり質問したりして、話を広げたり内容を深 |

| ビデオの 場面ページ | 表現の豊かさ・ことばに対 する関心を深める | ことばの働きについて考え 自分の生活に活かす | 学習の進め方を身に付け る |
|---|---|--|--|
| <p>12 (P.16)</p> <p>13 (P.16)</p> <p>14 (P.17)</p> <p>15 (P.17)</p> <p>16 (P.17)</p> <p>17 (P.18)</p> | <p>○雨の状況に合った表現で雨の様子を言い表すことばが作られていることを理解させる。</p> <p>○季節による雨の降り方の微妙な違いを捉えて言い分ける表現に気付かせる。</p> <p>○夕立の様子を表現するびつたりのことわざを作って生活の中に活かしていた昔の人たちの表現力の豊かさについて、関心を持たせる。</p> <p>○ことわざに対する興味・関心を持たせる。</p> <p>○一年間に、それぞれの美しさを見せる四つの季節をもつ日本の自然を思い起こさせる。その変化や美しさを表現するためのことばをもつ日本語の豊かさに気付かせる。</p> <p>○児童・生徒の多くは、自然の美しさに目を向け、心を豊かにしたり、その</p> | <p>をあらかじめ考えておくことの必要性に気付かせる。</p> <p>○暑い夏に降るにわか雨を、特に「夕立」と表現した昔の人の気持ちを想像させる。</p> <p>○自然現象をいろいろに表現することにより、生活に楽しみやうるおいを持たせようとする先人の知恵に気づき、自分たちも、その姿勢を取り入れようとする気持ちを持たせる。</p> <p>○自然の豊かさを適切なことばで表現し、生活に取り入れて楽しんできた日本人の心の豊かさについて考えさせる。</p> <p>・短歌、俳句、詩などの詩歌</p> <p>・天気や季節に関することわざ</p> <p>・花見、夕涼み、月見などの行事</p> <p>・三日月、満月などの月の形の変化を表す表現</p> <p>・陸月、如月などの月の呼び名など</p> | <p>めたりする。</p> <p>○ことわざを集めたり作ったりしようとする意欲をもち、発展的な学習の糸口とする。</p> <p>○ことわざを集めたり作ったりしようとする意欲をもち、発展的な学習の糸口とする。</p> <p>○本ビデオからの発展として取り組むことができる学習課題を考える。</p> <p>・詩歌や文章の創作</p> <p>・自然現象や季節に関係した行事</p> <p>・四季の花や生き物を調べたり集めたりする(写真やビデオに撮る)</p> <p>・対象を決めて変化を見つめ、記録を残す</p> <p>・ことば集め など</p> |

| ビデオの 場面ページ | 表現の豊かさ・ことばに対 する関心を深める | ことばの働きについて考え 自分の生活に活かす | 学習の進め方を身に付け る |
|---------------|---|--|---|
| 18 (P.18) | <p>自然を表現することばの豊かさに気付いたりはしない。</p> <p>科学的に説明できる自然現象も、美しいことばにおきかえる日本語のすばらしさ、日本人の知恵に気付かせ、関心を持たせる。</p> | <p>○不思議だと思ったり、興味を持って見たりしていたことの原因や理由がわかることのおもしろさに気付かせる。</p> | <p>○それぞれの立場の人から情報を得ることができるとを思い起こす。</p> |
| 19 (P.19) | | | <p>○いろいろなことを調べるための機関や施設は、インターネットのホームページでわかることを確認する。</p> |
| 20 (P.19) | | | <p>○学習が終わって退出するときの、感謝とあいさつのことばをはっきり述べる。豊かな表情を心がける。</p> |
| 21 (P.19) | | | <p>○学習したことのまとめ方、発展的な学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでまとめるか、個人でまとめるか ・発表の仕方(口頭, 文書) ・方法, 内容 ・役割分担 ・準備日程 ・続けて調べたいこと, 新たな課題 など |

| ビデオの 場面ページ | 表現の豊かさ・ことばに対 する関心を深める | ことばの働きについて考え 自分の生活に活かす | 学習の進め方を身に付け る |
|--|--|--|--|
| <p>4 調べるB・お 祖父さんの話 22 (P.20)</p> <p>23 (P.20)</p> <p>5 報告・発表・ 話し合い 24 (P.21)</p> | <p>○天気の様子をおもしろく表現してことばを楽しみ、想像を広げてまた楽しもうとする日本語の豊かさの例を知らせる。</p> <p>○祖父のことばから、方言のよさについて、具体的なことばを通じて考えさせる。</p> | <p>○天気と体調との関係に気づき、ことばで表してきた例について思い起こしたり、知らせたりする。</p> <p>○学級や家庭で、それらのことわざを集めて楽しんだり、自分たちで作ってみたりするきっかけにさせる。</p> <p>○ミノをきっかけに、日常生活の中で使ういろいろな物について、昔と今を比べて考え、昔の人の知恵や工夫に学ぼうとする姿勢を持たせる。</p> | <p>○祖父母、両親などに聞いて調べる。</p> <p>○天気と生活とのつながりを適切に言い表していることばやことわざを集める学習について考えてみる。</p> <p>○同じ事柄を表すのに、地方によって言い方が異なることばやことわざを調べる学習について考えてみる。</p> <p>○発展的な学習として、自然現象と直接つながる産業の、具体的な事例を集めたり調べたりする。</p> <p>○わかりやすい発表の仕方を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ、動機 ・ 調べ方、内容の説明 ・ まとめと感想 <p>などについて、決められた時間に合わせて項目ごとに発表できるよう準備する。わかりやすく発表するために必要な図表があれば作っておく。</p> <p>○個人の特性を活かした資料作りや発表の仕方を工夫する。</p> <p>○質問の時間をとる。</p> <p>○感想を発表する。</p> <p>○聞き手は発表内容を正しく理解するためにメモをとる、話し手の方を見て聞くなどの、姿勢を身</p> |

| ビデオの 場面ページ | 表現の豊かさ・ことばに対 する関心を深める | ことばの働きについて考え 自分の生活に活かす | 学習の進め方を身に付け る |
|-------------------------------|--------------------------|---------------------------|--|
| 6 素材編への ジョイント 25 (P.23) | | | <p>に付ける。</p> <p>○ビデオを見た感想を話す。自然と結びついたことば、自然との結びつきが強い生活から生まれたことば、生活の中に活かされていることば、などについての感想を中心に自由で発表する。</p> <p>○「雨についてのことば」から発展させて自分たちで調べたい、知りたい、考えてみたい日本語について考える。</p> <p>○ことば探検・ことば発見についての計画を立てる。</p> |

(山田 敦子)

素材編【あんな日本語・こんな日本語】

はじめに

① 作成意図と教室への願い

交通手段の劇的な発達で、地球は本当に狭くなった。未知なる人々との出会いを求めて多くの日本人が、地球の隅々に出かけている。

タレントが世界の秘境と呼ばれる地域に出かけ、現地の人々と生活を共にするというテレビ番組がある。もとより、現地語でのコミュニケーションしか成立しない奥地である。通訳を通しての会話は、日本語を英語に訳し、それをさらに現地の言葉に訳すのであるから、どの程度正確に伝わっているのかはなはだ心もとなく心細い限りである。

しかし、何日か何ヶ月か生活を共にしているうちにお互いがお互いの言葉で話しながら、いつのまにか意思の疎通を成立させていく様子が伝わってくる。取材の期限が来て別れの時、数ヶ月前まではお互いの存在すら知らなかったもの同士が万感の思いを体いっぱいに表示して、惜別の涙を流す。

こんな場面を見ていると、言葉は意味を伝えるというより思い、意思を伝える手段なのだということが強く感じる。思いを正確に伝えるためには単に言葉の解釈や言葉の持つ意味に拘泥することより、伝えたい思いを持つこと、相手をもっと深く知りたい、自分をもっとわかってもらいたいという願いを持つことが基盤として重要であることがわかる。

そういう思いや願いを表す言葉、日常何気なく使っている日本語を見直してみると、その表情の豊かさや、表現手段としてのおもしろさに改めて気づかされる。

ここでは、「あんな日本語・こんな日本語」と題して、ごく一部ではあるが、日本語の横顔を紹介してある。これを視聴した児童・生徒が、日本語の豊かさやおもしろさに興味を持ち、広くまた深く日本語を調べるきっかけにしたり、自分の言語生活に取り入れたりしてくれればと思う。

② 活用に当たってのQ&A

Q : 1 この「こんな日本語・あんな日本語」は、何時間扱いの予定なのですか。23分見せて、残り20分程度で指導するのは盛りだくさんすぎるのでは……

A : 1 時間の扱いは自由です。四つの素材を2本ずつ組み合わせてもよいし、1本ずつ

扱っても学習できるように作成してあります。学級の実態や学習の進み具合に合わせて活用してください。

Q：2 このビデオは国語の時間に言葉の学習の教材として活用すべきものですか。

A：2 言葉の学習だけでなく、広く総合的な学習の時間にも活用できるように工夫してあります。また、実践編・素材編の各パートには理科や社会などでも活用できるところがあるはずです。

Q：3 「想像がふくらむ日本語」は3編の詩だけで内容的に弱いではありませんか。

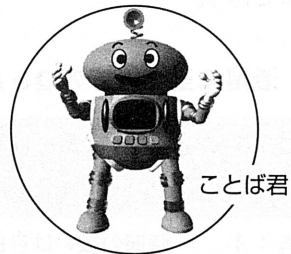
A：3 この3編の詩を素材に、想像がふくらむ発展的な鑑賞学習を展開すれば、学習内容は深まるのではないのでしょうか。そう考えて、3編の詩に解釈や鑑賞はいっさい加えず、素材として提供するにとどめました。これを素材の一つとして、各学級で「想像がふくらむ日本語」の続編ビデオを作成するなど、発展的な活動に結びつけてください。

Q：4 「あんな日本語・こんな日本語」というのに各地の方言を取り入れていないのはどうしてですか。

A：4 各パートで、中心的に取り入れたのは、地域方言ではなく、社会方言、つまり職業や世代によって違いのある方言だからです。地域方言は、主にロケ地の関係で、東京方言しか取り入れていません。具体的には、「思いやりのある日本語」の小学生の方言、「表情豊かな日本語」の落語家が使っている伝統的な下町方言、キャラの「だってサ」「考えチャウなあ」などの東京方言です。地域方言を取り入れてはいるのですが、量が少ないという印象は否めません。各地の地域方言に真正面から取り組むとなると、それだけでビデオ1本ができます。総合的な学習で地域社会に取り組むならば、地域方言は最適の課題になると考えられます。

③ キャラクターの紹介

このビデオの案内役。
キャラのホームページは研究室。キャラは内蔵されたコンピュータのディスプレイから、いろいろな場面を引き出し、視聴者に提供する。



以下の解説では、「学習の窓」「場面の設定と取扱い」「予想される児童・生徒の反応と教師の支援」を柱とする。「学習の窓」は、その素材と関連したエピソードや、児童・生徒の興味を喚起するような活動のヒント等を示している。

素 材 ①

思いやりのある日本語

「思いやりのある日本語」は、言葉を意味の側面だけで考えるのではなく、相手にどんな思いやりの心をもって言葉をかけるか、そこに焦点を当てた指導を大切にしたい。

「こころない言葉」とは当を得た表現である。こころない言葉が横行している。人の心をえぐるようなことを言って平然としている児童・生徒に出会うたびに心が寒々としてくる。児童・生徒が何気なく使っている言葉にも心があることを、折に触れて、また、意図的・計画的に指導していくことは、今、大変重要な言葉の学習である。

| 学習の窓（あなただったら） | |
|------------------------------------|-------------|
| 電車やバスで席を譲るとき、あなただったらどんなふうに声をかけますか？ | |
| 「……」 | （黙って立ち上がる） |
| 「どうぞ」 | （相手の顔を見て） |
| 「どうぞお座り下さい」 | （にっこりほほえんで） |
| 「よろしかったらおかけになりませんか」 | （席を指で指しながら） |

1. 場面の設定と取扱い

| 場面 | 設 定 | 取扱いのポイント |
|----------------------------|--|---|
| ① プ ロ ロ ー グ | <ul style="list-style-type: none"> 実践編のジョイント部分「あんな日本語！」「こんな日本語！」「みんなで調べてみようよ！」を受けてロボットのキャラクターがさまざまな日本語の世界を案内する。 まず、最初が「思いやりのある日本語」の世界。 | <ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒の興味関心を引くキャラクターの登場。 <ul style="list-style-type: none"> 「ロボット修理工場」 「メカニックさん」 ○ロボットの愛称をみんなで考えるなど学習への興味付けに使う。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 整形外科病室 「もう少し我慢できるかな？」 「私も経験があるの」 「強打者なんだって？」 | <ul style="list-style-type: none"> ○看護婦の表情 ○「もう少し我慢しなさい」との比較 ○自己開示（親近感） ○患者の意欲を引き出す言葉 |

| | | |
|-------------------|--|--|
| ②患者と看護婦のコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・ キャラ登場 「どんなところが康文君を元気付けたのかな」 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒への発問 自由に表現する時間を ○ 康文の表情に着目 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の廊下 実, 佳織, 俊成と康文との会話 ・ キャラ登場 「君たちが康文さんに会ったら・・・」 次の場面へのつなぎ ・ 学校の教室 失敗した友達への対応 「あーあ」, 「不注意だからよ」 「大丈夫, 怪我しなかった？」 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒への発問 自由に表現する時間を ○ 智絵の表情に着目 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ キャラ登場 「どんな言葉をどんなにふうにかけたらい いのかな」 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒への発問 自由に表現する時間を |
| | | |

2. 予想される児童・生徒たちの反応と教師の支援

| 発 問 | 予想される反応 | 教師の支援 |
|----------------------------|---|---|
| (1) どのところが康文君を元気付けたのかな。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 優しい雰囲気。 ○ 笑顔。 ○ がまんできるかな? ってきいてくれているところ。 ○ 気の紛らわせ方を教えてくれたところ。 ○ 自分の経験を出しているところ。 ○ 康文さんの得意なことを知っているところ。 ○ 早く治るはずだと励ましているところ。 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 相手のつらい気持ちをしっかり受け止めることが基本にあること。 <input type="checkbox"/> 相手と同じ立場に立ってつらさを共有していること。 <input type="checkbox"/> 思いを伝えるために言葉を選んで使っていること。 <input type="checkbox"/> 言葉にふさわしい表情があること。 |
| (2) 君たちが康文さんに会ったら, どんな話し方, | <ul style="list-style-type: none"> ○ 実さんは意地悪だ。あんな言われ方をすると, むっとする。 ○ 俊成さんのように言ってくれる | <ul style="list-style-type: none"> ■ 実さんはどう言えばよかったのか, 考えてみよう。 ■ 佳織さんの言い方は, どうか? |

| | | |
|--------------------------------------|--|--|
| <p>接し方をするかな？・・・</p> | <p>と元気が出る。</p> <p>○佳織は強いね。でも、康文さんにはやさしい。</p> <p>○わたしが康文さんなら、久しぶりに学校に来て、友達から無視されるより、実さんみたいな言い方でも声をかけられたらほっとする。</p> | <p>■あなたが佳織さんなら、どんな態度を取るかな？</p> <p><input type="checkbox"/> ロールプレイ(役割演技)を取り入れる。</p> |
| <p>(3) みんなも思いやりのある言葉って何か、考えてみよう。</p> | <p>○失敗した時って、本当に優しい言葉がうれしいよね。</p> <p>○でも、そんな時色々いわれるのってなんだかいやだな。そっとしておいてほしい。</p> <p>○でも、無視されたようでほおって置かれるのもいやだし…。</p> <p>○思いやりを表すのって難しいな。</p> | <p><input type="checkbox"/> 思いやりのある言葉は、「自分なら、どうだろう」と考える態度から生まれること。</p> <p><input type="checkbox"/> 短い言葉にも、温かさが込められること。</p> <p>■思いやりのある日本語を色々な場面で見つけてみよう。</p> |

素 材 ②

元気のいい日本語

言葉と心は密接につながっている。日本語にも、周りの人を勇気付けたり、奮い立たせたり、元気付けたりする言葉や表現がある。どんなところでどんな表現が使われているのか、どんな言い方をすれば周りの人も自分も元気が出るのか、ここでは、元気のいい日本語を紹介している。

今、人と人とのつながりが希薄になっている。一人でいることには耐えられないが、かといって積極的に人とかかわりも持たず、インターネット上やゲームの延長線上での架空の友達付き合いでつかの間の満足を得ている児童・生徒が増える傾向にある。

日本語の持つ連帯感を誘発する力、自分の行動をはっきり自覚させる力、こうした言葉の力を取り上げ、実生活の中で使っていくことで語彙を増やすことはもちろんであるが、それ以上に人とかかわりに活かす言葉の学習に活用していきたい。

学習の窓(総合的な学習に関連させて)

祭り

地域の祭りを調べてみよう。どんなかけ声が使われているのかな？

その祭りは、いつ頃から何のために行われてきたのだろう。

消防訓練

地域防災のためにどんな日常的な活動が、どんな人たちによって行われているのだろう？

自分たちにできること、日頃から注意しなくてはならないことはどんなことがあるのかな。

魚市場・魚屋・寿司屋

商売(職業)によって独特の言葉や言い回しがある。その仕事ならではの言葉を探してみよう。その理由を考えたり、実際に使っている人に尋ねてみよう。

1. 場面設定の取り扱い

| 場面 | 設定 | 取り扱いのポイント |
|---------------|---|---|
| ① プロローグ | <ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターが、祭礼・消防訓練の場面から、「威勢のよさ」、「活気」、「緊張感」を伝える。 ・キャラ登場 どんな話し方や言葉を元気がいいと感じるのだろうか？ | <ul style="list-style-type: none"> ○「こんどはなんだろう」という興味を持たせる。 ○「元気のいい日本語」へといざなう。 |
| ② 元気のいい光景 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の体育館 チアリーダー ・野球場 少年野球 ・キャラ登場 「うーん、みんな力を合わせて元気がいいね。」 | <ul style="list-style-type: none"> ○声をそろえることが気持ちをひとつにすることに通じること。 ○応援は、思いきり大きな声で 味方への掛け声 励ます声 |
| ③ 威勢のいい売り声 | <ul style="list-style-type: none"> ・魚市場 セリの様子 セリ人の説明 ・町の商店街 魚屋 寿司屋 | <ul style="list-style-type: none"> ○特別な売り声 扱うものによって声に違いがあることに気付くこと。 その場の勢いや雰囲気盛り上げるのに声 が果たす役割が大きいこと。 |

| | | |
|-------------------|---|--|
| ④ てきばぎとした作業の指令 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 海上保安学校 海洋訓練の様子 ・ キャラ登場 「作業の指令はみんな短い言葉なんだね。」 ・ 教官の解説 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 独特の言葉があること 「体操かかれ！」 「かい用意！」「前へ！」 「ボートフック注意！」 ○ 的確な言葉・簡潔な言葉や表現の機能性を理解すること。 ○ 復唱の意味を理解し、自分たちの生活に活かすこと。 |
|-------------------|---|--|

2. 児童・生徒たちの反応と教師の支援

| 発 問 | 予想される反応 | 教師の支援 |
|---|--|--|
| (1) どんな言葉や話し方を、元気がいいと感じるのかな。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 大きな声 ○ 短い言葉 ○ 全部は言わないで省略している ○ みんなで一斉に声をそろえて言う うと力強く感じる ○ 歯切れ良く ○ 息をぱっと吐くような感じで | <ul style="list-style-type: none"> ■ いくつかの場面を思い出してみよう。 祭り 消防訓練 体育館 野球場 魚市場 商店街 海洋訓練 |
| (2) みんなの生活の中で元気のいい表現だなあと思った場面を思い出してみよう。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動会の応援合戦 ○ 夕方の商店街（デパートの食料品売り場） ○ 号令 ○ 試合のはじめにするあいさつ | <ul style="list-style-type: none"> □ ビデオから誘発されて自分の言語生活に目を向けること。 |
| (3) どんな時、元気のいい話し方が必要なのだろうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 励ましたいとき ○ 勢いを付けたいとき ○ 人をその気にさせるとき ○ 危険が迫っているとき ○ うれしさを表すとき ○ 気持ちを一つにしたいとき | <ul style="list-style-type: none"> □ 本来なら元気でよく表現してほしい場面を見つけること。 |
| (4) 今度はもっと元気でよく表現した | <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝のあいさつ 勢いを付けて一日を始めたいから | <ul style="list-style-type: none"> ■ どうして元気でよく表現した方がよいと考えるのか、理由も発表 |

| | | |
|-------------------------|---|---|
| <p>方がいいなあと思うことはないか。</p> | <p>○ 号令 気持ちを一つにするためにかけることが多いから。</p> <p>○ 「ありがとう」とか「よかったね」とか「だいじょうぶ」などの言葉うれしさが伝わるから。</p> | <p>してみよう。</p> <p><input type="checkbox"/> 自分たちの生活に取り入れていく姿勢を評価すること。</p> |
|-------------------------|---|---|

素 材 ③

表情豊かな日本語

日本人は国際舞台に出たとき、表情が乏しく、何を考えているのかよくわからないという外国人の声を聞く。日本が島国であり、様々な言語を使用する人々が集まっている国々と比べ、日本語だけで通じるという特色、また、感情を押さえた文化、能や歌舞伎のような様式で表現する文化や茶道華道といった侘び寂びの文化が発達したこともその原因の一つかもしれない。

こうした日本の文化や伝統、歴史を受け継ぎ守り育てることは、日本人として大切な営みである。また一方で、21世紀を生きる児童・生徒に国際社会に通用する表現力を育成することも重要な教育の役割である。

日本語がもつ表情の豊かさ、それを表現する技能を古典芸能から、また、現代の表情豊かな日本語の達人から、楽しくたっぷり学べるように工夫した素材を活用してほしい。

学習の窓(こんな学習につなげることも…)

・他の落語も聞いてみよう

・各地に伝わるとんち話や笑い話を落語風に語ってみよう

話を採取 お年寄りに聞いたり、図書館や郷土資料館で調べたりする。

脚本を書く 落語風に工夫して

語りを練習する テープに撮ったり、ビデオに撮ったりして見合う。

演芸会を開く 出囃子の作曲や演奏

高座の設定

特徴的な字体のプログラム制作

小道具(扇子・座布団)などの準備

招待客への案内状



④ 場面の設定と取り扱い

| 場面 | 設定 | 取り扱いのポイント |
|---------------|---|---|
| ① 落語の高座 | ・落語家による落語「饅頭怖い」。 | ○学年によってはある程度の補足説明があってもよい。 ○いったい何人の人が登場しているのか考えながら視聴することも有効。 ○口調や表情、身振り手振りの表現効果に気付かせる。 |
| ② 落語家の実演 | ・パラ言語や非言語行動が伝える意思や意図に気づき、話し言葉の達人の存在を知る。 ・キャラ登場 どんな気持ちが変わりますか？ | ○児童・生徒が自分で考える間がとってある。一時停止させるなどして予想させる。 ○声の表情を意図的におさえた表現もある。 |
| ③ アニメのスタジオ | ・実際にキャラクターの声を担当している声優が登場 | ○聞く人が楽しくわかりやすく感じるようないろいろ声の調子を変えている。 ○声優の本来の声と比較して聞いてみる。 |
| ④ 朗読室 | ・携帯電話（実写） 気象情報の電話の声（177） ・視覚障害者への朗読ボランティア | ○情報を正確に伝えるための表現の仕方。 ・大きくなければ小さくもない ・強くなければ弱くもない |
| ⑤ エンド | ・キャラ登場 おしまいについて問題を出すね。「なにやってるの？」 さあ、みんな考えてみてよ。 | ○今までのまとめ。 ○学級みんなで考えてみる。 ○何度も繰り返して聞けるように配慮するとよい。 |

2. 予想される児童・生徒たちの反応と教師の支援

| 発問 | 予想される反応 | 教師の支援 |
|----------------------------|--|---|
| (1) どうして落語家は一人で何人も演じられるのか。 | ○たくさん修行しているから。 ○あっち向いたりこっち向いたり、顔の向きで二人を演じわけている。 ○声も、高くしたり、低くしたりしている。 | <input type="checkbox"/> 耳で聞いて分かる演じ分けと、目で見て分かる演じ分けがあること。 <input type="checkbox"/> 両方があるより有効に働いていること。 |

| | | |
|--|--|---|
| | <p>○ 速く話したりちょっとゆっくり話したりしている。</p> <p>○ 人によって使う言葉も違っている。</p> <p>○ 顔がよく動いている。目が上がったり下がったり顔がよく動いている。</p> <p>○ 本当に食べているみたい。パントマイムがうまいから。</p> | <p>■ 音声を消して視覚だけで見てみる。</p> <p>■ 逆に目を閉じて聴覚だけで聞いてみる。</p> |
| <p>(2) 演習 1</p> <p>みんなも一緒に考えてみよう。 「そうですか」</p> | <p>○ 感心しているみたい。</p> <p>○ なるほどそうなのか・・・という感じがする。</p> <p>○ ほっとおいてよ。自分には関係ないよっていう感じがする。</p> <p>○ まあ、どうでもいいけどっていう感じがする。</p> <p>○ 嘘でしょう。そんなはずないよって感じがする。</p> <p>○ ああ、つまらない。がっかりという感じがする。</p> <p>○ ????</p> | <p>□ 文字で書くと同じ「そうですか」でも、声の表現の仕方ですぐぶん違うこと。</p> <p>■ それぞれの「そうですか」の気持ちを補う言葉を付け足して発表してみる。</p> <p>□ 声の表情をおさえた表現があること。</p> |
| <p>(3) 演習 2</p> <p>みんなも一緒に考えてみよう。 「何やってるの」</p> | <p>○ 何やってるのか教えて。</p> <p>○ いつまでも何やってるの。ふざけてるんじゃないわよ。</p> <p>○ 何やってるの。こんなこともできないなんて。</p> | <p>■ 質問する感じ</p> <p>■ 叱責する感じ</p> <p>■ からかっている感じ</p> <p>□ この他にも言い方によって伝わる意味が違ってくる言葉があること。</p> |

素 材 ④

想像がふくらむ日本語

言葉の学習が、無味乾燥になりがちなのは、学習者の思いが置き去りにされ、言葉の規則性が強調されることもその一因である。もちろん言葉の規則性を学習することも大切である。しかし、一方で言葉を豊かにすること、一つの言葉から様々な想像をふくらませ、自分なりの彩色を施して言葉の世界を縦横に遊ぶ楽しさを体験することも、大切な学習である。

「想像がふくらむ日本語」では、読み手の自由な想像を誘発しやすい詩をとりいれた。正解はない。児童・生徒一人一人に自分の世界を言葉とたわむれながら創り出す楽しさを満喫させたい。そして、日本語のリズムを堪能するなかで日本語の魅力を感じとり、新しい言葉の世界

界を開拓する芽を育てていきたい。

学習の窓(ことば遊びで言語感覚を磨いて)

ことば遊び

・喜怒哀楽を表現してみたら・・

例えば 「うれしさ」
 飛び上がるほどうれしい
 涙が出るほどうれしい
 死ぬほどうれしい
 信じられないほどうれしい

- どんな違いがあるのだろうか
- 文学作品の中から同様の表現を探して比べてみよう
- 自分の日記や作文に活かして使ってみよう

・数え歌で遊んでみたら・・

数え歌を見つけてこよう
 節を付けて唱えてみよう
 オリジナル数え歌を作って歌おう

1. 場面の設定と取扱い

| 場面 | 設定 | 取り扱いのポイント |
|-------------|--|---|
| ① 詩 A | まど・みちお「あめ」 繰り返し出てくる「あめ」 絶え間なく降り続ける「あめ」 | ○ 耳からの情報で、どんな雨が降っているのか、どんな空の様子なのか自由に想像する。 |
| ② 詩 B | 谷川俊太郎「かずかぞえ」 リズム感のあるバックミュージック 様々な数字が飛び出す背景 | ○ 手拍子を取ったり、体を自由に動かしたりしてリズムを楽しむ。 |
| ③ 詩 C | まど・みちお 「ふわりうかんだしゃぼんだま」 ちいさなわたしがのっている | ○ シャボン玉のどんな情景を歌ったものなのか。自分の経験を思い出しながら想像してみる。 |

2. 児童・生徒の反応と教師の支援

| 発問 | 予想される反応 | 教師の支援 |
|----------------------------|---|--|
| (1) いったいどんな雨なのかな？ | <input type="radio"/> 何度も繰り返しているから、ずっと降っている雨。 <input type="radio"/> 空が顔を洗うぐらいの土砂降り。 <input type="radio"/> ぱつとやんで青空になるから夕立かな。 <input type="radio"/> 全体が何となく明るい感じ。 | <input type="checkbox"/> 児童・生徒の自由な想像を妨げないこと。 <input type="checkbox"/> 擬人法や繰り返し、対句といった詩の表現技法に深入りしないこと。 |
| (2) 自分の好きなリズムで節を付けて読んでみよう。 | <input type="radio"/> 楽しい。 <input type="radio"/> すぐに覚えられるよ。 <input type="radio"/> ほかにも作れそう。 <input type="radio"/> 自然に体が動いちゃう。 | <input type="checkbox"/> ふしをつけたり、合いの手を入れたり、木魚や太鼓の打楽器と組み合わせたりして自由に楽しむこと。 <input checked="" type="checkbox"/> 韻を踏んでいることに気付くと創作に役立つ。 |
| (3) どんな情景か想像してみよう。 | <input type="radio"/> ふーっと吹くと次々に出てきたな。 <input type="radio"/> 周りの景色が映ってきれいだったな。 <input type="radio"/> 顔もまん丸く映ってたよ。 | <input type="checkbox"/> 自由に想像する中で、使われている言葉の適切さに気付かせること。 |

(興水 かおり)

国立国語研究所ことばビデオ
ことば探検・ことば発見
解説書
 2001年3月
 編集・発行
 © 国立国語研究所
 〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
 TEL 03-3900-3111 (代表)
 URL <http://www.kokken.go.jp/>

国立国語研究所

こどもビデオ

